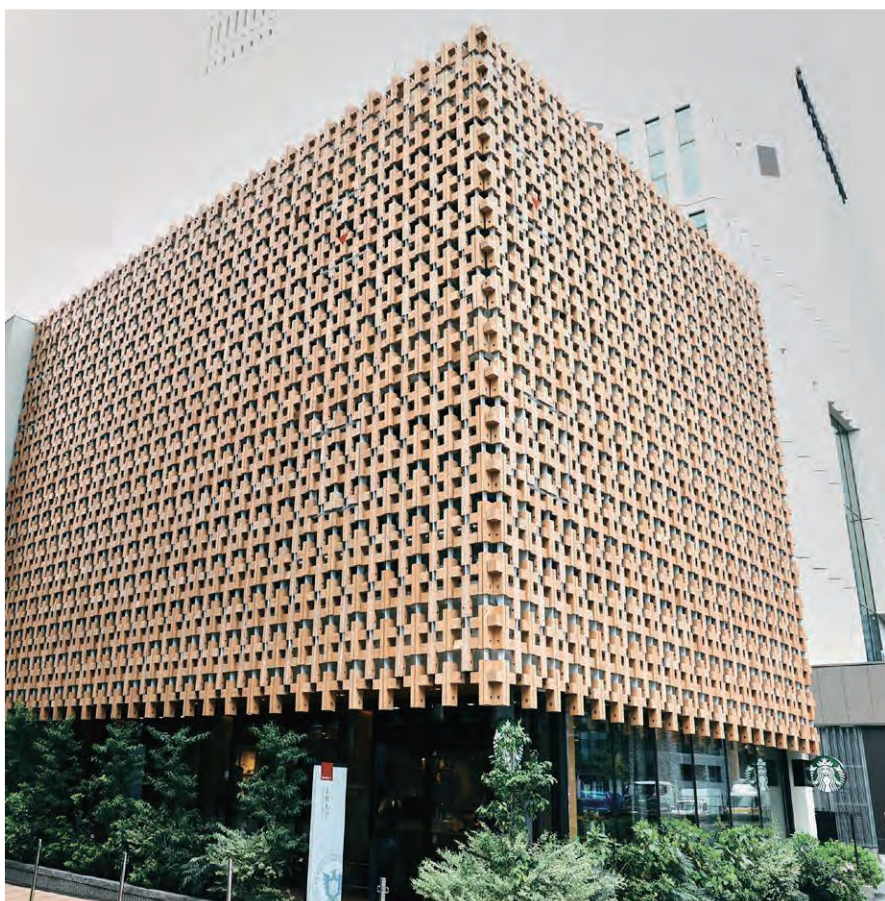
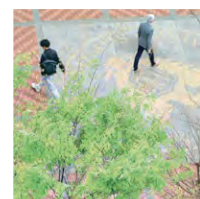
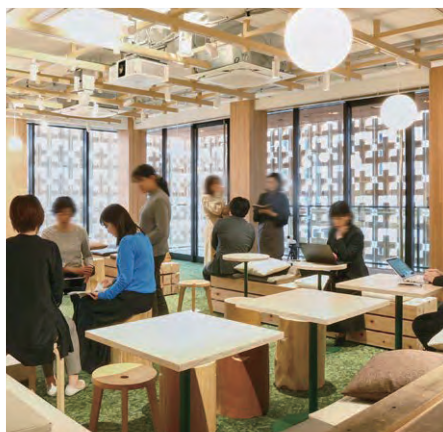




学校法人 上智学院
SOPHIA SCHOOL CORPORATION

SOPHIA
100TH
ANNIVERSARY



事業報告書

SOPHIA ANNUAL REPORT 2023

目 次

法人の概要

組織図	3
役員・設置学校等	4
沿革	5
中長期計画「グランド・レイアウト3.0」	
および「2023年度事業計画」進捗報告	6
全学的トピックス	9

高等教育部門

施設等の状況	17
上智大学	
教職員数等	18
学生数	19
2023年度実施入試（2024年度入学）	21
卒業・修了者数等	23
進路／就職	24
国家試験・資格等	25
国際交流	26
学生納付金	29
奨学金	31
研究・知的財産等	32
事業の概要	33
上智大学短期大学部	
教職員数等／学生数	39
2023年度実施入試（2024年度入学）／卒業生数等／進路	40
就職／国際交流	41
学生納付金／奨学金／事業の概要	42

中等教育部門

栄光学園中学高等学校	43
六甲学院中学校・高等学校	45
広島学院中学校・高等学校	47
上智福岡中学高等学校	49

財務の概要

学校法人会計基準について	51
2023年度決算の概要	52
2023年度特別予算執行報告	57
財務比率の推移	58
資産運用の状況	60
収益事業の状況	61
その他	62
経営状況の分析等	64

学校法人上智学院が展開する主な事業会社	65
---------------------	----

はじめに



学校法人上智学院 理事長

アガスティン サリ

まず、2024年1月1日に発生した能登半島地震において被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。その被害の大きさから、復興に向けての道は残念ながら非常に長いものとなりますが、引き続き募金活動による支援や学生ボランティアの派遣支援、復興にあたっての研究面の貢献等を通じて、復興における一助を担ってまいります。

2023年は、上智大学創立110周年ならびに上智大学短期大学部創立50周年という節目を迎える年となりました。上智大学では110周年を記念したロゴの募集や学生食堂での記念メニューの提供など1年を通して様々なイベントを開催し、学生と教職員がともに110周年を祝いました。短期大学部では12月に創立50周年記念式典を挙行し、秦野市長を始め、ソフィア後援会、短期大学部ソフィア会、聖マリア修道女会、関係企業等の皆様にご列席を賜りました。短期大学部については、残念ながら2024年度入試（2023年度実施）をもって募集を停止いたしました。最後の卒業生を送り出すまで、これまでと変わらず学生の学びを支援してまいります。

2023年の記念すべき出来事としては、上智大学の石澤良昭教授を中心とするチームが33年にわたり取り組んできたカンボジアのアンコール・ワット西参道の修復工事が完了し、国家行事として祝賀式典が挙行されたことが挙げられます。関係者一堂による渡り初め式を経て、西参道は現在一般公開されています。今後も西参道の定期的保守管理やカンボジア人遺跡保存官の人材養成支援を継続いたします。

このほか、これまでバリアフリー化とサステナビリティをコンセプトに取り組んできた四谷キャンパス外構工事が2023年度をもって完了しました。メインストリートや北門の改修に加え、上智学院サステナビリティ推進本部の学生職員との協働によって、9号館中庭が環境と防災に配慮した新たな学生スペースとして生まれ変わり、多くの学生に利用されています。

また、2023年度からは本学院の新たな中長期計画「グラウンド・レイアウト3.0—2030に向けて—」（以下、GL3.0）が始動いたしました。GL3.0では、各部門で策定した計画の中からDXやサステナビリティ推進等の重要課題を整理しまとめた「10のコミットメント」を策定し、具体的な行動計画を進めております。各設置学校と法人部門は、2030年までの8年間でこのGL3.0の実現を目指し、教育、研究、社会貢献に関わる様々な計画に取り組んでまいります。

世界情勢は依然として不安定な状況が続いており、特にガザ紛争やロシアによるウクライナへの軍事侵攻は終息の兆しが見えない状況にあります。これらの事態に対しても、私たちはイエズス会教育機関としての役割を果たすべく、引き続き努力してまいります。

今後ともご関係の皆様から温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

上智学院各設置学校共通の教育精神

「他者のために、他者とともに (For Others, With Others)」生きる人の育成

上智学院の各設置学校では「他者のために、他者とともに (For Others, With Others)」生きる人の育成という教育精神に基づき、キリスト教ヒューマニズムに立脚した教育、研究、社会貢献・国際貢献を展開して参ります。「上智」という名称は、伝統的なカトリックの祈り「聖母マリアの連祷」の中の一句である「上智の座」に由来し、「最上の叡智」を意味します。

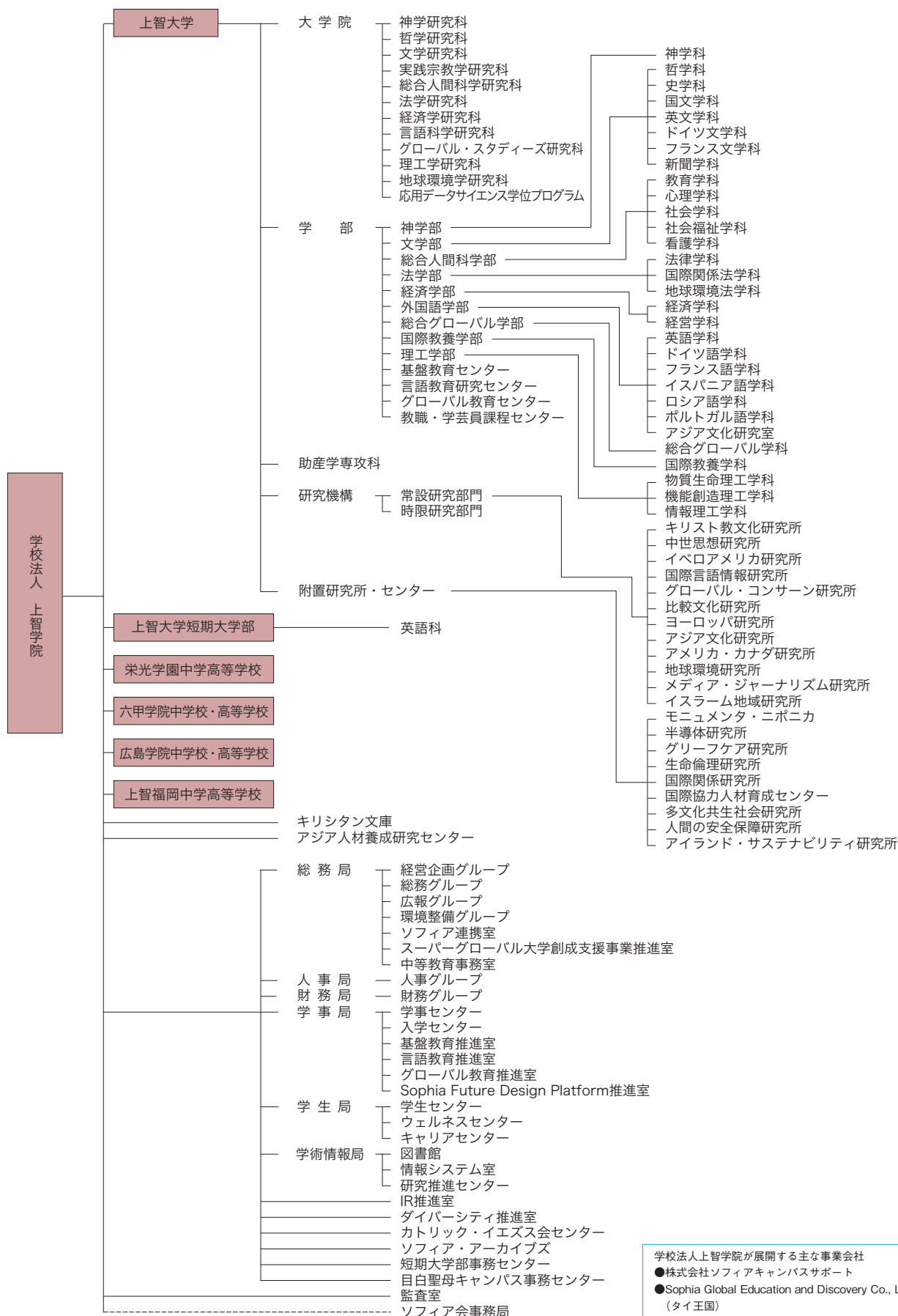
組織図

法人の概要

高等教育部門

中等教育部門

財務の概要



役員・設置学校等

理事 (定員13人以上15人以内)

(2024年3月31日現在)

役職	氏名	就任日 ^(注1)	主な現職	備考 ^(注2)
理事長・イエズス会高等教育担当理事	アガスティン サリ	2023. 5. 1	上智大学教授	業・保
イエズス会中等教育担当理事	李 聖一	2016. 4. 1		業・保
総務担当理事	大塚 寿郎	2023. 7. 1	上智大学特別契約教授	業・保
人事担当理事	矢島 基美	2023. 4. 1	上智大学特任教授	業・保
財務担当理事	舌津 一良	2013. 1. 1		業・保
グローバル化推進担当理事	ブテンカラム ジョンジョセフ	2016. 2.29	上智大学特別契約教授	業・保
経営企画担当理事	引間 雅史	2017. 2. 1	上智大学特任教授	業・保
理事	嘩道 佳明	2017. 4. 1	上智大学長、同大学教授	業・保
	山本 浩	2016. 4. 1	上智大学短期大学部学長、同短期大学部特任教授	業・保
	望月 伸一郎	2021. 4. 1	栄光学園中学高等学校校長、同大学教授	業・保
	高橋 純雄	2022. 4. 1	六甲学院中学校・高等学校校長、同校教諭	業・保
	堀田 健介	2005. 5.14	株堀田総合事務所会長	非・責・保
	木村 増夫	2021. 4. 1		業・保
	崎川 茂郎	2014. 4. 1	中部大学客員教授	非・責・保
	山下 まち子	2016. 4. 1	学聖心女子学院理事・評議員	非・責・保

監事 (定員：2人以上4人以内)

(2024年3月31日現在)

役職	氏名	就任日 ^(注1)	主な現職	備考 ^(注2)
監事	渡部 博	2023. 6. 1	公認会計士	非・責・保
	寺田 勇文	2022. 4. 1	学清泉女子大学理事	非・責・保
	金子 泰輔	2011. 6. 1	弁護士	非・責・保
	萱場 基	2016. 4. 1	学雙葉学園理事長	非・責・保

学長・校長

(2024年3月31日現在)

役職	氏名	就任日
上智大学学長	嘩道 佳明	2017. 4. 1
上智大学短期大学部学長	山本 浩	2013. 9.13
栄光学園中学高等学校校長	望月 伸一郎	2015. 4. 1
六甲学院中学校・高等学校校長	高橋 純雄	2021. 4. 1
広島学院中学校・高等学校校長	中間 哲也	2022. 4. 1
上智福岡中学高等学校校長	船橋 巖	2022. 4. 1

(注1) 就任日は、現在に至る就任期間の最初に就任した年月日を記載 (注2) 非=非常勤、業=業務執行理事、責=責任限定契約締結、保=役員賠償責任保険^(※)対象

※役員賠償責任保険の概要

2020年4月の私立学校法改正に伴い、2020年度以後、役員賠償責任保険に加入している。この保険は、学校法人の役員(被保険者)が役員として行った業務に起因して損害賠償請求を受けた場合に、被保険者が法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害に対して、保険金を受け取ることができるものである。被保険者の範囲は、役員、評議員及び管理職従業員。支払限度額は20億円。

設置学校・所在地

(2024年3月31日現在)

設置学校	学部・学科・研究科等	所在地
上智大学	- 神学部、文学部、総合人間科学部、法学部、経済学部、外国語学部、総合グローバル学部、国際教養学部、理工学部 - 神学研究科、哲学研究科、文学研究科、実践宗教学研究科、総合人間科学研究科、法学研究科、経済学研究科、言語科学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、理工学研究科、地球環境学研究科、応用データサイエンス学位プログラム	四谷キャンパス 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
	総合人間科学部看護学科、助産学専攻科	目白聖母キャンパス 〒161-8550 東京都新宿区下落合4-16-11
	神学研究科	石神井キャンパス 〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-11
	(グラウンド)	秦野キャンパス 〒257-0005 神奈川県秦野市上大槻山王台999
	(グリーンフケア研究所人材養成講座等を開講)	大阪サテライトキャンパス 〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎3-12-8 スクラファミリア2階
上智大学短期大学部	英語科	秦野キャンパス 〒257-0005 神奈川県秦野市上大槻山王台999
栄光学園中学高等学校		〒247-0071 神奈川県鎌倉市玉縄4-1-1
六甲学院中学校・高等学校		〒657-0015 兵庫県神戸市灘区篠原伯母野山町2-4-1
広島学院中学校・高等学校		〒733-0875 広島県広島市西区古江上1-630
上智福岡中学高等学校		〒810-0032 福岡県福岡市中央区輝国1-10-10

沿革

1549年（天文 18 年）	聖フランシスコ・ザビエル来日
1906年（明治 39 年）	教皇ピオ10世のカトリック大学設立の要請とイエズス会の受諾
1908年（明治 41 年）	3人のイエズス会士来日
1911年（明治 44 年）	財団法人上智学院設立
1913年（大正 2 年）	専門学校令により上智大学開設（哲学科、独逸文学科、商科）
1928年（昭和 3 年）	大学令による上智大学開設（文学部、商学部）
1932年（昭和 7 年）	専門部開設、1号館竣工、福岡カトリック神学校開校（1936年に泰星中学校に改称）
1937年（昭和 12 年）	ソフィア会（同窓会）設立、財団法人六甲中学校設立（1950年に学校法人六甲学院に変更）
1938年（昭和 13 年）	六甲中学校開校
1946年（昭和 21 年）	公開講座開講（ソフィア・コミュニティ・カレッジの前身）
1947年（昭和 22 年）	新制六甲中学校・高等学校発足、栄光中学校開校（1949年に栄光学園中学校に改称）
1948年（昭和 23 年）	新制大学開設（文学部、経済学部）、泰星高等学校開校
1949年（昭和 24 年）	国際部（現在の国際教養学部の前身）設置
1950年（昭和 25 年）	真田濠グラウンド開場、栄光学園高等学校開校
1951年（昭和 26 年）	私立学校法による学校法人上智学院設立、学校法人泰星学園設立 新制大学院開設（神学研究科、哲学研究科、西洋文化研究科、経済学研究科）
1956年（昭和 31 年）	学校法人広島学院設立、広島学院中学校開校
1957年（昭和 32 年）	法学部開設、上智大学に女子学生の受入を開始、学校法人栄光学園設立
1958年（昭和 33 年）	神学部、外国語学部開設
1959年（昭和 34 年）	広島学院高等学校開校
1962年（昭和 37 年）	理工学部開設
1964年（昭和 39 年）	上智大学社会福祉専修科開設
1966年（昭和 41 年）	法学研究科、理工学研究科開設、西洋文化研究科を文学研究科に改組 上智大学社会福祉専修科を上智社会福祉専修学校に改組、上智短期大学ソフィア会（同窓会）発足
1970年（昭和 45 年）	外国語学研究科開設
1973年（昭和 48 年）	上智短期大学開設
1975年（昭和 50 年）	外国語学部に日本語・日本文化学科を増設（1977年に比較文化学科に改組）
1976年（昭和 51 年）	上智社会福祉専修学校を上智社会福祉専門学校に改組、ソフィア・コミュニティ・カレッジ（社会人講座）開講
1980年（昭和 55 年）	ホフマン・ホール竣工、国際部廃止
1984年（昭和 59 年）	中央図書館・総合研究棟の開館
1987年（昭和 62 年）	比較文化学部開設
2004年（平成 16 年）	法学研究科に法曹養成専攻（法科大学院）を増設
2005年（平成 17 年）	総合人間科学部、総合人間科学研究科、地球環境学研究科開設、2号館竣工
2006年（平成 18 年）	比較文化学部を国際教養学部へ改組、グローバル・スタディーズ研究科開設
2007年（平成 19 年）	経済学研究科を改組
2008年（平成 20 年）	理工学部・理工学研究科を改組
2011年（平成 23 年）	学校法人聖母学園との法人合併（聖母大学、聖母看護学校を併設） 総合人間科学部に看護学科を増設・総合人間科学研究科に看護学専攻を増設 泰星中学高等学校から上智福岡中学高等学校に改称
2012年（平成 24 年）	上智短期大学を上智大学短期大学部に改称、上智大学祖師谷国際交流会館開設
2013年（平成 25 年）	上智大学創立100周年、上智短期大学創立40周年、上智社会福祉専門学校創立50周年
2014年（平成 26 年）	総合グローバル学部開設、聖母大学閉校
2015年（平成 27 年）	助産学専攻科開設
2016年（平成 28 年）	学校法人上智学院、栄光学園、六甲学院、広島学院、泰星学園との法人合併 実践宗教学研究科開設、外国語学研究科を言語科学研究科に改称、聖母看護学校閉校 六甲中学校・高等学校から六甲学院中学校・高等学校に改称
2017年（平成 29 年）	6号館（ソフィアタワー）竣工
2019年（平成 31 年）	上智大学アルベ国際学生寮開設
2020年（令和 2 年）	ソフィア・コミュニティ・カレッジ（社会人講座）閉講
2022年（令和 4 年）	上智社会福祉専門学校閉校、15号館竣工
2023年（令和 5 年）	応用データサイエンス学位プログラム開設

中長期計画「グランド・レイアウト3.0」および「2023年度事業計画」進捗報告

コロナ禍を経て、当初予定より1年前倒しで策定した新たな中長期計画「グランド・レイアウト3.0 (GL3.0)」(2023年度～2030年度)が2023年度より始動いたしました。これまでの11検討専門委員会での中長期計画推進体制を学校ごとの4部門に変更し、部門共通の基本理念と3つの方針のもと、各部門で計画を策定し、実行しております。

2023年度に初年度を終えたGL3.0のアクションプランと2023年度事業計画の進捗状況を各部門で振り返りました。

GL3.0本文および2023年度事業計画は上智学院ウェブサイトをご覧ください。

【GL3.0】https://www.sophia-sc.jp/info/grand_layout/layout3.html 【事業計画】<https://www.sophia-sc.jp/info/gakuin.html>

部 門	GL3.0におけるアクションプランと事業計画の進捗状況 (2023年度)
大学部門	1. グローバルな視野とローカルな視点で他者に寄り添い、未来を創るSophianの育成 正課における学修時間や学びの深さの確保等のカリキュラム再構築は長年の課題であり、2023年度は、分科会や小委員会での検討を進めた。また、社会情勢をふまえ、オンデマンド教育やオンラインの更なる活用策も、今後、大学だけではなく法人全体で検討する必要がある。 社会人を対象としたプロフェッショナル・スタディーズは順調に進んでおり、更に担当部署設置 (SFDP推進室) により運営体制を強化することで、新たな公開講座である「上智地球市民講座」やアントレプレナーシップ養成講座等、2024年度からの新たな取り組み開始へ繋がった。 また、学生の「学びのデザイン」の確立に向けて、学生向けの手引き作成を進めると共に、セルフ学修ポートフォリオの活用も広がった。実践型プログラムや留学制度は、海外大学との協定の整理を行いながら、情報収集を行っており、今後の展開を考えていく。 加えて、SSIC^(*)の活動、寮や地域と連携した課外教育プログラムについては、いずれも学生の満足度が高く、2030年までの目標としていた指標を既に一部達成している (SSICや課外教育プログラムは満足度90%以上)。ボランティアやSDGsといった本学の教育精神に通じる課外活動が活発化しているのも、特徴の一つである。 (*) SSIC : Sophia Student Integration Commonsの略 2. グローバル社会に貢献する世界水準の研究の推進・拠点の確立 2023年度は研究支援体制の強化として、研究推進センター内に新たなチームを新設し、大学主導型の研究補助事業への申請体制の強化を図り、申請3件 (J-PEAKS、SPRING、BOOST)、採択1件 (SPRING) につながった。加えて、URA (University Research Administrator) チームの立ち上げに向け、URAの新規採用に向けた学内制度を検討し、募集活動を開始した。2024年度から新たに3名のURA配置の目的が立ち、本学でのURAチームの本格稼働に向けた準備が進展した。 研究不正防止・安全保障貿易管理・利益相反など、研究コンプライアンス対応に関しては、継続的に推進しているが、研究の国際化やオープン化に伴う、研究データマネジメントポリシー策定や、学内研究制度の見直しなど、研究インテグリティへの新たな取り組みは、次年度以降の課題となっている。 また、レピュテーション強化に向けては、国際ジャーナルの発表論文に関する日英プレスリリースのタイムリー発信の仕組みを整え、2023年度から本格的に稼働したが、直接的な効果はまだ出ていない。研究拠点の確立、国際共著論文の被引用数の増加などを含めた、研究力強化およびレピュテーション向上への対応策は、今後も全学的に検討する必要がある。 3. サステナビリティを高水準で実現するグローバル・ワンキャンパスの確立 コロナ禍を経て、対面で実施する様々な学生支援・課外教育プログラムが再開し、学生の満足度も高い状態にある。進路選択や就職支援の満足度は80%を超え、2030年までの目標指標を既に達成した。また、ウェルネスセンターの運用も本格化し、「なんでも相談窓口」の開設など近年多様化する学生の支援強化を進めている。更に、サステナビリティ推進本部においては、学生職員が環境共生や防災意識向上を企図した9号館アクティブ・commons屋上庭園の開設構想に携わったり、またその活動成果を環境の総合展示会「エコプロ2023」で公表したりするなど、大学の学内外で各種活動を積極的に牽引している。すべての構成員が安心して学び、働くことができる環境の実現に向けて、ハラスメント対策委員会事務局やウェルネスセンター等が、教職員・学生向けのセミナーや研修を増やし、構成員全体の意識啓発を図っている。 奨学支援は、大学院生や留学生、メリットベースでの運用を重視する方針にて引き続き行っており、2023年度は3つの奨学金を新設した。また、ウクライナからの留学生支援も継続している。 システム面での注力事業と位置付けていた、旧CALL教室更新やデータセンター移転は、次期計画の前倒しも行い完了した。一方で一部の事業 (有線DHCPサーバ更新など) は、業務負荷増加および実現性の具体化が見られないため延期し、将来事業として次年度以降着実に実施していく。また、学生相談予約システムや学修ポートフォリオの導入や利用部署の拡大などを図ることで、学生の利便性や満足度の向上、業務負荷の軽減を図っている。 4. グローバル社会および多様なステークホルダーとの連携強化 2023年度は、ソフィア会との連携によるキャリアガイダンスを実施し、また近隣機関と連携した各種企画へ参画した (麹町消防署との防災WEEK、株式会社あおぞら銀行・千代田区との合同清掃、各種セミナー実施など)。更に、学生向け調査を増やし、より学生のニーズや意向を酌むなどレピュテーション強化に向けた取り組みも進めている。 学びの接続の一つとして、副学長・入学センター長による戦略的な高校訪問・アプローチを進めた。一方で、入試制度の見直しに関しては、既に全学的な議論を開始しているが、継続して実施体制を含めた検討を行ってきたい。 また、カトリック・イエズス会大学と連携した新たな学生交流プログラムを開始するなど、様々なステークホルダーとの連携を図りつつある。既存プログラムを充実させ、本学の学生ボランティア活動との連携を図ったり、難民支援をテーマとしたイベントや交流会を実施したりするなどして、本学としての独自性を高めている。

部 門	GL3.0におけるアクションプランと事業計画の進捗状況（2023年度）
大学部門	5. 持続的発展を力強く支える組織、財務基盤の確立 人件費にかかわる特例財源を戦略的に活用し、主にグローバル化推進、研究力向上に資する職員組織の充実を図った。大学設置基準改正を見据えて、学内に複数のワーキンググループやタスクフォースを設置し、グラント・レイアウト3.0に基づく大学が取り組む構想実現に向けた議論を開始した。グラント・レイアウト2.1から継続して検討課題になっている教学組織の適正化や開講科目数の見直し、教員の多様性の実現等、2024年度以降も継続して検討していく。 学長による本学卒業生および企業経営者への積極的な訪問を強化し、本学の取り組みに共感していただく機会を設けた。これを2024年度も継続し、本学の取り組みへの理解と協力を求め、寄付による支援を働きかけていく。また、大学全体および学部・研究科等の戦略、大学全体の人員配置、法人としての人件費管理等の観点からの教員の採用・配置や資金配分のあり方・プロセスに係る総合的な検討等については、今後も対応する。
短大部門	秦野市との連携事業である地域社会の課題解決を目指すサービスラーニング活動は、新たな一歩を踏み出した。これまでは学生が秦野市内の各小学校に赴き外国語（英語）教育活動を行ってきたが、2023年度からは秦野市が手配したチャーターバスで、児童たちが秦野キャンパスを訪れ、校外学習としての活動を行っている。学生たちはキャンパス全体を使いながら、授業で培った多文化理解の理念を反映したLESSンプランで活動に工夫を凝らし、市内各校とその児童たちからは高い評価を得ている。 2024年3月に卒業した学生のTOEICスコアは、入学から2年間で100点以上向上した者が73.4%にものぼった。卒業時に実施したアンケート結果でも、短期大学部での学びによって獲得した英語力についての各質問に8割から9割の学生が肯定的な評価を示した。 進路に関するキャリア講座への出席率は50%程度に留まるが、これに参加した学生の進路決定率は高い数字となっている。具体的には就職希望者の97%、編入学希望者の88.4%が希望の進路を実現している。卒業生全体の進路決定率は75.5%だが、今後も学生たち一人ひとりが自らの目標に向かって進めるよう、キャリア講座への積極的な参加や個別面談の活用を呼びかけていく。課題として例年学生の中に、就職や編入学などの進路を目指さない者が一定数存在しているため、大学から直接声をかけ指導を徹底していく。 外部アンケートで不足していると指摘された学生の読解力、文章力、プレゼンテーション力については、特に必修科目での学びを充実させることによって向上を図っている。
中等教育部門	【栄光学園】 全体としては、アクションプランに沿って概ね良好に事業を進めており、栄光学園内で取り組むべき事項については、それぞれの担当部署で適切に遂行した。また、上智大学を含めた他の部門との連携にはまだ課題はあるが、現状では校内での業務に追われており、他部門との連携のために時間を割くことは難しい。一方で、主に上智大学の多様なリソースを活かす道への模索は継続すべきである。校内の課題の中では、教職員の働き方についての取り組みが、今後もかなり時間を要すると思われるものの、地道な取り組みはできている。 【六甲学院】 六甲学院の伝統的な行事である中間体操・トイレ掃除・体育祭総行進は、現代の社会的な情勢をふまえ、多様性を尊重し一人ひとりの思いを大切に方向で、その実施方法を変更した。また、研修旅行の充実化を図り、6月に高校2年生全員でのシンガポール・マレーシア研修、8月に中学3年生～高校2年生の希望者によるカンボジア研修、1月に中学2年生全員で被災地訪問と防災をテーマに東北研修を行い、それぞれが生徒にとって充実した体験となった。その一方で、勉強面で学力の維持向上対策が急がれる。 在学時代にMen For Others, With Others の教育を受け、世界と日本の各地で活躍する卒業生が、各企画で六甲生のために献身的に協力している。シンガポール、カンボジア、ワシントンDC・ニューヨーク、東京・大阪・神戸等の職場訪問や、3回のOB講演会のテーマであった吟味思考・アフリカ医療支援・LGBTQ等、各地域・分野で、イエズス会教育がめざすFor Others, With Othersを生きて証しする卒業生と生徒が出会える点は、六甲学院の教育の優れた特徴として、今後も大切にしていきたい。 【広島学院】 イエズス会学校として、また地域において魅力的な学校であるために、日々の活動を充実させることを心がけた。授業、学級運営、クラブ活動、ILP (Ignatian Leadership Program＝イグナチオのリーダーシップ：他者に仕え、社会を導く姿) や行事についても多くのスタッフで関わり、担当者が変わってもカリキュラムや行事が行えるようにしている。アクションプランとして掲げている項目については、概ね例年並みには実施できているが、広島学院未来募金の創設や今までの形にとられない部活動のあり方の検討と実施など、いくつか保留または情報収集段階のものもある。長期的課題としてはイエズス会教育を深く研究した者、または実践できる者の養成があげられる。 【上智福岡】 中高4校共通アクションプランである「教職員の働き方を検討する」に関して、教育の質を担保しつつ、教職員の健康確保とワークライフバランス改善のために、国の時間外労働・休日労働の上限規制内での働き方・学校生活の在り方を、全教職員で1年間検討してきた。その結果、36協定の締結と介護育児休暇等の規程の制定に至り、2024年度より施行する。また行事・学校時制の見直し、部削減および顧問増員、教務支援システム・採点ソフトの導入等で教職員の業務の削減を目指し、2024年度からスタートすることとなった。 グラント・レイアウト3.0 の運用が開始された今年度は、その根底にあるビジョンとそれに由来するアクションプランの周知が不十分であった。次年度はビジョンの説明、教職員全体での事業計画振り返り、次年度事業計画の確認を通して共有化を徹底し、中長期計画の基本方針の通りイエズス会学校として地域社会に魅力的な学校であり続けるよう、教育環境、組織人員体制を整えていきたい。

部 門	GL3.0におけるアクションプランと事業計画の進捗状況（2023年度）
法人部門	1. 持続可能な社会に貢献し、社会的責任を果たすための体制を強化する カトリック・イエズス会教育の継承・浸透の観点では、法人全体として、カトリック・イエズス会センターの運営体制を見直した。また、2023年8月に教職員向けの研修の一環として黙想会を、2024年3月に大学・中高4校の学生・生徒にISLF^(*)の国内版を実施した。加えて、上智学院および設置校の歴史の理解・浸透・継承の観点では、史資料を活用したイベント・展示を充実させ、大学では教職員・学生向けの研修も実施した。 中長期計画の推進体制やプロセスの確立の観点では、その一部について、具体的な構想を法人内・各設置学校内で協議し始めたものの、教職員参画型を浸透させる方策や工夫が更に必要である。一方で、IRの分析・研修・情報共有の観点では、既に2030年までの目標指標を達成しているものが多く、特に大学では学部長会議や企画委員会、学内説明会において積極的に報告ができた。また、社会変化に対応した新たな教育体制の検討に向けて、2023年度末にイエズス会・上智学院の検討ワーキンググループを設置した。 法人全体のガバナンス強化に向けては、私立学校法改正を見据えた検討ワーキンググループを立ち上げ、検討を進めた上で、理事会でも議論を行った。また、コンプライアンス遵守に向けて、新たに3回の教職員向け研修を実施した。内部統制システムの整備は検討を開始したばかりの段階であるが、2024年度以降は役員・評議員を対象とした研修会も計画している。ステークホルダーとの連携強化に向け、現在は、自治体や近隣企業が主催となっている事業へ協力することが多くなっているが、今後は本学が主催となるものも考えていきたい。 (*) Ignatian Student Leadership Forumの略。Ignatian Leadershipを養成するための教育プログラム。 ※参考 https://sophia-catholicjesuit.jp/mission/student_association/islf/ 2. 豊かな学びを支える安心・安全・快適なキャンパス環境を整備する 施設環境の整備では、情報のバリアフリーを意図して、主に四谷キャンパスにおける総合案内や各建物のサインを全面的に見直し、継続してインクルーシブな設備などの検討も進めている。また、サステナビリティ推進本部の学生職員と連携し、ごみの分別・リサイクルに関する記事の発信や、LED化や再生可能エネルギーの活用による環境負荷削減などに積極的に取り組んだ。学生・教職員の意識改革に向けては、大学内では2023年度内の企画は計8回・計300名の学生参加があったが、次年度以降は、中高4校を巻き込んだ企画の実現を目指していきたい。また、法人としてのDEI&Bのガイドラインについては、2023年度内に作成に至らず、今後の課題である。 法人全体として、各設置学校におけるDX推進は十分な検討ができなかったが、2024年度は各校の将来像を見据えての教育・研究・業務にかかるDXの推進方策を検討していきたい。大学の学部・研究科webサイトは計画通りリニューアルし、サーバーのクラウド化により安定的な稼働を行える体制とした。また、2022年度から推進している複合機導入計画については、学生プリンタまで含めた最終段階の対応が終了し、各キャンパス（四谷・秦野・目白聖母）を通じて統一的な運用が行えるようになり、業務負荷の軽減が図られた。 3. 教育研究の持続的発展を可能とする財務基盤をより一層強化する 予算編成段階で黒字を計上することは構造的に難しい面があるが、次年度予算編成に向けて検討を行う。2023年度のSOPHIA未来募金（大学・短期大学部）への2023年度の寄付額は、目標の6億円に対し約4.6億円であったが、前年度に比べ約8,200万円増えている。2024年度以降は、卒業生や篤志家、父母後援会や近隣関係者に対するアプローチを強化し、目標に近づけていきたい。 学生生徒納付金以外の収入確保に向けては、資産運用により中長期での目標投資収益率や目標リスク水準を充たす投資実績を今後も継続していくとともに、それ以外の方策も継続して取り組んでいく。 4. 組織力を高める人事政策を実行する 主にグローバル化推進、研究力向上に資する職員組織の充実を図るべく、人件費にかかわる特例財源を設けた。この財源を活用し、グランド・レイアウト3.0に基づく施策展開に向けて、職員組織における多様な人材を確保することができた。今後は、教学部門と連携しながら、教員組織においても多様な人材確保を検討していく。本学院の職員組織における経営効率を高めるべく、専任職員の採用に取り組むとともに、教学支援に向けた配置を図る一方で、専任職員に対する組織診断の実施、職員組織における定型業務の業務分析等の具体策を実施した。これらを踏まえ職員組織のパフォーマンス向上を実現していく。 長期的な課題として、高等教育部門では、人件費管理方針や教学組織の中長期計画実行体制の確立、中等教育部門では、法人・大学との連携強化および労務管理のあり方の検討が挙げられる。早期に具体的な施策を企画・立案し、実行に移していきたい。

全学的トピックス

学校法人上智学院 理事長交代

学校法人上智学院は、2023年4月26日に開催された理事会において、アガスティン サリ総務担当事が理事長に就任することを決定しました。前任理事長の佐久間勤が、上智大学の設立母体であるイエズス会日本管区長に就任することに伴い、4月30日をもって理事長を退任したため、その後任として選任されました。任期は2023年5月1日から2026年3月31日まで（前理事長の残任期間）となります。

[アガスティン理事長略歴]

1968年インド・ケララ州生まれ。イエズス会会員。2007年本学大学院外国語学研究科地域研究専攻博士後期課程修了。博士（地域研究）。2007年文学部講師、2009年神学部准教授、2015年同教授、2016年総合グローバル学部教授。学生センター長、学生総務担当副学長、総務担当事などを歴任。

カンボジアの世界遺産アンコール・ワット西参道開通：上智大学の33年間の貢献

上智大学の石澤良昭教授を中心とするチームの33年間にわたる努力が結実し、全長200メートルのアンコール・ワット西参道の修復工事が完了しました。2023年11月4日、カンボジア北西部のシェムリアップ市で、世界遺産アンコール・ワットの「西参道開通祝賀式典」および「渡り初め儀式」が国家行事として挙行されました。式典にはカンボジア王国ノロドム・シハモニ国王陛下、フン・マネット現首相、フン・セン前首相、プーン・サコナ文化芸術省大臣、政府閣僚・高官、ハン・ベウ カンボジア王国国立アンコール遺跡保存整備機構総裁（アプサラ機構 APSARA National Authority）が、本学からはアガスティン サリ上智学院理事長、石澤教授が登壇しました。セレモニー終了後、西参道は一般開放され、修復に携わった作業員、お祝いに駆けつけ

た人、観光客などがアンコール・ワットを背景に記念撮影する姿が多く見られました。本学は、今後もアプサラ機構とともに西参道の定期的保守管理およびカンボジア人遺跡保存官の人材養成支援を継続してまいります。



上智大学とプノンベン大学：学術交流と異文化交流へ新たな第一歩

上智大学とカンボジア王国のプノンベン大学は、2021年に学術交流と交換留学の協定を締結し、2022年には本学アジア人材養成研究センター所長の石澤良昭教授に「プノンベン大学名誉博士号（歴史学・人文学）」が授与されました。2023年12月4日には、両大学が共催する国際シンポジウムがプノンベン大学で開催され、同大学の学生約300名が参加しました。シンポジウムでは、曄道佳明上智大学長が本学の教育・研究活動を紹介し、異文化交流の現代的課題について講演しました。また、上智大学アジア人材養成研究センターの三輪悟研究員がアンコール・ワット西参道修復工事について報告し、またラオ・キム・リャン研究員がアンコール遺跡でのISO14001認証取得と環境教育の重要性について紹介しました。プノンベン大学からは、シーク・ソパット副学部長がシェムリアップ市の災害脆弱性に関する研究を発表しました。シンポジウムの終了にあたり、石澤教授は参加学生へのメッセージとして、自身のアンコール・ワッ

ト研究への取り組みを紹介し、これからのカンボジアを背負う学生たちを激励しました。このような活動を通じて、上智大学とプノンベン大学は学術交流を深め、相互理解を深めています。



■ 責任投資 (ESG投資) の取り組み

「For Others, With Others」「Sophia – Bringing the World Together」という上智の教育精神や建学の理念を反映した形で資産運用を実践するために、責任投資 (E：環境、S：社会、G：ガバナンス を考慮した投資) に取り組んでいます。教育精神や建学の理念は、教育・学術研究にとどまらない上智のあらゆる

活動の根幹をなすものであり、加盟している「国連グローバルコンパクト」や「国連責任投資原則 (PRI)」に基づき、社会的リターンと投資リターンの両立を目指し、資産運用を通じて地球規模の環境問題・社会課題の解決に貢献し、持続可能な国際社会造りに繋がるよう取り組んでいます。

PRIの年次評価 (2023年) ～すべての項目で最高評価「5つ星」を獲得～

PRI の2023年次評価では、評価対象となる全ての項目で最高評価となる「5つ星」を初めて獲得しました。PRIの署名機関は、毎年各分野の取組状況に関する報告書をPRIへ提出する義務があり、その報告書を元に、PRIが署名機関の実施状況等を評価します。具体的には分野毎の得点に応じて5段階で評価が付与され、「5つ星」が最高評価となります。

上智学院では、投資判断においてESG課題を考慮することが、長期的な投資収益の改善のみならず、資本市場の健全な発展と持続可能な社会の実現に貢献するものと考え、ESG投資に取り組んできました。今回の評価は、これまでのPRIからの評価結果を踏まえ、責任投資活動の一層の推進に努めた結果であると考えています。

	ポリシー・ガバナンス・戦略	外部委託運用 (選定、指名及びモニタリング)						信頼醸成
		上場株式 (パッシブ)	上場株式 (アクティブ)	債券 (アクティブ)	プライベートエクイティ	不動産	インフラストラクチャー	
本学評価	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)	★★★★★ (5つ星)
中央値	★★★ (3つ星)	★★★ (3つ星)	★★★ (3つ星)	★★★ (3つ星)	★★★ (3つ星)	★★★ (3つ星)	★★★★ (4つ星)	★★★★ (4つ星)

PRIの協働エンゲージメント「Spring」への参画

PRIが新たに設立した、生物多様性に関する課題をテーマとした協働エンゲージメント・イニシアティブである「Spring」に参画しました。上智学院は、「気候変動」を極めて重要な社会課題と位置付けており、自然資本・生物多様性の保全についても、気候変動問題と密接に関わる重要なテーマであると認識してい

ます。このイニシアティブに取り組むことで、気候変動への適応など、他の持続可能な開発目標にも貢献することを目指しています。

Signatory of:



TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) 提言に基づく情報開示

TCFD提言に基づく情報開示を行いました。上智学院は、持続可能な地球環境の実現と事業活動の両立が新たな機会の創出に繋がると考え、TCFDが推奨する「ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標」のフレームワークに沿って、気候変

動に関する情報開示を充実させていきます。詳細は、https://www.sophia-sc.jp/info/pdf/esg_03.pdf?20231018_01 をご覧ください。



投資事例の紹介 (2023年度に新規投資したもの)

世界銀行 (IBRD) のサステナブルボンド



アジア開発銀行のウォーターボンド



グローバル農地戦略ファンドへの投資



※詳細は、上智学院公式ウェブページをご覧ください。<https://www.sophia-sc.jp/info/esg.html>

上智大学創立110周年

特設サイト：<https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/110th/>

〈学生デザインによる上智大学創立110周年記念ロゴマーク採用〉

上智大学創立110周年にあたり、2023年度に開催される各種イベント等に共通して使用するロゴマークを学生・教職員に公募したところ、43人から60作品の応募がありました。4月上旬、選考委員会の審査を経て、野村東生さん（文学部哲学科3年）の作品が採用されました。



採用されたロゴマークの2つの「1」を表す長方形に施した装飾は、6号館の縦長の窓と7号館のタイル状の窓を、また、「0」を表す円は四谷の象徴的な史跡である真田濠の形状を表現しています。真田濠・7号館・6号館という幅広い時代の建造物をモチーフにすることで、四谷の歴史の一部として上智大学の歴史があり、それはこれからも続いていくというメッセージが込められ、伝統を背負いつつも、現代に生き、未来を志向するという上智の特徴を多層的に体现するデザインとなっています。

110周年記念ロゴマークは、一年をとおして、街頭旗や記念グッズ、イベントフライヤー等に掲載され、創立110周年を広くアピールしました。

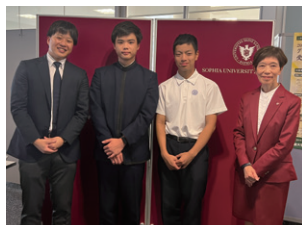
〈創立110周年記念イベント「バルーンリリースセレモニー」〉

2023年10月6日に学生局が創立110周年記念イベントとして企画した、風船を一齐に飛ばす「バルーンリリースセレモニー」が行われ、環境に配慮した約200個の風船が空に舞いました。晴天の中、Sテラスにある初代学長ホフマン神父の胸像を囲み、観客も含め1,000人以上の学生・教職員が集まりました。参加者全員でカウントダウンを行い、「ゼロ！上智大学110周年おめでとう！」の合図で色とりどりの風船が一齐に空へ放たれると、参加者からは大歓声が上がりました。ドローンで撮影されたセレモニーの様子は110年の歴史を振り返るトビックスとともに、記念動画として編集・公開されました。



〈大阪サテライトキャンパスで「ユニセフセミナー」を開催〉

2023年10月9日、本学と兵庫県ユニセフ協会は「“教育”から考える国際協力と支援の道—若者たちとこれからの国際教育—」を共同開催しました。永井敦子副学長による本学の国際協力と教育の紹介から始まり、ケニアのスラム街・キベラで貧困の子どもたちの学校を運営する早川千晶氏がその活動と経験を共有しました。続いて、六甲学院中学・高等学校社会奉仕委員会からは、地域活動とハンセン病患者を親に持つインドの子どもにも学費や給食費を送るインド募金についての報告がありました。最後に、東ティモールの教育研究者である須藤玲氏（本学社会学科卒）が、教育と



言語多様性、特に教授言語問題についての研究を紹介しました。中高生、教育関係者などの参加者に教育活動を通じた国際協力と支援の在り方について理解を深めてもらう機会となりました。

〈知花くらら氏（本学卒業生）による講演会を実施〉

2023年12月4日、モデルの知花くらら氏（本学教育学科卒）が本学で講演を行いました。講演会には、学生・保証人・卒業生等合わせて約170人が参加し大きな盛り上がりを見せました。講演は「世界を旅して見てきたことは」と題し、知花氏から本学での学生生活を含むこれまでの人生やキャリアの歩み、ミスユニバース世界大会や元国連世界食糧計画（WFP）日本親善大使としての経験、そして現在挑戦されていることについてお話しいただきました。

〈2号館5階学生食堂「110周年記念洋食プレート」〉

大学の歴史に思いを馳せる特別メニュー「110周年記念洋食プレート」が2号館学生食堂で提供されました。（提供期間：2023年12月18日～22日、販売価格：400円）

プレートはさまざまな洋食メニューが盛り付けられ、SOPHIAの文字とソフィアンくん柄の「上智大学110周年記念キャンディー」のおまけもつく豪華な内容となりました。メニューの考案にあたっては、過去に学食で提供されたメニューを調査し、食堂業者と学生も交えた試食会での感想や意見を参考に、かつては鉄板焼きを提供する学食やパスタ屋があったことにちなみさまざまな洋食を盛り合わせた今回のメニューに決定しました。

特別メニューは初日から券売機に行列ができ、1日限定100食がすぐに完売しました。このメニューの売り上げから1食につき110円が国内外への援助活動を行っているカリタスジャパンへ寄付されました。



〈「日韓伝統楽器のしらべ 音がつなぐ夜」の開催〉

2024年2月22日、紀尾井亭葵の間に『日韓伝統楽器のしらべ 音がつなぐ夜』と題した音楽会を開催しました。上智大学創立110周年にあたり有志の職員が企画したもので、日本と韓国の伝統楽器が集結し、およそ70人の聴衆を前に美しい音色を響かせました。第一部では、本学箏曲部の学生が出演し、琴や三味線の特徴や歴史などの解説を交えながら、見事な腕前を披露しました。第二部では、日本国内でも多くのファンをもつ韓国の伝統楽器のプロ演奏家のアン・ジンソン氏（擦弦楽器：ヘグム）とヤン・フンジョン氏（25弦琴：カヤグム）が出演。ジャズ風の心地よいBGMに、伝統楽器のクラシカルな響きを織り交ぜたモダンな演奏で聴衆を魅了しました。



上智大学短期大学部創立50周年

上智大学短期大学部は、1973年の開学から50周年を迎え、2023年12月2日に記念式典を開催しました。アガスティン サリ理事長が、上智短期大学（現・上智大学短期大学部）の開学の経緯と歴代学長の取り組みについて紹介し、山本浩学長が直近10年で推進した短期大学部と上智大学の連携強化、教育の質保証、多文化共生力の修得などの改革について報告しました。第二部では「上智大学短期大学部のSDGsへの取り組み」をテーマに、上智大学総合人間科学部教育学科の杉村美紀教授

による基調講演と、本学教員・卒業生・在学生在が参加してのパネルディスカッションが行われました。杉村教授は、ESD（持続可能な開発のための教育）の重要性と、本学のサービスラーニング活動がそれを果たしている役割について語りました。続いて卒業生と在在学生によるパネルディスカッションが行われ、各自のサービスラーニング活動の経験とそれが及ぼした影響について意見交換を行いました。活発な議論が展開され、式典は盛況のうちに終了しました。

IFCU100周年の総会

国際カトリック大学連盟（IFCU）の創立100周年を記念する会議が、2024年1月18日から20日にかけてバチカンで開催されました。この記念式典には、アガスティン サリ理事長と嚆道佳明学長を含む約170校のIFCU加盟校の代表者が出席しました。アガスティン理事長はこの会議でプレゼンテーションを行い、人口動態の変化や技術革新、学生のニーズの進化への対応がカトリック大学の未来を形成するにあたって必要であることを強調し、その様子はIFCU公式Facebookで紹介されました。また、アガスティン理事長と嚆道学長は、1月19日に教皇フランシスコに謁見しました。



ユネスコチェア発足記念シンポジウム

ユネスコチェアは、教育・研究機関が率いるチームがユネスコと連携して、社会課題に取り組むプロジェクトです。本学が申請した「UNESCO Chair on Education for Human Dignity, Peace and Sustainability」が採択され、上智大学にユネスコチェアが設置されることとなりました。

2024年2月28日、ユネスコチェア発足記念シンポジウムが上智大学で開催されました。岡田隆学術研究担当副学長の開会挨拶に続いて、文部科学省国際戦略企画官の本村宏明氏、ブルキナファソのアブゼ・ジグマ財団代表アブゼ・ジグマ王女殿下およびカナダのヨーク大学教育学部チャールズ・ホプキンス教授による来賓挨拶があり、本学のユネスコチェアとしての活動に期待が寄せられました。続いて、ユネスコ・バンコク事務所プログラム・スペシャリストのファリアル・カーン氏が登壇し、「未来を

形作る：人間の尊厳、平和、サステナビリティのための変革教育」と題して基調講演を行いました。

次に、チェアホルダー（責任者）である総合人間科学部教育学科の杉村美紀教授が登壇。本学のユネスコチェアについて、発足した背景、チェアの目的、パートナーシップの構築計画などを紹介しました。その後、本学ユネスコチェアの海外パートナー機関からの参加者9人が「教育の変革とユネスコチェアの役割」をテーマにパネルディスカッションを実施し、活発な議論が展開された後、ホプキンス教授およびカーン氏による総括でシンポジウムを締めくくりました。

上智大学は本チェアの活動を通じて、国際的な教育・研究を通じて知を創造・共有し、人間の尊厳と平和、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



「SDGs推進のための地方自治体（島嶼地域等）との連携」

・島根県海士町との連携協定

2023年4月、上智大学は島根県隠岐郡海士町とSDGsの実現に寄与することを目的に連携協定を結びました。海士町は隠岐諸島の一つで、豊かな海と湧水に恵まれ、古くから海産物の宝庫とされる半農半漁の島です。また、深刻な人口減などを打開するため、2000年代から町を挙げて独創的な地域づくりに取り組み、現在では地方創生のトップランナーとして知られています。これまで本学との複数の協働プログラムを実施してきたことから、今後は、さまざまな学術的な連携や全学的な学生交流プログラムの実現を目指し、連携を強化していきます。

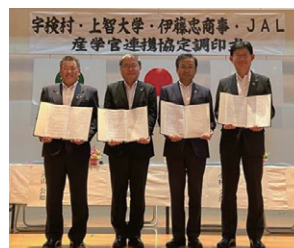
・静岡県下田市との連携

2023年8月、本学と静岡県下田市は、SDGs推進と人材育成を目的に連携協定を締結しました。下田市は、国際化社会で活躍する人材育成と持続可能な街づくりに取り組んでおり、これまでも学術分野での交流、連携を重ねてきました。下田市にはアイランド・サステナビリティ研究所の拠点があり、海岸の自然環

境保全と地域振興を両立させる取り組みを推進していきます。

・鹿児島県大島郡宇検村、伊藤忠商事、日本航空との連携

2023年9月、本学、宇検村、伊藤忠商事、日本航空の4者は、宇検村での環境保全と地域振興を目的に連携協定を締結しました。宇検村は2014年から子どもたちが自然への誇りを育むマングローブ植林活動を行い、伊藤忠商事は2021年からその活動を支援しています。本学と日本航空は2022年から環境保全と観光促進の両立を図る奄美モデルの構築を行い、シンポジウム等で発信しています。これらの取り組みを連携し、4者が有する資源や知見を活かして、宇検村のゼロカーボンシティや生物多様性の保全・回復を推進し、自然と人が共生する関係の構築と持続可能な地域活性化に取り組む予定です。



上智大学と同志社大学が共同実施した文部科学省の補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）」にA評価

同志社大学を代表機関、上智大学を共同実施機関として2021年度に採択され、2022年度まで実施した標記事業「海外先進事例を通じた私立大学におけるダイバーシティ推進モデルのための調査研究」が、事後評価でA評価を受けました。私大の多様性を踏まえたダイバーシティ推進モデルを提示するとともに、日本私立大学連盟の機関誌である「大学時報」に調査分析を寄稿するなどの積極的な成果の可視化が評価されました。学内調査を踏まえ、すでに基盤が整備されている国立大学との比較とともに私立大学の現状を再認識し、同志社大学をスタートアップ型、本学をアドバンスト型の象徴とし、二極化している現状を同志社モデル、上智モデルとして提案しました。本学は2009年度に採択された女性研究者支援モデル育成事業を契機に約10年の年月をかけて女性研究者支援の充実を図ってきました。さらにこの度の事業では、タイの協定校の一つであるマヒ

ドン大学を調査し、業績をベースにしたパフォーマンス向上の仕組みである「Performance Agreement」を安心して研究ができるコミュニケーションツールに変えて導入することを検討し、試験的に理工学部において実施しました。また、研究環境の整備を組織的に行うために、無意識バイアスだけでなく、差別を構造から捉えた「マジョリティ特権を可視化する」動画を公開し、多くの大学や研究機関等から反響が寄せられました。私立大学に特化した現状分析を行ったものはこれまでになく、あらためて、私立大学ならではの建学の精神や理念に依拠したダイバーシティ戦略を模索していくことの重要性を確認できたことも大きな成果となりました。

本事業のホームページ：

<https://doshisha-diversity.jp/doshisha-sophia/>

30% Club Japan 大学トップのコミットメント発表

30% Clubは2010年に英国で創設された、企業等における重要意思決定機関に占める女性割合の向上を目的とした世界的キャンペーンです。現在20カ国以上で展開され、2019年には「30% Club Japan」が設立されました。

上智大学は2021年6月に30% Club Japan大学グループに参画し、教育、研究、社会貢献の各分野で、ジェンダーダイバーシティの実現に向けて教育や啓発活動を推進しています。2024年2月には、嘆道学長を含む大学グループの9大学のトップが「多様性のある大学運営」に向けた具体的な目標を明言し、その実現への道筋を示すコミットメントを発表しました。

コミットメントでは、ドイツ、フランス、イギリスと国籍の異なるイエズス会士によって設立されたことに始まる本学の多様性を認める伝統を、これからも継承していくことを今後の課題とし

てあげました。また、2023年5月時点で女性教員の割合が約4割となり、教授および准教授に占める割合も3割と高いなど、これまでさまざまな支援を実施してきた結果としての数値を示しました。そして、次世代のリーダー育成とともに、より多様なバックグラウンドを持った構成員が意思決定の場や大学運営に参画することが重要であるとコメントしました。

2023年度から始まったグランド・レイアウト3.0にもDEI&Bの推進、グローバル社会に貢献する若手研究者・女性研究者支援を明記しており、さらに充実した就学および就業環境の整備を年度計画のもと実施していきます。



上智学院（高等教育部門）の環境負荷の状況

1. エネルギー使用量および温室効果ガス排出量

上智学院の高等教育部門は、主要なキャンパスとして四谷キャンパス、目白聖母キャンパスおよび秦野キャンパスがあります。四谷キャンパスは、上智大学すべての学部・研究科の学生が教育を受け、研究活動を行っています。目白聖母キャンパスは、上智大学総合人間科学部看護学科の一部学生が使用しており、秦野キャンパスには上智大学短期大学部が設置されています。

上智大学で使用されるエネルギー^{※1}は、四谷キャンパスが94.2%を占めています。（図1）消費されるエネルギーの種別は、電気が77.1%、都市ガス（LNG^{※2}）が22.8%を占めています。燃料（灯油等）は、主に秦野キャンパスの暖房等に使用されていますが、全体に占める割合は極めて低いです。（図2）

施設面において、主要キャンパスが排出する温室効果ガスは、エネルギー使用の他、主に上下水道の使用に伴うもの、廃棄物の処理に伴うものがあります。これらの使用に伴う温室効果ガスの排出量を2022年度の使用、廃棄量から試算しました。^{※3}

2022年度に排出した温室効果ガス（二酸化炭素換算量）は、13,846トンで、電気の使用に伴う排出量が約73.1%、都市ガス（LNG）の使用に伴う排出量が約23.1%を占めています。（図3）

上智学院では、2020年度から2021年度にかけて主要キャンパスで使用する電気を実質的に再生可能エネルギー100%とする電気に切替えています。また、2021年度に四谷キャンパスおよび目白聖母キャンパスの都市ガスはカーボンニュートラルLNG^{※4}に切替えています。これにより一部の施設^{※5}を除き、電気および都市ガスの使用に伴う温室効果ガスの排出を実質的に排出量ゼロとすることができ、大幅（約94.9%）に削減できています。

上智学院は、エネルギー使用に伴う二酸化炭素の排出量を大幅に削減しています。その一方で、2022年度のエネルギー使用量は、前年度の使用量を超えています。また、実質的に温室効果ガスを排出しないとするエネルギー源は、将来的なエネルギー・環境価値の上昇等により、結果として価格が上昇することもあるため、コストの観点からも行動変容（省エネルギーの推進）は必要と考えられます。

上智学院は、年間のエネルギー使用量の合計が「エネルギー使用の合理化等に関する法律」（省エネ法）に定める基準以上であるため、エネルギー使用の合理化を特に推進する必要がある者として省エネ法に基づき特定事業者^{※6}に指定されており、毎年、使用量、使用量削減に関する計画等を経済産業省（資源エネルギー庁）および文部科学省に報告しています。

また、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、温室効果ガス排出量を毎年環境省に報告し、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（環境確保条例）に基づき温室効果ガス排出総量削減義務が課せられています。

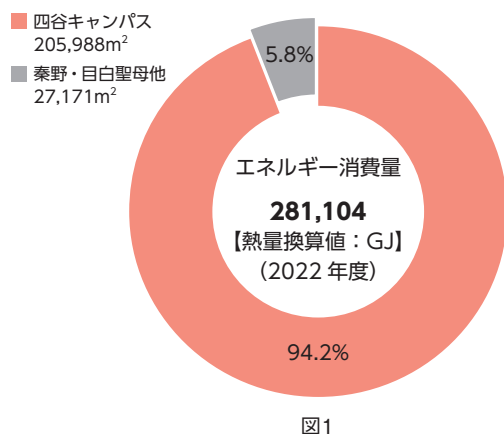


図1

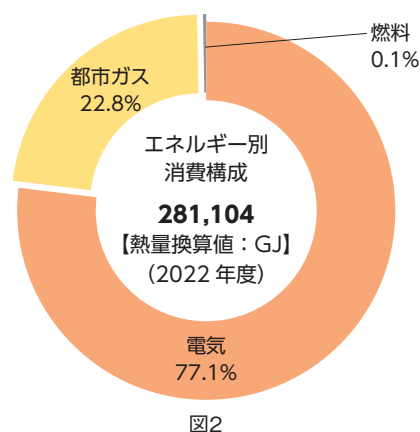


図2

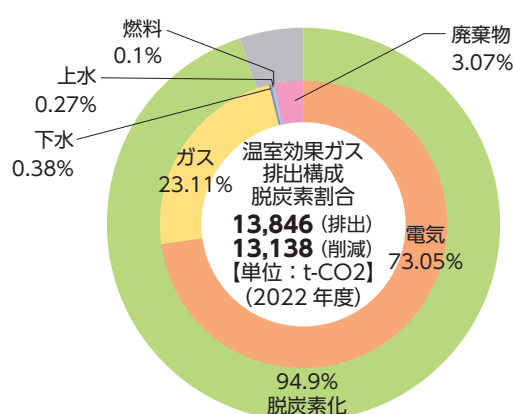


図3

※1 2022年度のエネルギー使用量

※2 液化天然ガス

※3 上下水道の試算は東京都C&T制度における排出係数を準用
 廃棄物の試算においては、大部分を占める四谷・目白聖母キャンパスを対象としLCIデータベース IDEA Version 2.3を引用
 (国立研究開発法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 IDEAラボ 一般社団法人サステナブル経営推進機構の著作物)

※4 ガスの採掘から燃焼に至るまでの工程で発生する温室効果ガスをクレジットで相殺し、実質的に排出量ゼロとするLNG

※5 賃借入居分、学生寮等

2. 廃棄物に関わる規制および処理責任

廃棄物の処理は、性状・種類・排出者により分類され、環境汚染防止および資源の有効活用のために様々な法令・条例によって規制されています。

上智学院から排出される産業廃棄物は、収集・運搬・処分について排出者である上智学院が責任をもって処理しなければなりません。このため、上智学院は廃棄物の収集運搬および処分を関係法令に基づく許可を受けた事業者と契約して委託を行っています。

また、産業廃棄物管理票（マニフェスト）情報を電子化したものを利用することによって、「排出事業者」「収集運搬業者」「処

分業者」の三者で情報を共有して情報伝達の効率化を行いつつ、廃棄物の種類および量、排出から収集運搬、そして最終処分までの流れを把握しています。

3. 廃棄物の排出量・再利用率

四谷キャンパスでは、コロナ禍以前の状況では年間600トン程度の廃棄物が排出されていますが、2022年度はおよそ386トンです。なお、2018年度から2022年度の廃棄物排出量の推移は図5のとおりです。

再利用率については、食品残渣の付着した再利用に適さない紙が大幅に増加してしまい、可燃物の再利用率が大幅に低下してしまいました。一方、不燃物については高水準を維持しています。

（図6 廃棄物の再利用率の推移）

表1 適用される主な法令等

区分	適用される主な法令等
固体状の廃棄物	●廃棄物の処理と清掃に関する法律（廃棄物処理法） ●資源有効利用促進法 ●個別品目のリサイクル法 ●家電リサイクル法 ●小型家電リサイクル法 等 ●ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置
液体状の廃棄物（排水を含む）	●廃棄物の処理と清掃に関する法律（廃棄物処理法） ●水質汚濁防止法 ●下水道法
気体状の廃棄物	●大気汚染防止法 ●地球温暖化対策推進法 ●フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
その他	●土壌汚染対策法

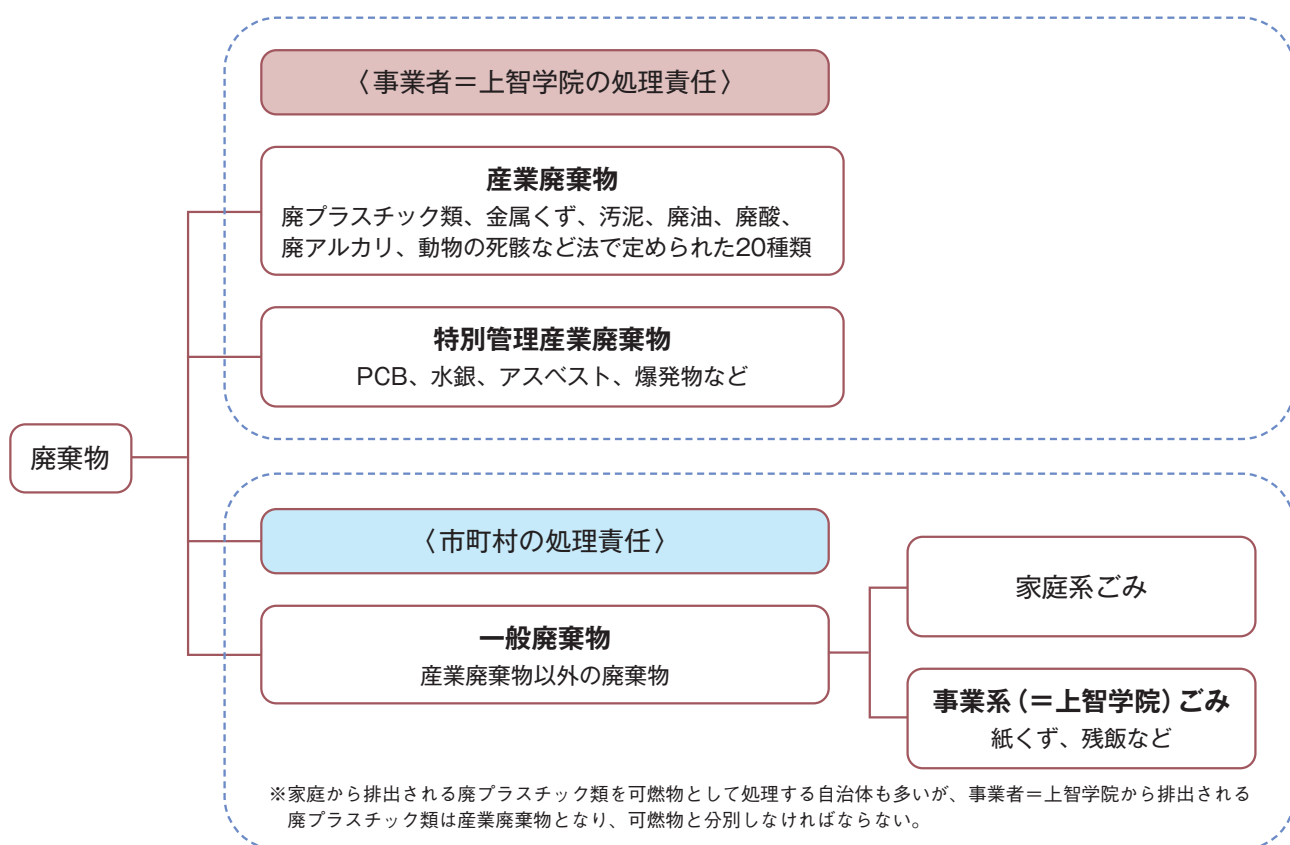


図4 廃棄物の処理責任

4. 3R (リデュース・リユース・リサイクル) の取り組み

上智学院では現在、以下のような取り組みを積極的におこなっています。以下の取り組みのいくつかは学生からの提案によって実現したものもあります。

- ①機密書類溶解処理で出た紙をトイレトーパーに再生し、それを大学で購入する循環システム

- ②ウォーターサーバーの設置によるペットボトル廃棄の削減

- ③ごみの分別が分かりやすいごみ箱の設置

- ④コンピューター機器類のリユース・リサイクル

引き続き、教職員・学生が協同してSDGsの12番目の目標である「つくる責任 つかう責任」を意識して取り組んでいきたいと考えています。

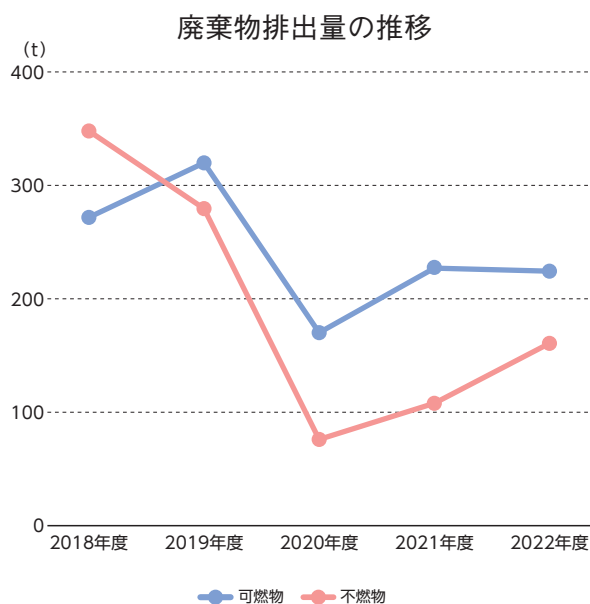


図5

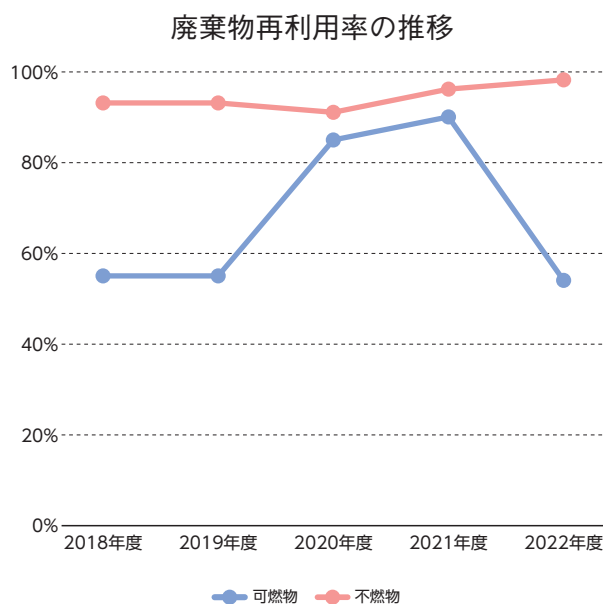


図6

■ キャンパス整備の進捗について

キャンパス環境向上を目的として、四谷キャンパスの外構工事を順次進めています。

〈メインストリート改修工事〉

2023年度はメインストリート中央から北門・麹町大通りにかけてのエリアを再整備しました。

2021年度の工事着手から継続してサステナビリティ推進本部の学生職員と協業し、SDGs、環境配慮、持続性およびユニバーサルデザインの観点で意見交換を行いながら整備を進めました。北門内のシンボルツリーの周辺には芝生や木々を配した広場（緑地帯）を設け、都心のキャンパスの中でも自然を感じられる場所となっています。また、広場内には上智大学を象徴する「SOPHIA U」の立体文字オブジェを設置しました。

今回の工事を以て、四谷キャンパスの東西・南北軸の主要エリアの外構工事が完了しました。

〈15号館〉

2022年5月に完成した四谷キャンパスで最も新しい15号館

の建設にあたっては、環境負荷が少なくCO₂排出量の削減と森林資源の循環利用推進の観点から、木造建築が採用されました。

建物の外装は、多摩産の太さが異なる木材を交差させた格子で覆うデザインで、建学の理念に連なる「多様性」「他者との交流」「真理」「伝統」を表現しています。

また、一般社団法人日本ウッドデザイン協会が主催する2023年度ウッドデザイン賞（建築・空間分野）を受賞しました。「ウッドデザイン賞」は木の良さや価値を、デザインの力で再構築することを目的として、優れた建築・空間や製品、活動や仕組み、研究等を募集・評価し、表彰する顕彰制度です。

〈12号館地下ラウンジ〉

12号館地下、コンビニ横のラウンジ空間を改修しました。この空間は、企画の初期段階から、サステナビリティ推進本部学生職員による現状問題点の把握・分析、改修後の目指す姿などについての活発な議論が行われ、それを元に、改修企画の設計コンペの実施・審査までが一貫して行なわれました。

施設等の状況

(2024年3月31日現在)

所在地	施設等	面積等		摘要		
四谷キャンパス 東京都千代田区紀尾井町 東京都千代田区麹町	校地 カトリックイエズス会 校舎（教室、実験室、研究室、講堂等） 図書館（図書館、研究室等） 体育館 課外活動施設 エネルギー・ステーション	18棟 1棟 1棟 1棟 3棟	46,918.14㎡ 4,260.00㎡ 146,573.65㎡ 26,871.03㎡ 4,453.53㎡ 4,114.74㎡ 3,304.38㎡	大学が利用		
四谷キャンパス 東京都千代田区紀尾井町 東京都千代田区麹町 東京都港区赤坂 東京都新宿区四谷	運動場		23,972.87㎡			
石神井キャンパス 東京都練馬区上石神井		校舎敷地 図書館	1棟		1,600.80㎡ 1,369.86㎡	大学が利用
秦野キャンパス 神奈川県秦野市		校地 運動場 校舎（教室、実験室） 研究棟（図書館、研究室） 体育館 食堂棟（食堂、研究室） 管理棟（事務室） 学生寮 セミナーハウス（教室、宿舎） 合宿所	1棟 1棟 1棟 1棟 1棟 1棟 1棟 1棟		259,601.91㎡ 2,183.38㎡ 3,292.27㎡ 2,463.38㎡ 1,003.51㎡ 1,606.73㎡ 1,260.96㎡ 2,751.55㎡ 1,583.92㎡ 925.70㎡	
大阪サテライトキャンパス 大阪府大阪市北区豊崎		校舎	1棟		89.60㎡	大学が利用
目白聖母キャンパス 東京都新宿区下落合		校地 校舎（1号館） 校舎（2号館）	1棟 1棟		4,523.73㎡ 5,789.04㎡ 2,204.50㎡	
祖師谷国際交流会館 東京都世田谷区上祖師谷	用地 学生寮	5棟	13,441.00㎡ 14,016.49㎡	大学が利用		
アルベ国際学生寮 東京都新宿区信濃町	用地 学生寮	1棟	1,242.45㎡ 4,955.73㎡		大学が利用	
枝川寮 東京都江東区枝川	用地 男子学生寮	1棟	1,003.39㎡ 2,530.22㎡	大学が利用		

上智大学

上智大学・上智大学大学院では教育研究上の目的、人材養成の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）およびアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）を学部・学科ならびに研究科・専攻ごとに大学ウェブサイトで公表しています。
<https://www.sophia.ac.jp>

教職員数等

教職員数

(2023年5月1日現在)

学校区分	教職員区分	本務	兼務	総計
上智大学	教員	559	836	1,395
	職員	400	1	401
総計		959	837	1,796

※本務教員：専任教員・特別契約教授・特任教員・常勤嘱託教員・実務家教員・出向教員

兼務教員：非常勤嘱託教員

本務職員：専任職員・特別契約職員・嘱託職員

兼務職員：嘱託職員（医師等）

※管理部門所属職員は上智大学に算入

年齢別教員数

(2023年5月1日現在)

学校区分	20代	30代	40代	50代	60代	70代	総計
上智大学	3	67	166	203	119	1	559

※非常勤講師を除く

※平均年齢48.75（非常勤講師を除く）

職階別教員数

(2023年5月1日現在)

学校区分	教授	准教授	講師	助教	助手	教員	総計
上智大学	327	129	35	54	14	0	559

※非常勤講師を除く

教員一人当たり学生数

(2023年5月1日現在)

学 部	学生数	本務教員数	
		教員数	一人当たり学生数
神学部	203	15	13.53
文学部	2,257	62	36.40
総合人間科学部	1,323	74	17.88
法学部	1,391	32	43.47
経済学部	1,416	33	42.91
外国語学部	2,233	63	35.44
総合グローバル学部	982	27	36.37
国際教養学部	756	34	22.24
理工学部	1,594	96	16.60
総計	12,155	436	27.88

学生数

学部

(2023年5月1日現在)

学 部	入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	学生数	収容定員 充足率
神学部	50	186	51	42	45	65 (18)	203	109.1%
文学部	510	2,040	532	523	527	675 (159)	2,257	110.6%
総合人間科学部	305	1,220	312	310	323	378 (61)	1,323	108.4%
法学部	330	1,320	341	339	335	376 (55)	1,391	105.4%
経済学部	330	1,320	339	339	332	406 (80)	1,416	107.3%
外国語学部	500	2,000	517	506	511	699 (196)	2,233	111.7%
総合グローバル学部	220	880	231	224	233	294 (75)	982	111.6%
国際教養学部	186	744	179	192	181	204 (31)	756	101.6%
理工学部	410	1,550	414	386	382	412 (43)	1,594	102.8%
合 計	2,841	11,260	2,916	2,861	2,869	3,509 (718)	12,155	107.9%

※4年次生の欄（ ）内は在学継続者数で内数である。

※同一年次数＝前年9月入学者数+当該年度4月入学者数である。

大学院

(2023年5月1日現在)

研究科	博士前期課程／修士課程／専門職学位課程				博士後期課程				総計
	入学定員	収容定員	学生数	収容定員 充足率	入学定員	収容定員	学生数	収容定員 充足率	
神学研究科	20	40	11	27.5%	4	12	6	50.0%	17
哲学研究科	—	—	—	—	0	0	1	—	1
文学研究科	86	172	90	52.3%	24	72	48	66.7%	138
実践宗教学研究科	10	20	26	130.0%	3	9	15	166.7%	41
総合人間科学研究科	59	118	87	73.7%	16	48	69	143.8%	156
法学研究科 法学専攻 法曹養成専攻	20	40	14	35.0%	4	12	3	25.0%	17
	40	120	71	67.6%	—	—	—	—	71
経済学研究科	30	60	37	61.7%	4	12	8	66.7%	45
言語科学研究科	33	66	50	75.8%	5	15	29	193.3%	79
グローバル・スタディーズ研究科	70	140	160	114.3%	14	42	24	57.1%	184
理工学研究科	250 【50】	500 【50】	392	78.4%	20	60	49	81.7%	441
地球環境学研究科	60	120	186	155.0%	10	30	45	150.0%	231
応用データサイエンス学位プログラム	【50】	【50】	54	108.0%	—	—	—	—	54
合 計	678	1,396	1,178	85.3%	104	312	297	95.2%	1,475

※法科大学院の定員は、文部科学省告示により入学定員の3倍であるため、各年度の入学定員から算出し、収容定員は120（40+40+40=120）とする。

定員充足率の算出においては2、3年制の各入学定員に各標準修業年限を乗じた数〔（25×3）+（15×2）=105〕を基礎とする。

※総合人間科学研究科看護学専攻、グローバル・スタディーズ研究科国際協力学専攻、応用データサイエンス学位プログラムは修士課程のみ設置。

※応用データサイエンス学位プログラムの入学定員及び収容定員は、研究科等連係基本実施組織として連係及び協力する理工学研究科の定員を活用している。

助産学専攻科

(2023年5月1日現在)

専攻科	入学 定員	収容 定員	1年次	学生数	収容定員 充足率
助産学専攻科	10	10	10	10	100.0%

社会人学生数

(2023年5月1日現在)

研究科	博士前期 課程	博士後期 課程	総計
神学研究科	6	3	9
哲学研究科	—	0	0
文学研究科	11	19	30
実践宗教学研究科	19	14	33
総合人間科学研究科	32	29	61
法学研究科 法学専攻 法曹養成専攻※	4	0	4
	19	—	19
経済学研究科	7	4	11
言語科学研究科	28	21	49
グローバル・スタディーズ研究科	66	14	80
理工学研究科	6	14	20
地球環境学研究科	48	23	71
応用データサイエンス学位プログラム	39	—	39
合 計	285	141	426

※法曹養成専攻は「専門職学位課程」

外国人学生数

身分		学部生	大学院生	交換留学生	インディグリー生	その他※	総計
国・地域							
アジア	中華人民共和国	277	356	19	35	45	732
	大韓民国	153	12	17			182
	ベトナム社会主義共和国	21	15	1	1	1	39
	台湾	13	8	5	1	1	28
	フィリピン共和国	15	7	4		1	27
	インドネシア共和国	12	7	2			21
	タイ王国	8	7	2	1		18
	ミャンマー連邦共和国	3	9			2	14
	インド共和国	5	6	2			13
	マレーシア	3	3	1			7
	バングラデシュ人民共和国	3	3				6
	シンガポール共和国	4	1				5
	東ティモール民主共和国	3	1				4
	スリランカ民主社会主義共和国	1	2				3
	モンゴル国	2	1				3
	ネパール	2					2
	カンボジア王国	1	1				2
	パキスタン・イスラム共和国	1	1				2
	ブルネイ・ダルサラーム国					2	2
	モルディブ共和国		1				1
	北朝鮮	1					1
	ブータン王国		1				1
	ラオス人民民主共和国					1	1
小計		528	442	53	38	53	1,114
ヨーロッパ	ドイツ連邦共和国	3	4	51	4		62
	フランス共和国		6	41	1		48
	英国	1	3	23			27
	イタリア共和国	3	2	7		1	13
	ロシア連邦	1	3	9			13
	スペイン王国			12			12
	ウクライナ	6	3		2		11
	スイス連邦	1	1	7			9
	オランダ王国	1	2	5			8
	ポーランド共和国		3	3		1	7
	フィンランド共和国		1	3			4
	ハンガリー			4			4
	ポルトガル共和国	1		3			4
	ノルウェー王国	1		3			4
	ルクセンブルク大公国	1		2		1	4
	カザフスタン共和国	1	1	1			3
	スウェーデン王国			3			3
	デンマーク王国			2	1		3
	アイルランド			3			3
	キルギス共和国					1	1
	ルーマニア		1				1
ヨーロッパ	ベルギー王国			1			1
	オーストリア共和国			1			1
	ジョージア				1		1
	トルクメニスタン		1				1
	リトアニア共和国		1				1
	アゼルバイジャン共和国		1				1
	ウズベキスタン共和国		1				1
	セルビア共和国			1			1
	スロバキア共和国		1				1

(2023年10月1日現在)

身分		学部生	大学院生	交換留学生	インディグリー生	その他※	総計
国・地域							
ヨーロッパ	ボスニア・ヘルツェゴビナ					1	1
	スロベニア共和国		1				1
	小計	20	36	185	9	5	255
中東	ヨルダン		2				2
	イラン・イスラム共和国	2					2
	シリア・アラブ共和国	1					1
	イエメン共和国			1			1
	トルコ共和国					1	1
	レバノン共和国		1				1
	イスラエル					1	1
	アラブ首長国連邦		1				1
	サウジアラビア王国		1				1
	小計	3	5	1	0	2	11
アフリカ	カメルーン共和国	2	9		6		17
	ナイジェリア連邦共和国		9				9
	ガーナ共和国		2			1	3
	ウガンダ共和国		3				3
	コートジボワール共和国		2				2
	ジンバブエ共和国			1		1	2
	コンゴ民主共和国		1				1
	エジプト・アラブ共和国	1					1
	エチオピア連邦民主共和国		1				1
	スーダン共和国	1					1
	アンゴラ共和国		1				1
	タンザニア連合共和国		1				1
	マラウイ共和国		1				1
	南アフリカ共和国	1					1
	アルジェリア民主人民共和国					1	1
	ギニアビサウ共和国		1				1
	小計	5	31	1	6	3	46
北米	アメリカ合衆国	48	47	49	65	2	211
	カナダ	3	6	10			19
	小計	51	53	59	65	2	230
中南米	メキシコ合衆国	2	5	12			19
	ブラジル連邦共和国	4	2	2		1	9
	コロンビア共和国		3	2			5
	ジャマイカ		3				3
	ペルー共和国		1				1
	バルバドス		1				1
	グアテマラ共和国			1			1
	ニカラグア共和国		1				1
	ウルグアイ東方共和国					1	1
	チリ共和国			1			1
	小計	6	16	18	0	2	42
オセアニア	オーストラリア連邦	2	4	12			18
	ニュージーランド	1	1	2			4
	ミクロネシア連邦	1	1				2
	マーシャル諸島共和国		1				1
	フィジー共和国		1				1
オセアニア	パラオ共和国	1					1
	小計	5	8	14	0	0	27
総計		618	591	331	118	67	1,725

※「その他」の身分は、研究生、外国人特別研究生、科目等履修生、委託聴講生の合計。

2023年度実施入試（2024年度入学）

学部

入試区分 学部	入学 定員	一般選抜 (学部学科試験・ 共通テスト併用方式)				一般選抜 (TEAPスコア利用方式)				一般選抜 (共通テスト利用方式 4教科型)				一般選抜 (共通テスト利用方式 3教科型)				一般選抜入試合計			
		募集 人員	志願 者数	合格 者数	入学 者数	募集 人員	志願 者数	合格 者数	入学 者数	募集 人員	志願 者数	合格 者数	入学 者数	募集 人員	志願 者数	合格 者数	入学 者数	募集 人員	志願 者数	合格 者数	入学 者数
神学部	50	12	38	14	10	8	20	8	2	2	22	2	2	2	87	7	2	24	167	31	16
文学部	510	187	1,734	635	205	119	944	330	47	18	664	193	6	15	1,454	252	19	339	4,796	1,410	277
総合人間科学部	305	109	1,140	290	84	80	490	134	32	13	506	106	3	12	507	79	10	214	2,643	609	129
法学部	330	137	1,227	547	122	91	621	224	30	11	705	172	0	6	1,164	172	8	245	3,717	1,115	160
経済学部	330	170	2,801	774	145	65	555	135	30	19	1,232	210	7	7	874	104	9	261	5,462	1,223	191
外国語学部	500	162	2,271	924	180	124	1,371	498	80	13	632	142	6	13	1,601	250	17	312	5,875	1,814	283
総合グローバル学部	220	70	745	279	67	65	562	112	14	2	355	48	2	3	493	63	3	140	2,155	502	86
国際教養学部	186	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
理工学部	410	134	2,436	843	137	64	403	180	49	9	805	237	5	8	1,110	279	6	215	4,754	1,539	197
合 計	2,841	981	12,392	4,306	950	616	4,966	1,621	284	87	4,921	1,110	31	66	7,290	1,206	74	1,750	29,569	8,243	1,339

※一般入試合格者には、補欠入学許可者を含む

入試区分 学部		推薦入試（指定校）				推薦入試（公募制）				カトリック高等学校 対象特別入試※			海外就学経験者 入試			神学部推薦入試			外国人入試		
		募集 人員	志願 者数	合格 者数	入学 者数	募集 人員	志願 者数	合格 者数	入学 者数	志願 者数	合格 者数	入学 者数	志願 者数	合格 者数	入学 者数	志願 者数	合格 者数	入学 者数	志願 者数	合格 者数	入学 者数
神学部		8	5	5	5	8	20	15	15	19	14	14	0	0	0	2	1	1	0	0	0
文学部		53	61	61	61	108	207	97	95	109	52	52	74	29	24	—	—	—	26	3	3
総合人間科学部		24	17	17	17	67	207	73	72	117	47	47	73	23	14	—	—	—	124	9	8
法学部		32	39	39	39	53	150	54	54	115	60	60	52	17	10	—	—	—	27	3	2
経済学部		18	23	23	23	51	130	46	46	68	38	37	84	16	8	—	—	—	82	13	7
外国語学部		55	53	53	53	133	177	100	100	80	53	53	82	31	17	—	—	—	7	1	0
総合グローバル学部		20	23	23	23	60	147	58	58	53	30	30	64	12	8	—	—	—	7	1	0
国際教養学部		4	4	4	4	37	68	30	30	12	6	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
理工学部		151	151	151	151	30	45	19	19	13	6	6	62	10	5	—	—	—	30	20	11
合 計		365	376	376	376	547	1,151	492	489	586	306	305	491	138	86	2	1	1	303	50	31

※カトリック高等学校対象特別入試の志願者数は、併願を含む。実質志願者数は352人。

入試区分 学部	教育提携校特別 推薦入試※			イエズス会高校 特別推薦入学			海外指定校入試 (春入学)			社会人入試			国際バカロレア 入試（第1期）			国際バカロレア 入試（第2期）			難民高等教育 プログラム		
	志願 者数	合格 者数	入学 者数	志願 者数	合格 者数	入学 者数	志願 者数	合格 者数	入学 者数	志願 者数	合格 者数	入学 者数	志願 者数	合格 者数	入学 者数	志願 者数	合格 者数	入学 者数	志願 者数	合格 者数	入学 者数
神学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	0	0	0	—	—	—	0	0	0
文学部	8	8	8	2	2	2	0	0	0	—	—	—	0	0	0	2	0	0	0	0	0
総合人間科学部	9	9	9	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	3	1	0	0	0	0
法学部	7	7	7	2	2	2	0	0	0	—	—	—	5	4	1	7	3	1	0	0	0
経済学部	7	7	7	3	3	3	0	0	0	—	—	—	13	8	1	13	5	2	0	0	0
外国語学部	7	7	7	1	1	1	0	0	0	—	—	—	2	0	0	3	3	3	0	0	0
総合グローバル学部	2	2	2	0	0	0	0	0	0	—	—	—	5	1	1	7	4	2	1	1	1
国際教養学部	2	2	2	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
理工学部	6	6	6	1	1	1	0	0	0	—	—	—	7	5	2	3	3	1	—	—	—
合 計	48	48	48	10	10	10	0	0	0	1	0	0	33	19	5	38	19	9	1	1	1

※教育提携校特別推薦入試には、上海日本人学校高等部特別推薦入試を含む。

◇国際教養学部（書類選考） 1年次入試

	志願者数	合格者数	入学者数
2023年度秋学期入学・第1期	258	174	49
2023年度秋学期入学・第2期	165	43	21
2024年度春学期入学・第1期	313	179	54
2024年度春学期入学・第2期	85	40	30
合 計	821	436	154

※合格者数には補欠入学許可者を含む

◇理工学部英語コース（2023年度秋学期入学）

	第1期			第2期		
	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
グリーンサイエンス	31	23	4	20	8	1
グリーンエンジニアリング	34	15	4	24	7	1
合 計	65	38	8	44	15	2

◇SPSF（2023年度秋学期入学）

学 科	第1期			第2期		
	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
新聞学科	11	8	2	17	11	5
教育学科	21	15	6	7	6	1
社会学科	17	8	1	19	5	5
経済学科	54	31	1	30	14	4
経営学科	59	30	4	39	7	4
総合グローバル学科	32	22	4	32	17	7
合 計	194	114	18	144	60	26

◇海外指定校（2023年度秋学期入学）

学 部	志願者数	合格者数	入学者数
国際教養学部	1	1	1
理工学部グリーンサイエンス	1	1	1
理工学部グリーンエンジニアリング	4	4	4
SPSF 教育学科	1	1	1
SPSF 経営学科	1	1	1
SPSF 総合グローバル学科	1	1	1
合 計	9	9	9

学部 編入学試験

入試区分 学部	編入学試験※			上智大学短期大学部 特別編入学試験（A方式）			上智大学短期大学部 特別編入学試験（B方式）			神学部推薦入学編入		
	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
神学部	6	2	2	0	0	0	1	0	0	4	3	3
文学部	30	8	7	3	3	3	5	1	1	—	—	—
総合人間科学部	12	0	0	5	5	5	9	1	1	—	—	—
法学部	6	2	1	0	0	0	0	0	0	—	—	—
経済学部	17	5	4	1	1	1	0	0	0	—	—	—
外国語学部	6	4	4	1	1	1	2	1	1	—	—	—
総合グローバル学部	8	2	2	0	0	0	1	0	0	—	—	—
国際教養学部	—	—	—	0	0	0	—	—	—	—	—	—
理工学部	9	2	2	0	0	0	0	0	0	—	—	—
合 計	94	25	22	10	10	10	18	3	3	4	3	3

※2月編入学試験（神学部のみ）含む

◇国際教養学部 3年次編入学試験

	志願者数	合格者数	入学者数
2023年度秋学期入学	15	2	2
2024年度春学期入学	11	4	3

◇理工学部英語コース 3年次編入学試験（2023年度秋学期入学）

	志願者数	合格者数	入学者数
理工学部グリーンサイエンス	2	1	1
理工学部グリーンエンジニアリング	1	1	1
合 計	3	2	2

大学院

研究科	博士前期課程／修士課程				博士後期課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
神学研究科	20	10	10	10	4	0	0	0
文学研究科	86	95	41	33	24	4	3	3
実践宗教学研究科	10	21	11	11	3	7	4	4
総合人間科学研究科	59	136	48	45	16	14	10	10
法学研究科（法律学専攻）	20	33	9	8	4	2	2	1
経済学研究科	30	180	40	21	4	1	0	0
言語科学研究科	33	60	32	30	5	13	8	8
グローバル・スタディーズ研究科	※70	167	69	53	※14	13	5	5
理工学研究科	※200	332	215	207	※20	18	18	18
地球環境学研究科	※60	153	76	57	※10	13	6	5
応用データサイエンス学位プログラム	50	96	66	59	—	—	—	—
合 計	638	1,283	617	534	104	85	56	54

※入学定員には秋学期分も含む。2023年度秋学期入学状況は別掲。

◇法学研究科法曹養成専攻（法科大学院）

	定員	志願者数	合格者数	入学者数
2年制コース (8月・9月・1月・合計)	20	72	7	4
3年制コース (8月・9月・1月・合計)	20	91	27	13
学部3年次生特別選抜	若干名	4	1	0
法曹コース(5年一貫型)	(8)*	7	6	5
法曹コース(開放型)	(2)*	0	0	0
合 計	40	174	41	22

※法曹コース（5年一貫型）および法曹コース（開放型）の定員は2年制コースの定員に含む

◇2023年度秋学期入学

研究科	博士前期課程			博士後期課程		
	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
グローバル・スタディーズ研究科	146	33	20	5	3	3
理工学研究科	27	22	13	7	7	6
地球環境学研究科	89	56	43	8	3	2
合 計	262	111	76	20	13	11

助産学専攻科

	定員	志願者数	合格者数	入学者数
助産学専攻科	10	16	11	9

※合格者には、補欠入学許可者を含む

卒業・修了者数等

卒業・修了者数

◇学部

学部	卒業者数	備考
神学部	50	
文学部	488	
総合人間科学部	287	早期卒業生1名
法学部	303	早期卒業生9名
経済学部	297	早期卒業生1名
外国語学部	484	
総合グローバル学部	199	
国際教養学部	168	早期卒業生7名
理工学部	374	早期卒業生2名
合 計	2,650	

◇大学院 博士号授与者数

研究科	課程博士	論文博士
神学研究科	1	0
哲学研究科	1	0
文学研究科	3	0
実践宗教学研究科	1	0
総合人間科学研究科	4	0
法学研究科	0	0
経済学研究科	1	0
言語科学研究科	1	2
グローバル・スタディーズ研究科	2	0
理工学研究科	9	1
地球環境学研究科	5	0
合 計	28	3

◇専攻科

専攻科	修了者数	備考
助産学専攻科	10	

◇大学院

研究科	博士前期課程、修士課程、専門職学位課程（法科大学院）、修了者数	博士後期課程修了者数	備考
神学研究科	6	1	
哲学研究科	—	1	
文学研究科	29	3	
実践宗教学研究科	10	1	
総合人間科学研究科	39	2	
法学研究科			
法律学専攻	9	0	
法曹養成専攻（法科大学院）	14	—	3月15日修了者5名
経済学研究科	16	0	
言語科学研究科	21	1	
グローバル・スタディーズ研究科	79	2	博士前期課程 早期修了4名
理工学研究科	189	9	博士前期課程 早期修了1名 博士後期課程 早期修了1名
地球環境学研究科	102	5	
合 計	514	25	

退学者数

◇学部

学 部	退学者数
神学部	2
文学部	18
総合人間科学部	9
法学部	15
経済学部	14
外国語学部	13
総合グローバル学部	4
国際教養学部	21
理工学部	19
合 計	115

◇専攻科

専攻科	退学者数
助産学専攻科	0
合 計	0

◇大学院（博士後期課程は満期退学も含む）

研究科	博士前期課程・修士課程・ 専門職学位課程（法科大学院）	博士後期課程
神学研究科	2	0
哲学研究科	—	0
文学研究科	3	7
実践宗教学研究科	1	0
総合人間科学研究科	1	8
法学研究科		
法律学専攻	0	1
法曹養成専攻（法科大学院）	10	—
経済学研究科	0	0
言語科学研究科	1	0
グローバル・スタディーズ研究科	7	2
理工学研究科		2
地球環境学研究科	4	1
合 計	29	21

※退学者数は、2024年5月1日現在決裁済みのものに限る

■ 中退率（学部）・・・3.66%

※2020年4月1日学部入学者のうち、2024年3月までに退学した学生の割合。但し、編入学・再入学を除く。

進路

■ 2023年度 学部卒業者・大学院修了者の進路

(人)

設置・学部	進路区分	就職	進学	その他※	未届者	合計
学部		1,976	407	222	45	2,650
神学部		34	12	4	0	50
文学部		396	40	45	7	488
総合人間科学部		228	41	14	4	287
法学部		223	52	22	6	303
経済学部		257	19	17	4	297
外国語学部		409	25	47	3	484
総合グローバル学部		168	11	18	2	199
国際教養学部		96	15	44	13	168
理工学部		165	192	11	6	374
大学院（法科大学院を除く）		331	29	128	37	525
合 計		2,307	436	350	82	3,175

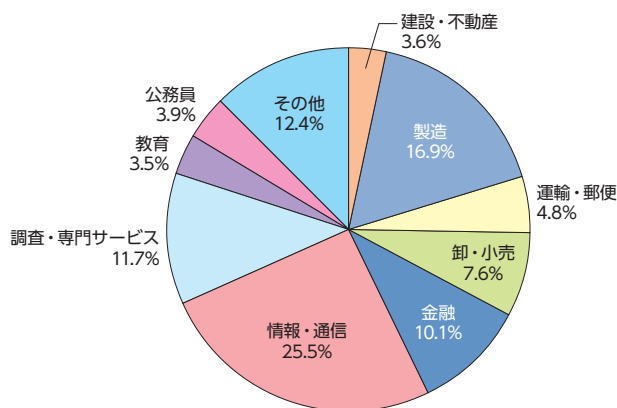
※「その他」は、アルバイト、海外渡航、資格試験勉強、就職活動中（公務員試験勉強中）等を含む。

就職

■ 業種別進路状況

◇全体（学部・大学院）

業種	計	%
建設・不動産	83	3.6%
製造	389	16.9%
運輸・郵便	112	4.8%
卸・小売	175	7.6%
金融	233	10.1%
情報・通信	589	25.5%
調査・専門サービス	270	11.7%
教育	81	3.5%
公務員	90	3.9%
その他	285	12.4%
合 計	2,307	100.0%



進路先上位企業一覧

◇全体（学部・大学院）

順位	企業名	総計
1	アクセンチュア株式会社	31
2	日本アイ・ビー・エム株式会社	26
3	株式会社日立製作所	21
4	株式会社NTTデータ	20
	株式会社リクルート	20
	日本航空株式会社	20
7	楽天グループ株式会社	18
	株式会社NTTドコモ	18
9	ANA（全日本空輸株式会社）	17
10	デロイトトーマツコンサルティング合同会社	16
	りそなグループ	16
12	KDDI株式会社	14
	アビームコンサルティング株式会社	14
	株式会社三井住友銀行	14
	三菱電機株式会社	14
	東京海上日動火災保険株式会社	14
17	ソフトバンク株式会社	13
	東京都	13
19	PwCコンサルティング合同会社／PwCアドバイザリー合同会社	12
	NHK（日本放送協会）	12
21	レバレッジズ株式会社	11
	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	11
	富士通株式会社	11
24	学校法人上智学院	10
	日産自動車株式会社	10
26	アマゾンジャパン合同会社	9
	株式会社野村総合研究所（NRI）	9
	双日株式会社	9
	日本生命保険相互会社	9
30	NECソリューションイノベータ株式会社	8
	SMBC日興証券株式会社	8
	TOPPANホールディングス株式会社	8
	パーソルキャリア株式会社	8
	株式会社みずほフィナンシャルグループ	8
	株式会社三菱UFJ銀行	8
	株式会社博報堂／博報堂DYメディアパートナーズ	8
	大和証券グループ	8
	日本電気株式会社（NEC）	8
39	サントリーホールディングス株式会社	7
	ソニーグループ株式会社	7

（内定者5名以上の就職先）

順位	企業名	総計
39	株式会社DIRBATO	7
	株式会社キーエンス	7
	株式会社ファーストリテイリング	7
	国立大学法人東京医科歯科大学病院	7
	国立大学法人東京大学医学部附属病院	7
	三井住友海上火災保険株式会社	7
	三菱重工株式会社	7
	日鉄物産株式会社	7
	日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社	7
	日本タタ・コンサルタンシー・サービス株式会社	7
	日本通運株式会社	7
	有限責任監査法人トーマツ	7
53	EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社	6
	PwCあらた有限責任監査法人	6
	エン・ジャパン株式会社	6
	デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社	6
	みずほ証券株式会社	6
	株式会社Works Human Intelligence	6
	株式会社ジェシービー	6
	株式会社セプテーニ・ホールディングス	6
	株式会社日本経済新聞社	6
	大日本印刷株式会社（DNP）	6
	東京電力ホールディングス株式会社	6
	東日本電信電話株式会社	6
	豊田通商株式会社	6
	本田技研工業株式会社	6
67	シンプレクス・ホールディングス株式会社	5
	ダイキン工業株式会社	5
	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	5
	伊藤忠商事株式会社	5
	外務省	5
	株式会社JERA	5
	株式会社SHIFT	5
	株式会社クボタ	5
	株式会社ニトリ	5
	三菱UFJ信託銀行株式会社	5
	防衛省	5
	明治安田生命保険相互会社	5
	野村證券株式会社	5

国家試験・資格等

国家公務員等試験合格状況（2024年3月31日現在）

年度	2023年度		
	上智大学		試験全体 合格数(人)
	合格数		
試験区分	全合格者数	うち既卒者数	
国家総合職（大卒）	6	0	1,783
国家総合職（院卒）	7	1	667
国家一般職	22	5	8,269
外務省専門職員	5	*	60
財務専門官	3	0	560
国税専門官	10	5	3,274
裁判所事務官一般職	13	*	2,351
家庭裁判所調査官補（大卒）	2	*	61
家庭裁判所調査官補（院卒）	1	*	14
防衛省専門職員	12	*	123
自衛隊幹部候補	3	0	278
航空管制官	3	2	94
司法試験	11	6	1,781
公認会計士	10	5	1,544
看護師	65	3	55,557
保健師	19	4	7,456
助産師	10	0	2,125
社会福祉士	31	10	20,050

*は非公開につき不明 資料提供：人事院他

教育職員免許状取得者数（2024年3月31日現在）

免許教科	中学校教諭		高等学校教諭		養護教諭	合計
	一種 免許状	専修 免許状	一種 免許状	専修 免許状	一種 免許状	
国語	14	0	14	0	—	28
社会	29	2	—	—	—	31
地理歴史	—	—	17	2	—	19
公民	—	—	27	1	—	28
数学	6	0	5	0	—	11
理科	5	2	5	2	—	14
情報	—	—	4	0	—	4
外国語（英語）	34	3	38	3	—	78
外国語（ドイツ語）	2	0	4	0	—	6
外国語（フランス語）	3	0	3	0	—	6
外国語（スペイン語）	—	0	2	0	—	2
外国語（ロシア語）	—	0	1	0	—	1
宗教	16	0	16	0	—	32
養護	—	—	—	—	11	11
合計	109	7	137	8	11	272

※数字は延べ人数 一括申請受付分 ーは課程認定なし

学芸員課程修了者 46人

国際交流

交換留学協定校数・学術交流協定校数、派遣／受入交換留学生数

(2024年3月31日現在)

国・地域	国・地域 (アルファベット 略称)	交換留学・ 学術交流 協定校数	2023年度派遣 交換留学生数 (上智→海外)	2023年度受入 交換留学生数 (海外→上智)
アジア	インド共和国	India	12 (11)	1
	インドネシア共和国	Indonesia	8 (2)	1
	カンボジア王国	Cambodia	2 (1)	
	シンガポール共和国	Singapore	2	3
	タイ王国	Thailand	10 (5)	3
	大韓民国	S.Korea	9	9
	台湾	Taiwan	3	4
	中華人民共和国(香港含む)	China	26 (5)	10
	フィリピン共和国	Philippines	3	1
	ブルネイ・ダルサラーム国	Brunei	1	2
	ベトナム社会主義共和国	Vietnam	3 (1)	1
	マレーシア	Malaysia	4 (1)	2
	ミャンマー連邦共和国	Myanmar	1 (1)	
	モンゴル国	Mongolia	1 (1)	
	ラオス人民民主共和国	Laos	1 (1)	
中東	イスラエル国	Israel	1 (1)	
	トルコ共和国	Turkey	1	1
	レバノン共和国	Lebanon	1	
	アイスランド	Iceland	1	2
ヨーロッパ	アイルランド	Ireland	1	2
	イタリア共和国	Italy	8 (1)	10
	ウクライナ	Ukraine	1 (1)	
	ウズベキスタン共和国	Uzbekistan	1	
	英国	U.K.	17 (2)	30
	エストニア共和国	Estonia	1	
	オーストリア共和国	Austria	1	1
	オランダ王国	Netherlands	3	2
	カザフスタン共和国	Kazakhstan	1	1
	北マケドニア共和国	North Macedonia	1 (1)	
	キプロス共和国	Cyprus	1	
	クロアチア共和国	Croatia	2	4
	コソボ共和国	Kosovo	1 (1)	
	スイス連邦	Switzerland	5	7
	スウェーデン王国	Sweden	4	10
	スペイン王国	Spain	17	18
	スロベニア共和国	Slovenia	1	1
	チェコ共和国	Czech	2	2
	デンマーク王国	Denmark	1	3
	ドイツ連邦共和国	Germany	28	52
ヨーロッパ	ノルウェー王国	Norway	2	4
	ハンガリー	Hungary	2	1
	フィンランド共和国	Finland	3	3
	フランス共和国	France	28 (3)	49
	ベラルーシ共和国	Belarus	2	

国・地域	国・地域 (アルファベット 略称)	交換留学・ 学術交流 協定校数	2023年度派遣 交換留学生数 (上智→海外)	2023年度受入 交換留学生数 (海外→上智)
ヨーロッパ	ベルギー王国	Belgium	2	3
	ポーランド共和国	Poland	2	1
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	Bosnia-Herzegovina	1 (1)	
	ポルトガル共和国	Portugal	5	5
	リトアニア共和国	Lithuania	2	1
	リヒテンシュタイン公国	Liechtenstein	1	1
	ルーマニア	Romania	1	
	ルクセンブルク大公国	Luxembourg	1	3
	ロシア連邦	Russia	11	11
	アメリカ合衆国	U.S.A.	77 (3)	80
北米	カナダ	Canada	12 (1)	17
	アルゼンチン共和国	Argentina	2	
	ウルグアイ東方共和国	Uruguay	1	
	グアテマラ共和国	Guatemala	1	2
	コスタリカ共和国	Costa Rica	1 (1)	
	コロンビア共和国	Colombia	2	1
	ジャマイカ	Jamaica	1 (1)	
	チリ共和国	Chile	2	3
	ブラジル連邦共和国	Brazil	5	6
	ペルー共和国	Peru	2	1
オセアニア	メキシコ合衆国	Mexico	10 (1)	2
	オーストラリア連邦	Australia	15	20
	ニュージーランド	New Zealand	1	1
	フィジー共和国	Fiji	1	
	ミクロネシア連邦	Micronesia	1 (1)	
	エジプト・アラブ共和国	Egypt	1	
	エチオピア連邦民主共和国	Ethiopia	1 (1)	
	ガーナ共和国	Ghana	1 (1)	
	カメルーン共和国	Cameroon	1	
	ケニア共和国	Kenya	2 (2)	
アフリカ	コートジボワール共和国	Côte d'Ivoire	2 (1)	
	コンゴ民主共和国	Congo	1 (1)	
	ジンバブエ共和国	Zimbabwe	1 (1)	
	タンザニア連合共和国	Tanzania	1 (1)	
	チュニジア共和国	Tunisia	1 (1)	
	ブルキナファソ	Burkina Faso	1 (1)	
	ベナン共和国	Benin	1	
	マラウイ共和国	Malawi	1 (1)	
	南アフリカ共和国	South Africa	2	1
	合 計		401 (59)	373

※2023年度受入はオンラインでの留学生も含む

※協定校数()内は内数で学術交流協定校(学生交換は行っていない)

※交換留学生数は、在外履修制度による派遣・受入学生、ACUCA/MAGISコンソーシアム加盟大学からの受入学生、および3キャンパス枠交換留学、3+2プログラム派遣学生を含む

海外短期プログラム 参加者数

プログラム名	参加者数	
	渡航型	オンライン
海外短期語学講座	312	—
海外短期研修	99	—
AJCU-AP サービスラーニングプログラム	3	—
グローバルリーダーシッププログラム	6	—
アフリカに学ぶA(春学期)	12	—
アフリカに学ぶB(秋学期)	8	—
インドの社会経済・人間開発に学ぶ： 南インドのケララ州を実例に	9	—
国際公務員をめざして(実務型国連集中研修)	—	—
ジュネーブ国際機関集中研修	25	—
東南アジアに学ぶ(春学期)	15	—
東南アジアに学ぶ(秋学期)	18	—
エストニア・スタディーツアー： 持続可能な社会構築に向けた教育の可能性	6	—
国連の役割と機能	22	—
多文化共生社会とリーダーシップ (米国ゴンザガ大学プログラム)	—	—
合 計	535	0

グローバル教育センター科目(海外拠点)参加者数

プログラム名	参加者数	
	渡航型	オンライン
グローバルインターンシップ科目(短期)	13	7
グローバルインターンシップ科目(長期)	3	—
Sophia GEDグローバルインターンシップ(長期)	—	2
合 計	16	9

海外留学生対象短期プログラム Sophia Short-term Program参加者数

プログラム名	参加者数
Summer Session in Japanese Language	59
Summer Session in East Asian Studies	97
January Session in Japanese Studies	44
Sophia Winter Session for Basic Inter-disciplinary Environmental Studies	0
合 計	200

※本学正規生の参加者数は含めず。3日間以上本学にて授業を行ったものののみ記載。

交換留学協定校・学術交流協定校

North America

Canada

University of Alberta
The University of British Columbia
King's University College at the University of Western Ontario
Université Laval
The University of Manitoba
McGill University
University of Regina
University of Victoria
The University of Western Ontario
Université de Montréal
York University
University of Ottawa ※1

U.S.A.

The University of Arizona
Bennington College
Boston College ※2
California State University, Fullerton
University of California, Santa Cruz
Canisius College ※2
The Catholic University of America
Clemson University
The University of Connecticut
Creighton University ※2
University of Colorado Boulder
DeSales University
Duquesne University
George Mason University
Georgetown University ※2
University of Georgia

Georgia Institute of Technology
Gonzaga University ※2
Haverford College
University of Hawaii at Manoa
College of The Holy Cross ※2
John Carroll University ※2
The University of Kansas
Le Moyne College ※2
Loyola Marymount University ※2
Loyola University Chicago ※2
Loyola University New Orleans ※2
University of Louisiana at Lafayette
Marquette University ※2
University of Massachusetts Amherst
The University of Massachusetts Boston
University of Miami
University of Minnesota
The University of Mississippi
University of Missouri-Columbia
University of Montana
The New School
University of North Carolina at Chapel Hill
University of North Carolina at Charlotte
North Carolina State University
University of North Florida
Northwest Missouri State University
The University of Notre Dame du Lac
Pace University
The University of Pittsburgh
University of Portland
Rose-Hulman Institute of Technology
Saint Mary's College of California

Saint Joseph's University ※2
Saint Peter's University ※2
San Diego State University
San José State University
University of San Francisco ※2
Santa Clara University ※2
The University of Scranton ※2
Seattle University ※2
Seton Hall University
St. John's University
St. Mary's University
St. Norbert College
University of St. Thomas
Suffolk University
Tennessee Tech University
The University of Texas at Austin
University of Virginia
Washington and Jefferson College
University of West Florida
University of West Georgia
Winona State University
University of Wisconsin-Madison
University of Wisconsin-Whitewater
Wittenberg University
Xavier University ※2
York College of Pennsylvania
The University of California, Berkeley ※1
University of California, Los Angeles, School of Nursing ※1
Fordham University ※1 ※2

小計.....89校

Asia

Brunei

Universiti Brunei Darussalam

China

Beijing Foreign Studies University
Central University of Finance and Economics
China Foreign Affairs University
Dalian University of Technology
Fudan University
Harbin Institute of Technology
Nankai University
Peking University
Renmin University of China
Shanghai International Studies University
Tsinghua University
Wuhan University
Xiamen University
The Chinese University of Hong Kong
The Chinese University of Hong Kong, Shenzhen
Hong Kong University of Science and Technology
The University of Hong Kong
The Education University of Hong Kong
City University of Hong Kong
University of Macau
Xi'an Jiaotong-Liverpool University
Beijing International Studies University ※1
Huazhong University of Science and Technology ※1
Inner Mongolia University of Technology ※1
University of Electronic Science and Technology of China ※1
Yanshan University ※1

Indonesia

Universitas Gadjah Mada
Universitas Indonesia
Institut Teknologi Bandung

IPB University
Petra Christian University
Sanata Dharma University ※2
Atma Jaya Catholic University of Indonesia ※1
Maranatha Christian University ※1

Malaysia

Universiti Kebangsaan Malaysia
University of Malaya
Universiti Teknologi Malaysia
University Utara Malaysia ※1

Philippines

Ateneo de Manila University ※2
De La Salle University
University of the Philippines

Singapore

Yale-NUS College
Singapore Management University

South Korea

Catholic University of Daegu
The Catholic University of Korea
Hankuk University of Foreign Studies
Hanyang University
Pusan National University, College of Humanities
Seoul National University
Sogang University ※2
Sookmyung Women's University
Yonsei University

Taiwan

Fu Jen Catholic University ※2
National Chengchi University
National Taiwan University

Thailand

Chiang Mai University
Chulalongkorn University
Mahidol University

Thammasat University
Kasetsart University
King Mongkut's University of Technology Thonburi ※1
Khon Kaen University ※1
Panyapiwat Institute of Management ※1
Thai-Nichi Institute of Technology ※1
Xavier Learning Community ※1 ※2

Cambodia

Royal University of Fine Arts ※1
Royal University of Phnom Penh

India

CHRIST (Deemed to be University)
Assumption College ※1
Kristu Jayanti College ※1
Jadavpur University ※1
Loyola College of Social Sciences ※1 ※2
St. Aloysius College ※1 ※2
St. Berchmans College ※1
St. Joseph's College ※1 ※2
St. Teresa's College ※1
St. Xavier's College, Ahmedabad ※1 ※2
St. Xavier's College, Kolkata ※1 ※2
St. Xavier's College, Mumbai ※1 ※2

Laos

National University of Laos ※1

Myanmar

Yangon Technological University ※1

Mongolia

Mongolian University of Science and Technology ※1

Vietnam

VNU University of Social Sciences and Humanities, Hanoi
Foreign Trade University
Can Tho University ※1

小計.....86校

Latin America

Argentina

Universidad Católica de Córdoba ※2
Universidad del Salvador

Brazil

Universidade de Brasília
Universidade Estadual de Campinas
Pontificia Universidade Católica do Rio Grande do Sul
Pontificia Universidade Católica de São Paulo
Universidade de São Paulo

Chile

Pontificia Universidad Católica de Chile
Universidad Alberto Hurtado ※2

Colombia

Pontificia Universidad Javeriana ※2
Universidad de los Andes

Costa Rica

University for Peace ※1

Guatemala

Universidad Rafael Landívar ※2

Mexico

Universidad de Guadalajara
Universidad de Guanajuato
Universidad Iberoamericana Ciudad de México ※2
Universidad Iberoamericana León ※2
Instituto Tecnológico Autónomo de México
Instituto Tecnológico y de Estudios Superiores de Monterrey

Instituto Tecnológico y de Estudios Superiores de Occidente ※2
Universidad Nacional Autónoma de México
El Colegio de México
Instituto de Investigaciones Dr. José María Luis Mora ※1

Peru

Universidad Pacífico
Pontificia Universidad Católica del Perú

Uruguay

Universidad Católica del Uruguay ※2

Jamaica

The University of West Indies ※1

小計.....27校

※1 学術交流協定のみ
※2 イエズ会大学

Europe

Austria

Karl-Franzens-Universität Graz

Belarus

Belarusian State University
Minsk State Linguistic University

Belgium

Université Catholique de Louvain
Université de Namur ※2

Bosnia-Herzegovina

University of Sarajevo ※1

Czech Republic

Anglo-American University
Charles University, Faculty of Arts

Croatia

University of Zagreb
The Zagreb School of Economics and Management

Cyprus

University of Cyprus

Denmark

Aarhus University

Estonia

University of Tartu

Finland

Aalto University School of Business
Hanken School of Economics
The University of Turku

France

Université d'Aix-Marseille
Université d'Angers
Université Catholique de l'Ouest in Angers
EAC Group Business School of Arts, Culture and Luxury
Burgundy School of Business
École Supérieure des Sciences Commerciales D'Angers
École Supérieure de Commerce et Management
Université de Franche-Comté, Besançon
Institut Catholique de Paris
Institut d'Etudes Politiques de Grenoble
Institut d'Etudes Politiques de Paris
Institut National des Langues et Civilisations Orientales
NEOMA Business School
Université Catholique de Lille
Université de Lille
Université Catholique de Lyon
Université Panthéon-Assas Paris II
Université Paris X Nanterre
Université Bordeaux Montaigne
Université Jean Moulin Lyon 3
Université de Strasbourg
ESSEC Business School
Institut Catholique de Toulouse
Université Paris-Dauphine
Université Paul-Valéry Montpellier 3
École française d'Extrême-Orient ※1
Université de Lorraine ※1
Sorbonne Université ※1

Germany

Universität Bayreuth
Rheinische Friedrich-Wilhelms-Universität Bonn
Freie Universität Berlin
Technische Universität Berlin
Bremen University of Applied Sciences
Heinrich-Heine-Universität Düsseldorf
Katholische Universität Eichstätt-Ingolstadt
European University Viadrina
Albert-Ludwigs-Universität Freiburg

Ruprecht-Karls-Universität Heidelberg

Universität zu Köln

Hochschule für Wirtschaft und Gesellschaft Ludwigshafen

Martin-Luther-Universität Halle-Wittenberg

Hochschule für Philosophie München ※2

Universität Paderborn

Universität Rostock

Universität des Saarlandes

Philosophisch-Theologische Hochschule Sankt Georgen ※2

Technische Hochschule Nürnberg Georg Simon Ohm

Universität Trier

Eberhard Karls Universität Tübingen

Universität Witten/Herdecke

Hamburg University

University of Bamberg

Universität Duisburg-Essen

Universität Erfurt

Ludwig-Maximilians-Universität München

Julius-Maximilians-Universität Würzburg

Hungary

Eötvös Loránd University

The University of Pécs

Iceland

University of Iceland

Ireland

Dublin City University

Italy

Università di Cagliari

Università Carlo Cattaneo

Università Cattolica del Sacro Cuore

Università Ca' Foscari Venezia

Università degli studi di Napoli "L'Orientale"

Università degli Studi di Perugia

Università di Roma "La Sapienza"

Università per Stranieri di Perugia ※1

Kazakhstan

Al-Farabi Kazakh National University

Kosovo

University of Prishtina ※1

Liechtenstein

University of Liechtenstein

Lithuania

Vilnius University

Vytautas Magnus University

Luxembourg

Université du Luxembourg

Netherlands

University of Amsterdam, Faculty of Social and Behavioural Sciences

Leiden University

Rotterdam Business School

North Macedonia

Ss. Cyril and Methodius University in Skopje ※1

Norway

University of Oslo

University of South-Eastern Norway

Poland

Jagiellonian University

Warsaw University of Technology

Portugal

Universidade de Aveiro

Universidade de Coimbra

Universidade do Minho

Universidade Católica Portuguesa

Universidade do Porto

Romania

University of Bucharest

Russia

Far Eastern Federal University

Herzen State Pedagogical University of Russia

Moscow City University

Moscow State Institute of International Relations(University)

of the Ministry of Foreign Affairs of the Russian Federation

Moscow State University

Moscow State Linguistic University

Petrozavodsk State University

Ryazan State University

Saint Petersburg State University

Saint-Petersburg State University of Culture

Voronezh State University

Slovenia

University of Ljubljana

Spain

Universitat Autònoma de Barcelona

Universidad de Burgos

Universidad Católica de Valencia San Vicente Mártir

Universidad Pontificia Comillas ※2

Universidad de Córdoba

Universidad de Deusto ※2

Universidad de Granada

Universidad de Jaén

Universidad de La Laguna

Universidad de Las Palmas de Gran Canaria

Universitat de Lleida

Universidad Autónoma de Madrid

Universidad Loyola Andalucía ※2

Universidad de Navarra

Universidad de Salamanca

Universidad de Sevilla

Universitat de València

Sweden

University of Gothenburg

Linköping University

Uppsala Universitet

Umeå University

Switzerland

Franklin University Switzerland

The Graduate Institute of International and Development Studies

Université de Genève

Universität St.Gallen

Zurich University of Applied Sciences

U.K.

Birkbeck, University of London

The University of Birmingham

University of Bristol

De Montfort University

University of East Anglia

The University of Edinburgh

University of Hertfordshire

University of Leeds

Newcastle University

The University of Reading

The University of Stirling

University of London the School of Oriental and African Studies

The University of Sheffield

St Mary's University Twickenham London

York St John University

University of Bath ※1

Liverpool Hope University ※1

Ukraine

Ukrainian Catholic University ※1

Uzbekistan

Tashkent State Institute of Oriental Studies

小計..... 161校

Oceania

Australia

The University of Adelaide
Australian Catholic University
Deakin University
Griffith University
La Trobe University
Macquarie University
The University of Melbourne
The University of Notre Dame Australia
The University of Queensland
Royal Melbourne Institute of Technology(RMIT University)
The University of Sydney
University of Technology, Sydney
The University of Western Australia
University of Wollongong
Western Sydney University

Fiji

The University of the South Pacific

Micronesia

College of Micronesia-FSM ※1

New Zealand

The University of Auckland

小計..... 18校

Africa

Benin

Université d'Abomey-Calavi

Burkina Faso

University Ouaga II ※1

Cameroon

Catholic University of Central Africa ※2

Congo

Université Loyola du Congo ※1 ※2

Côte d'Ivoire

Centre de Recherche et d'Action pour la Paix ※2

Université Félix Houphouët-Boigny ※1

Egypt

Egypt-Japan University of Science and Technology

Ethiopia

Addis Ababa University ※1

Ghana

Catholic Institute of Business and Technology ※1

Kenya

Hekima University College ※1 ※2

University of Nairobi ※1

Malawi

University of Malawi ※1

South Africa

University of Pretoria, Faculty of Humanities
Stellenbosch University

Tanzania

Sokoine University of Agriculture ※1

Tunisia

University of Sousse ※1

Zimbabwe

Arrupe Jesuit University ※1 ※2

小計..... 17校

Middle East

Israel

Tel Aviv University ※1

Lebanon

Université Saint-Joseph ※2

Turkey

Istanbul Bilgi University

小計..... 3校

学生納付金

学部新入生

(単位：円)

	神学部・文学部（新聞学科除く）・総合人間科学部 （心理学科・看護学科除く）・法学部 経済学部・外国語学部・総合グローバル学部 ※SPSFを除く	新聞学科	心理学科	看護学科	理工学部	国際教養 学部・ SPSF
合 計	1,352,650	1,392,650	1,429,650	1,866,650	1,864,650	1,570,650

学部在学生

(単位：円)

	神学部・文学部（新聞学科除く）・ 総合人間科学部（心理学科・看護学 科除く）・法学部・経済学部・ 外国語学部・総合グローバル学部 ※SPSFを除く	新聞学科		心理学科		
	2022・2021年度 入学者	2020年度 入学者	2022・2021年度 入学者	2020年度 入学者	2022・2021年度 入学者	2020年度 入学者
合 計	1,053,000	1,093,000	1,093,000	1,133,000	1,130,000	1,170,000

	看護学科		理工学部		国際教養学部・ SPSF	
	2022・2021年度 入学者	2020年度 入学者	2022・2021年度 入学者	2020年度 入学者	2022・2021年度 入学者	2020年度 入学者
合 計	1,599,000	1,639,000	1,596,000	1,636,000	1,272,000	1,312,000

大学院新入生

(単位：円)

	博士前期課程				
	文科系研究科 （心理学専攻を除く）	心理学専攻		理工学研究科	地球環境学研究科
		基礎心理学コース	臨床心理学コース		
合 計	921,400	951,400	1,001,400	1,597,900	1,032,400

	修士課程		博士後期課程			
	看護学専攻	応用データサイエンス 学位プログラム	文科系研究科 （心理学専攻を除く）	心理学専攻	理工学研究科	地球環境学 研究科
合 計	1,439,400	1,701,400	803,100	833,100	1,023,600	869,100

※大学院長期履修制度及び法学研究科法曹養成専攻の学費を除く

■ 大学院在学生

(単位：円)

	博士前期課程					修士課程
	文科系研究科 (心理学専攻を除く)	心理学専攻		理工学研究科	地球環境学研究科	看護学専攻
		基礎心理学コース	臨床心理学コース			
合 計	760,000	790,000	840,000	1,436,500	871,000	1,278,000

	博士後期課程							
	文科系研究科 (心理学専攻を除く)		心理学専攻		理工学研究科		地球環境学研究科	
	2022年度 入学者	2021年度 入学者	2022年度 入学者	2021年度 入学者	2022年度 入学者	2021年度 入学者	2022年度 入学者	2021年度 入学者
合 計	601,000	641,000	631,000	671,000	821,500	861,500	667,000	707,000

※大学院長期履修制度及び法学研究科法曹養成専攻の学費を除く

■ 法学研究科法曹養成専攻

(単位：円)

	標準（3年制）コース			短縮（2年制）コース	
	2023年度 入学者	2022年度 入学者	2021年度 入学者	2023年度 入学者	2022年度 入学者
合 計	1,466,020	1,169,000	1,209,000	1,443,680	1,209,000

■ 助産学専攻科

(単位：円)

	2023年度 入学者
合 計	1,506,800

※在学継続の学生、大学院長期履修制度の適用者および非正規生の学費については別に定める

奨学金

新入生奨学金	対 象	本学を第一志望とする学部新入生及び大学院新入生。経済的理由により入学が困難、かつ本学に入学する以前の成績が優秀な者。入試出願と同時期に要申請。
	給付額	初年度の授業料相当額、授業料半額相当額、授業料3分の1相当額のいずれか。
ジョン・ニッセル杯奨学金	対 象	本学の学部入学を許可された者のうち、入学以前の学校在籍時に本学が主催するジョン・ニッセル杯において6位までに入賞した者。
	給付額	修業年限内の授業料相当額、半額相当額、3分の1相当額のいずれか（毎年継続審査あり）。
修学奨励奨学金	対 象	学業成績が良好であるにもかかわらず、経済的理由で学業の継続が困難と認められる学部生及び大学院生（家計支持者の死亡等による家計急変者については募集の時期に関わらず対象）。
	給付額	授業料相当額、授業料半額相当額、授業料3分の1相当額のいずれか。
大規模災害による学生納付金減免及び生活支援金給付	対 象	災害救助法に適用された地域に本人または保証人住所を持つ学部生及び大学院生。
	給付額	入学金。授業料については全壊：授業料相当額、半壊：授業料半額相当額のいずれか。また生活支援金として、自宅外通学者5万円、自宅通学者3万円給付。
カトリック高等学校対象特別入学試験奨学金	対 象	上智大学カトリック高等学校対象特別入学試験に合格した学部新入生で、経済的理由により入学が困難、かつ本学の建学の理念を十分に理解し将来その発行者として活躍しうる者。入試出願と同時期に要申請。
	給付額	授業料相当額、授業料半額相当額、授業料3分の1相当額のいずれか。（修業年限採用※毎年継続審査あり）
大学院博士後期課程研究者育成奨学金	対 象	博士後期課程に在学中、明確な研究計画を有し、鋭意研究に取り組み、学位取得に充分到達すると研究科が判断する者。
	給付額	理工学研究科400,000円、理工学研究科以外300,000円（修業年限採用※毎年継続審査あり）
法科大学院法曹コース特別奨学金	対 象	本学法曹コースに在籍し、法学部から法学研究科法曹養成専攻への進学を許可された者のうち、極めて優秀かつ在学中の司法試験合格を目指す者。
	給付額	授業料相当額（修業年限採用※毎年継続審査あり）
法科大学院在学学生特別奨学金	対 象	学業成績等が優秀で、将来国内外の様々な社会的要請に貢献できる優秀な法曹に至る見込みのある法科大学院在学学生。
	給付額	授業料相当額または授業料半額相当額
デュアルディグリープログラム奨学金	対 象	デュアルディグリープログラムに参加する学業成績が極めて優秀と認められる大学院生。
	給付額	留学中の本学授業料及び教育充実費相当額
利子補給奨学金	対 象	上智大学が提携する金融機関のローンを契約し学費を納入した者。
	給付額	教育ローン利息分（上限あり）
外国人留学生生活支援奨学金	対 象	学業成績良好かつ経済的支援が必要と思われる私費外国人留学生。
	給付額	300,000円
篤志家奨学金	篤志家の寄付による奨学金で、それぞれの篤志家の意向に適合すると認められる優秀な学生を支援するもの。 〈出願制〉・森正文・修学支援（経済的理由により学業の継続が困難な学部生・大学院生）・松本あす加・ドイツ語学科（ドイツ語圏への留学が決定し、経済的理由により学業の継続が困難なドイツ語学科生）・理工学部同窓会（海外短期研修、海外研究発表等、グローバルな視野を培う活動を行っている者）・教育学科（教育学科生）・竹島久子イギリス研究（イギリス留学決定者またはイギリスに強い関心を持ち、イギリス文学、政治、経済、外交、歴史等イギリスを研究領域とする日本人の学部3年次生、4年次生及び大学院生）・川中なほ子（神学又はJ・H・ニューマンを研究対象とする学部生・大学院生）・ティヤール・ド・シャルダン（優秀な課題論文を提出した学部4年次生及び大学院生）・優心（心理学科に所属する関東地方を除く地域から進学した自宅外通学生）・経済学部・経覧会（海外留学経験者、ボランティア、ゼミ、部・サークル活動で成果を上げた経済学部生）・学生寮（学業、課外活動、その他社会貢献活動で活躍している学部生・大学院生）・UD TRUCKS GLOBAL CHALLENGE SCHOLARSHIP（グローバル社会における諸問題に関心があり、将来グローバル企業等で活躍する高い志を持つ学部1年次生～3年次生及び大学院博士前期課程1年次生）・㈱ソフィアキャンパスサポート生活支援（家庭環境の急変により修学継続が困難となった学部生・大学院生）・理工学振興会（理工学研究科生）・創立100周年上智・聖母看護（看護学科を第一志望に受験した一般入試成績上位者）・ソフィア会生活支援（公募制推薦入試に合格した者のうち、首都圏（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県）以外の地域出身かつ進学後に自宅外通学をする者）・フランク アンド ジーン・スコリノス（学部生、学業成績が良好で経済的理由で学業の継続が困難な者）・安達（東南アジア・アフリカ諸国からの私費外国人留学生）・小高（学部生、学業成績が良好で経済的理由で学業の継続が困難な私費外国人留学生）・センチュリー（アジア諸国出身の私費外国人留学生）・アジア留学生（東・東南アジアからの、学部1年次生及び大学院1年次生を除く私費外国人留学生）・ダイキン留学生（論文を提出しその評価が優れている私費外国人留学生）・住友商事（ベトナム国籍を有する私費外国人留学生）・第一興商（東南アジア及び東アジアからの私費外国人留学生）・中国留学生会（中国国籍を有し、学業成績が優秀かつ経済的理由により学業の継続が困難な私費外国人留学生）・理工学部企業経営者の会（理工学研究科博士後期課程に在籍し、優秀な研究業績を収め、将来の活躍が大いに期待される者）・二幸産業株式会社記念（経済的に困難な東南アジア・南アジア・アフリカ出身の私費外国人留学生）・チエル株式会社記念（経済的に困難な東南アジア・アフリカ出身の私費外国人留学生）・フォス神父・ディーターズ神父・木村説二記念（経済的に困難なアフリカ出身の私費外国人留学生）・金祝燦燦会勉学奨励金（経済的に困難な私費外国人留学生）・留学生夢支援懸賞論文奨学金（母国と日本の架け橋として「夢」を実現しようとする私費外国人留学生）	
	〈推薦制〉・ハル濱学院顕彰（ロシア・ソ連研究を志し、それを証する成果を上げたロシア語学科生及び大学院生）・大泉（文・総合人間科学部生）・国文（国文学専攻生）・セントルイス（フランス文学科生及びフランス文学専攻生）・ラッセル・ブラインズ（新聞学科3年次生・4年次生）・CNA保険（日本国籍を有し、学業成績が優秀で、文化、政治、法律及び経済のいずれかの分野で国際研究を行う神・理工を除く各学部3年次生・4年次生）・西村（イスパニア語学科生）・沼田拓実（化学分野を専攻する理工学部生）・独文・独語（ドイツ文学科生及びドイツ語学科生）・神学部（神学部生）・熊谷（神学研究科生）・創立100周年上智・聖母看護（看護学科生）・愛和会緩和ケア看護（がん・緩和ケア看護の分野を学ぶ総合人間科学研究科看護学専攻学生）・英文学科（交換留学をする英文学科生）・レモス（国際教養学部生）・ソフィアLAWファンド（法学部及び法科大学院生）・経覧会（経済学部生）・後援会（経済的理由により学業の継続が困難な学部生）・SOPHIAプレート（経済的理由により学業の継続が困難な学部生・大学院生）・英語学科先哲（学部生）・伊藤鎮（研究業績が極めて優秀な理工学研究科理工学専攻機械工学領域学生）・原子物理学国際交流（原子物理学を研究する大学院生のうち、奨学金による補助が必要な留学生、あるいは国際会議等での発表に当たり奨学金による補助が必要な学生）・フランスコ・スアレス（大学及び入学試験の成績が優秀で、将来国内外の様々な社会的要請に貢献できる優秀な法曹に至る見込みのある法科大学院新入生）・ヴァーカーリ（国際教養学科の2年次生～4年次生の私費外国人留学生）・ロベール・J・パロン（グローバル社会専攻及び国際教養学部の私費外国人留学生）・理工学部同窓会（本学理工学研究科博士後期課程への進学を目指し、早期卒業制度の適用が認められた学部3年次生・博士前期課程1・2年次生）・理工大学院進学支援（成績優秀かつ本学理工学部から理工学研究科博士前期課程に内部進学する者） 〈その他〉・四枢機卿奨学金（ミャンマー司教団等から推薦されたカトリック信者である私費外国人留学生）・難民学生支援奨学金（国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所から推薦された難民もしくは難民の背景をもつ私費外国人留学生）・上智大学大学院地球環境学研究科留学計画特別（MCT）奨学金① 上智大学大学院地球環境学研究科留学計画特別（UWI Cave Hill）奨学金②（国際協力推進協会（APIC）との教育提携にもとづき本学大学院地球環境学研究科に私費留学生する①ミクロネシアで環境活動に従事する研究者、②UWI Cave Hillの推薦による環境保護に関心の高い学生）・イエズス会推薦外国人学生奨学金（イエズス会より推薦され原則としてアフリカ地域からのイエズス会士又はイエズス会神学生である外国人学生／又はMyanmar Jesuit Regionより推薦された私費外国人留学生）・上智大学外国人学生緊急特別支援奨学金（戦争、大規模災害等により修学の継続が困難となり緊急的に学費又は生活費の支援を必要とする本学正規生）	
海外指定校奨学金	本学を第一希望とし、本学海外指定校からの推薦を受け入学が許可された私費外国人留学生を対象に奨学金を給付するもの。 ・海外指定校奨学金（インドネシア）・海外指定校奨学金（ミクロネシア）・海外指定校奨学金（東ティモール）	

研究・知的財産等

教育・研究事業の採択状況

- (a) 文部科学省 スーパーグローバル大学等創成支援事業（タイプB）[2014年度～2023年度]
「多層的ハブ機能を有するグローバルキャンパスの創成と支援ガバナンスの確立」
- (b) 文部科学省 人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業 [2023年度～2026年度]
「英語教育学イニシアティブ・プログラム」 ※東京外国語大学（代表校）、筑波大学・上智大学（連携校）
- (c) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 生命科学・創薬研究支援基盤事業 [2022年度～2026年度]
「標的RNAと医薬品候補化合物（核酸・ペプチド等新規モダリティを含む）複合体生成・共結晶化による支援と高度化（1-4）」
「RNAターゲット創薬のためのRNA分子設計・共結晶化・試料調製支援と高度化」
- (d) 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた共通課題解決型産学官連携研究開発事業／共通課題解決型基盤技術開発 [2020年度～2023年度] 「高耐久性を目指したラジカルクエンチャーの研究開発」
- (e) 国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 ALCA-Next [2023年度～2026年度]
「鉛フリーハロゲン化金属ペロブスカイトの2次元構造制御による高効率・高耐久性太陽電池」
- (f) 国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）「人間の尊厳、平和、サステナビリティのための教育に関するユネスコチャーター」
- (g) 千代田区 千代田学 「千代田区発！父親のための育児講座～パパが支える産後早期の育児～」
- (h) 新宿区 大学等との連携による商店街支援事業補助金 「あけぼのばし商店街（住吉町商工会）活性化プロジェクト」
- (i) 三菱みらい育成財団「21世紀型教養教育プログラム」 「基盤教育構想—全学共通科目の見直しによる新しい教養教育の実践」
- (j) 公益社団法人 国土緑化推進機構 「緑と水の森林ファンド」公募事業 「ソフィアの森」の整備

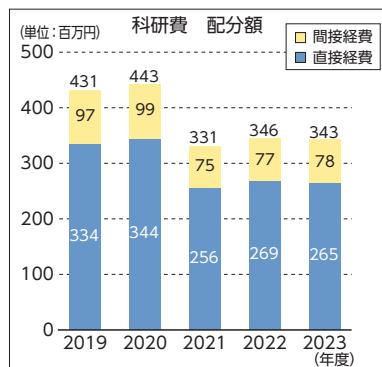
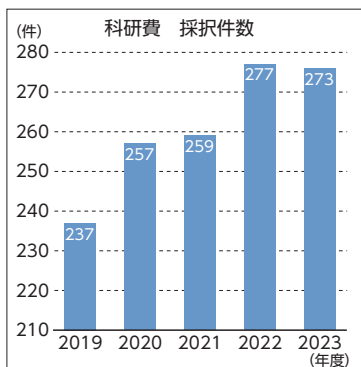
科学研究費助成事業（科研費）（文部科学省・日本学術振興会）

（※括弧内は2022年度との比較。金額は百万円未満四捨五入）

（単位：百万円）

件数	273件（4件減）
金額	343百万円（3百万円減）
直接経費	265百万円（4百万円減）
間接経費	76百万円（百万円減）

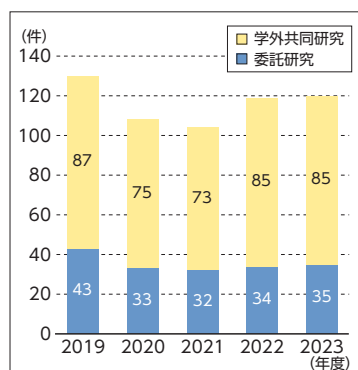
年度	2019	2020	2021	2022	2023
採択件数	237	257	259	277	273
金額					
直接経費	334	344	256	269	265
間接経費	97	99	75	77	78
合計額	431	443	331	346	343



委託研究・学外共同研究（※括弧内は2022年度との比較）

委託研究	35件（1件増）
学外共同研究	85件（増減なし）

年度	2019	2020	2021	2022	2023
委託研究	43	33	32	34	35
学外共同研究	87	75	73	85	85



知的財産（※括弧内は2022年度との比較）

特許出願・登録状況	特許出願件数	27件	国内：19件（4件増）、海外：8件（3件減）
	特許登録件数	19件	国内：7件（13件減）、海外：12件（4件増）
発明に係る褒賞授与	2024年2月、研究活動において発明を創出し、本学の知的財産の発展に寄与した特許発明者26名に、褒賞金が支払われた。		

事業の概要

■ 機関別認証評価受審の「適合」

学校教育法に基づき、大学は7年に1度、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受けることが義務付けられています。このたび、本学は大学基準協会の機関別認証評価を受け、書面審査および2日間にわたる実地調査を経て、「大学基準協会の大学基準に適合している」との認定を受けました。

今回の評価では、長所として5点、改善課題として2点、是正勧告として1点が指摘されました。

改善・是正を要する事項としては、一部の学部・研究科における教育課程の編成・実施方針の明示不足や大学院の定員管理の徹底について指摘を受けたほか、一部専攻における研究指導計画の明示不足については是正を要するとの指摘がありました。本学ではこれらの指摘事項に対する改善対応を進め、2027年7月までに「改善報告書」として取りまとめ大学基準協会に提出する予定です。

出する予定です。

一方、長所としては、本学が取り組んできた次世代社会に対応する教育研究の実施、IR等の学習成果の把握・評価を通じた教学環境の充実に向けた取り組みに加え、多様化する学生生活上の相談ニーズに対応するための「ウェルネスセンター」や「なんでも相談窓口」の新設等による学生生活支援体制の充実、学生職員も参画する「サステナビリティ推進本部」の教職学協働でのSDGsや社会的責任を果たす取り組み、「教職協働・職員協働イノベーション研究」等の学内協働での多様な取り組みについて高い評価がなされました。

今回の評価結果を踏まえ、本学では今後も教育・研究の質向上に向けた取り組みを続けてまいります。

■ 「応用データサイエンス学位プログラム」の開設

2023年4月にデータサイエンスを実践的に学び、データを読み解き、課題を解決し、新たなビジネスに応用・展開する力を身につける大学院「応用データサイエンス学位プログラム」（修士課程）を開設しました。この学位プログラムは、分野横断型の新たな設置形態である「研究科等連係課程実施基本組織」として開設され、3つの研究科（経済学研究科・理工学研究科・地球環境学研究科）の専任教員と、特にビジネスの現場においてデータサイエンスの実務経験豊富な実務系教員が協働し、教育

を行う点が特徴です。

受験・入学にあたって、出身学部の分野や履修科目などの指定、職務経験などの要件は設定せず、多様なバックグラウンドを持つ学生を受け入れます。授業は平日夜間を中心に開講し、社会人も学びやすい環境を用意しています。

このプログラムを通じて、社会の急速な変化に対応し、データ活用社会を牽引する実務家を育成することを目指します。

■ Sophia Future Design Platform推進室の設置/上智地球市民講座開設記念講演

2023年7月、学事局に新たな部署として「Sophia Future Design Platform推進室」を設置しました。ここでは、ビジネスパーソンが教養としての国際通用性や創造性を発揮するための実践智を学ぶ産学共同プログラム「プロフェッショナル・スタディーズ」の運営に加え、2024年4月に開講する新たな公開講座「上智地球市民講座」を運営します。同講座は社会課題にいかに向き合い、どのように役割を果たしていくかを考える人が、その生き方を、前向きかつイノベティブにデザインするための公開講座になります。この開設記念講演会を開催し、第1回は2023年12月13日に『AI時代、人生をどう生きるか』というテーマで総合人間学部社会学科の藤村正之特別契約教授が講演しました。第2回は2024年1月26日に『アメリカと世界、そして日本』というテーマで総合グローバル学部総合グローバル学科の前嶋和弘教授が講演しました。同部署ではこの他にも、2023年11月に学部生に向けて、「アントレプレナーシップ養成講座」を開講し、2024年3月にSophia GED（P.65参照）と協力して高校生向けに「タイ・スタディツアー」を主催し、同月カリフォルニア大学バークレー校 Haasビジネススクールのサイカット チャウドゥリ教授による講演会「企業の変革および起業家精神と革新の重要性について」を開催しました。

マで総合人間学部社会学科の藤村正之特別契約教授が講演しました。第2回は2024年1月26日に『アメリカと世界、そして日本』というテーマで総合グローバル学部総合グローバル学科の前嶋和弘教授が講演しました。同部署ではこの他にも、2023年11月に学部生に向けて、「アントレプレナーシップ養成講座」を開講し、2024年3月にSophia GED（P.65参照）と協力して高校生向けに「タイ・スタディツアー」を主催し、同月カリフォルニア大学バークレー校 Haasビジネススクールのサイカット チャウドゥリ教授による講演会「企業の変革および起業家精神と革新の重要性について」を開催しました。

■ カトリック高等学校との高大連携協定の締結

本学では、カトリックの教育理念のさらなる深化を図るべく、相互の教職員、学生・生徒の交流・連携を通じて、より魅力ある大学・高等学校づくりを推進することを目的とした「上智大学・カトリック高等学校連携協定」を50校との間に締結しました。

連携協定の締結により、両校の学生・生徒との協働学習などを通じて、双方の教育理念の実現を強く推進するとともに、より魅

力ある大学・高等学校となるよう取り組んでまいります。

連携の具体的な内容は他に、大学・入試説明会、講演会、模擬講義、キャンパス見学の受け入れ、サマープログラム、国内外のスタディツアー、教員研修の実施などを都度計画、実施いたします。

■ ウクライナの復興について考えるワークショップを慶應義塾大学・東北大学と共同で開催

2022年のロシアによるウクライナ侵攻直後、上智大学は慶應義塾大学と共催で両校と関連校の学生、生徒および教職員を対象に「ウクライナ平和シンポジウム」を開催し、専門家による解説も交え、人々が安心して暮らせる社会の実現に何ができるかを共に考える機会を設けました。

2023年になっても戦闘の終結の見通しは立っていませんが、国際社会では戦後の復興に向けた動きも始まっています。そうした動きに大学界からも貢献することを目的に、本学、東北大学、慶應義塾大学の3大学が共同して、ウクライナ復興と支援のあり方を考える連続ワークショップを企画・実施しました。

第1回は本学で2023年6月30日に「ウクライナ復興そして未来を考える」として開催し、約130名が参加しました。国内外での復興に向けた活動の最新状況、日本の役割についてグローバル・スタディーズ研究科の植木安弘教授（国際協力人材育成センター所長）が基調講演を行い、政府・行政機関、NGOや産業界の専門家が慶應義塾、東北大学の登壇者と共に復興支援動向や課題を共有したうえで、各分野で培った知見を融合した復興支援のあり方について、具体的な構想を議論しました。

第2回は9月に東北大学で当事

者視点の復興支援の重要性と日本の貢献分野をテーマに開催されました。震災後の被災者の視点に立った支援の事例紹介や、ウクライナ出身学生による報告があり、本学からは総合人間科学部教育学科の小松太郎教授が教育による平和構築や日本による貢献の可能性を示しました。

第3回は12月に慶應義塾大学で「ルブリン・トライアングルと日本」をテーマに開催され、外国語学部ロシア語学科の湯浅剛教授が、ロシアのウクライナ侵攻後のユーラシアにおける地域主義をテーマに講演しました。また、ウクライナ、ポーランド、リトアニア3国の地域連合と日本の連携による復興の在り方を、各国の駐日大使と3大学登壇者が議論しました。

ウクライナの復興という国際的な課題について、各大学の特徴や専門的知見、ネットワークを活かした多角的なテーマ設定で、高等教育機関の役割を考える機会となりました。



■ スーパーグローバル大学創成支援事業シンポジウム「卒業生とともに考えるSGU事業の成果とグローバルな学びの未来」を開催

上智大学は、2014年度に文部科学省スーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業のタイプB（グローバル化牽引型）の大学として採択され、10年間にわたり大学改革と教育の国際化の推進に取り組んできました。その総括として、2024年1月17日に、「卒業生とともに考えるSGU事業の成果とグローバルな学びの未来」と題し、関西学院大学と共催でハイフレックス形式のシンポジウムを開催しました。

まず、両大学から教育の国際化に関する取り組みの好事例を紹介し、SGU事業により新設・追加された海外研修プログラムで学んだ卒業生と、本学外部評価委員で高等教育国際化の専門家の東北大学の佐藤邦明副学長、トロント大学のJane Knight教授にコメンテーターとして登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。留学やグローバルな経験を通して得た気づき、プログラム参加時の事前・

事後研修の効果、将来留学を希望している学生やグローバル化に取り組む大学へのアドバイスの発表に加えて、コメンテーターからの質問に卒業生達が回答する内容で、活発な意見交換がなされました。

SGU事業終了にあたり、関西学院大学の森康俊学長、本学の森下哲朗グローバル化推進担当副学長がそれぞれ、両大学が今後より高いレベルでグローバル教育を推進していくこと、世界市民の育成をミッションとしていくことなど、互いに共通する学びの方向性について展望を述べ、会は締めくくられました。



■ ラーム・エマニュエル駐日米国大使が上智大学を訪問

2023年4月27日、ラーム・エマニュエル駐日米国大使を上智大学にお迎えし、特別講演会を開催しました。本講演会は、嘩道佳明学長が2022年12月に米国大使館で開催されたウクライナ留学生の懇親会でエマニュエル大使と懇談した際に来訪を要請したことから実現し、約150名の学生および教職員が参加しました。米国に約80校の協定校をもつ本学では、かねてより学生の相互留学が盛んで、このようにエマニュエル大使と直接時間と場所を共有する機会をもてたことは大きな意義がありました。

講演のテーマは「経済的威圧」で、エマニュエル大使は2023年5月に広島で開催されたG7サミットでも取り上げられた中国による経済的な威圧について解説し、この問題の解決には、各国が協力し、一致団結して取り組む必要があると述べました。

講演会の後半は、森下哲朗グローバル化推進担当副学長のモデレートによるQ & Aセッションが行われ、学生たちは経済的

威圧について我々はどうに対処すべきか、大学が果たすべき役割は何か等、質問が次々と寄せられ、エマニュエル大使はそれぞれの質問に丁寧に答えていました。

エマニュエル大使の訪問は、参加者にとって、重要なグローバル社会の課題について直接学ぶ貴重な機会となりました。



■ ドイツ・ラインラント＝プファルツ州のマル・ドライヤー首相来校

2023年10月23日、ドイツのラインラント＝プファルツ州からマル・ドライヤー首相を含む、政治、産業、学術、メディアの各界から選ばれた26名の訪問団が上智大学を訪れました。上智大学を同州でより広く知ってもらい、これまで以上に多角的な関係を築く機会となるよう、ドイツ語学科の木村護郎クリストフ外国語学部長による進行で、訪問団とドイツ語学科の教員で、日独の移民・エネルギー政策、介護問題、災害対策などについて議論しました。続いて、同州からの留学生を交えて懇談が行わ

れ、ドイツ語学科の学生たちは、日本の女子学生の現状や就職活動の経験、日独の就業観の違いについてスピーチを披露し、首相との意見交換も行われました。最後に、嘩道佳明学長は上智大学とドイツの深い関係性について触れ、「両大学、州との関係、国との関係、全てを発展させていきたい」と述べ、和やかに閉会しました。この訪問は、上智大学とラインラント＝プファルツ州との関係をさらに深めるための重要な一歩となりました。

■ 米州開発銀行 (IDB) イラン・ゴールドファイン総裁来訪

2024年1月22日、米州開発銀行 (IDB) のイラン・ゴールドファイン総裁が来校し、嘩道佳明学長、引間雅史上智学院経営企画担当理事と面会しました。同銀行は中南米・カリブ地域の経済・社会発展に貢献することを目的に1959年に設立された国際開発金融機関で、日本は米州以外からの初めての加盟国の1つとして1976年に加盟しています。本学は2016年に協力に関する覚書を締結し、協力を深めてきました。今回の面会では、ワシントン本部でのインターンシップ実習等、今後の一層の関係強化について確認しました。

また、ゴールドファイン総裁は「IDBと日本：地理的距離を超えた親密なパートナーシップ (The IDB and Japan: a geographically distant but close partnership)」のテーマで講演し、国際協力、国際開発金融機関等の国際機関に興味関心がある学生や教職員等、150名を超える参加者が聴講しました。

質疑応答セッションでは、学生からさまざまな質問が投げかけられましたが、大学で教

鞭を取った経験を持つ総裁は、当時を思い起こしながら一つ一つ丁寧に回答し、白熱した時間になりました。

その後のランチセッションでは、アジア事務所でインターンシップを経験した学生や、国際機関への就職を考えている学生計7名が総裁を囲み、軽食をとりながら和やかな雰囲気の中での対話となりました。

今回の来訪と交流を通じて、IDBやその取り組みに関心を持つ学生が増え、将来のキャリアとして国際機関で働くことを考える学生が増えることが期待されます。



AJCU-AP INO Meeting (国際実務担当者会議) を開催

2023年12月1日、上智大学を会場として、上智大学が加盟するアジア太平洋地域のイエズス会系高等教育機関のコンソーシアム Association of Jesuit Colleges and Universities in Asia Pacific (AJCU-AP) の国際交流を担当する教職員が集まる国際実務担当者会議を開催しました。この会議は、AJCU-AP 加盟校同士の事業開発、情報交換および連携強化を目的としており、毎年夏に開催される同コンソーシアムの学長会議での決定事項の詳細調整も行います。上智大学での開催は初めてとなり、13大学・機関から17人が来日し、本学関係教職員を含めた約30人が参加しました。会議では、AJCU-APが合同で実施している学生プログラム「イエズス会・東アジア 5 大学グローバルリーダーシップ・プログラム」と「AJCU-AP サービスラーニング・プログラム」(本学では「実践型プ



ログラム」として科目開講)の今年度振り返りと次年度に向けた申し送りや改善点の洗い出しなどが行われました。加えて、本コンソーシアムに共通する課題や各校の状況について報告や意見交換が行われ、イエズス会大学ならではの教育精神をどう教育研究活動や国際交流に反映していくか深く考え、議論する場となりました。会議終了後のレセプションでは、参加者間のネットワークが進み、翌年の再会を楽しみに和やかに閉会となりました。



THEインパクトランキング2023の「SDG14 海の豊かさを守ろう」で世界41位に

2019年から始まったTHEインパクトランキングは、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education」が世界の大学が社会課題にどう取り組んでいるかを、国連のSDGsの枠組みを使ってランクづけしたものです。5回目の開催となる今回は、世界115カ国から1,707校が参加(前回の1,523校から大幅に増加)し、競争が増す中、本学は総合順位401-600位、「SDG14 海の豊かさを守ろう」では世界41位となりました。

SDG14においては、2016年に文部科学省の研究ブランディング事業に採択された『持続可能な地域社会の発展を目指した

「河川域」をモデルとした学融合型国際共同研究』とその後継事業、ならびにアイランド・サステナビリティの取り組みなどが評価されました。

ランキングエントリーにあたり、各SDGのエビデンスの収集、ならびに海外・日本の大学の動向調査など、サステナビリティ推進本部の学生職員が大きく貢献しました。



「世界で最も影響力のある研究者トップ2%」に本学研究者がランクイン

スタンフォード大学とエルゼビア社が2023年10月4日に更新・発表した世界のトップ2%の科学者を特定する包括的なリスト「標準化された引用指標に基づく科学者データベース(更新版)」に、本学の理工学部から9名の教員がランクインしました。

このランキングは、Scopus引用データベースに基づき、22の科学分野と174のサブ分野に分類され、少なくとも5つの論文を発表している世界中の科学者を対象とし、論文が多く引用された上位2%の研究者を選出するものです。このランキングにランクインされたことより、本学の理工学部では世界に評価される高いレベルのユニークな研究が実施されていることがわかります。

上智大学は「他者のために、他者とともに」を教育精神として掲げ、現代社会が抱える諸課題に対し、基礎的な学術研究の発展から応用研究成果の社会への実装に至る、学際的、融合的、複合的な研究活動を通じて、より良い世界の創造への貢献を目指しています。ランクインした研究者の研究内容には、熱ストレスに強い植物の作成を目指す研究や、これからの新しいエネルギーに関わる研究など、サステナビリティを強く推進する上智大

学らしい研究も評価されています。今後も多彩な研究テーマと多様なアプローチにより、上智大学の個性を、研究活動を通じて発揮し、世界の社会課題解決に資する研究を推進していきます。

single recent year (単年) の区分

鈴木 伸洋
(理工学部物質生命理工学科 准教授)
堀越 智
(理工学部物質生命理工学科 教授)
高井 健一
(理工学部機能創造理工学科 教授)
申 鉄龍
(理工学部機能創造理工学科 教授)
平野 哲文
(理工学部機能創造理工学科 教授)
宮武 昌史
(理工学部機能創造理工学科 教授)

※公表データ順

career-long (生涯) の区分

平野 哲文
(理工学部機能創造理工学科 教授)
鈴木 伸洋
(理工学部物質生命理工学科 准教授)
菊池 昭彦
(理工学部機能創造理工学科 教授)
高橋 和夫
(理工学部物質生命理工学科 教授)
高井 健一
(理工学部機能創造理工学科 教授)
申 鉄龍
(理工学部機能創造理工学科 教授)
宮武 昌史
(理工学部機能創造理工学科 教授)
荒井 隆行
(理工学部情報理工学科 教授)

■ 水泳部競泳部門（男子・女子）ともに1958年創部以来初の1部昇格

2023年8月1日から4日に東京アクアティクスセンターで開催された「第96回関東学生選手権水泳競技大会」において、体育会水泳部競泳部門男子・女子ともに見事2部準優勝の成績を収めました。これにより、1958年創部以来初の快挙となる1部への昇格が決定しました。

今回の準優勝の裏には水泳部の2つの施策がありました。ひとつは、早期にチームとして「関東大会1部昇格」を目指すことを明確にしたことです。水泳は個人競技であり、選手ごとに異なるレベルや目標がありますが、共通の目標を掲げることで、個々の努力がチーム全体の成功につながりました。次に、選手ごとに専門種目や距離に合わせた練習内容を設定したことです。週に1・2回は共通メニューを行いながら、選手たちが一丸となって

成長できる環境を整えました。

「来シーズンの目標は関東1部での残留」と水泳部前主将の江島慧一郎さん（総合人間科学部教育学科3年）は語ります。「関東1部は全国のシード校や厳しいライバルが集まるため、厳しい戦いが予想されます。しかし、選手一人ひとりがベストを尽くし、チームとして協力しながら目標を達成できると信じています。引き続きチーム一丸となって練習に励み、良い結果を残せるように頑張りたいと思います。」



■ SSIC 和歌山県田辺市のSDGsを知り「関係人口」になるスタディツアー

SSIC (Sophia Student Integration Commons) では「学生同士のコミュニケーションを促進すること」を目的として、さまざまなバックグラウンドの学生が日本文化の理解と学生同士の交流を深めるスタディツアーを企画・運営しています。

和歌山県田辺市は世界文化遺産「熊野古道」の中心地に位置しており、2022年度には「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」の一つに選ばれています。田辺市たなべ営業室および田辺市熊野ツーリズムビューローにご協力いただき、また（独）日本学生支援機構留學生地域交流事業の「（公財）中島記念国際交流財団助成」も受け、「田辺市熊野スタディツアー」を2023年6月10日、11日の両日に実施しました。

18名の学生が参加し、国籍は日本、中国、韓国、フィリピン、ベトナム、イタリア、スイス、アメリカ、デンマークと多岐に渡り、日本語と英語が行き交う多様性に富んだグループでした。事前学習として田辺市の梅と熊野古道に関する話を現地の方からオ

ンラインで直接聞き、ツアー当日は梅林に入り実際に梅の収穫を体験しました。その後、採れたての梅を使ってシロップを仕込む梅加工体験を行いました。宿泊先は小学校跡地を活用したグリーンツーリズム施設を利用し、熊野古道の「中辺路」散策、熊野本宮大社参拝も行いました。実際に現地に入って地元の方との対話を通じて、地元の産業を体験し、熊野古道を歩くことで田辺市のSDGsの理解を深めていくことができました。今後は、田辺市の「関係人口」として、田辺市のSDGsを支える一人となっていくことが期待されます。



■ 学生有志クリスマスコンサート

「Xmas concert—ベーゼンドルファーが、90年の時を超えて甦る—」を開催

2023年12月24日に学生有志発案、ソフィア・アーカイブズ、カトリック・イエズス会センター協力によるクリスマスコンサートを開催しました。演奏に使用したピアノは、世界3大ピアノの一つに数えられるベーゼンドルファー（Bösendorfer）製で、1932年の1号館落成式にて校歌を歌った際、伴奏に使われたと伝えられている古いピアノです。

このピアノは、通常は6号館1階北門側エントランスに展示されていますが、大学公式サイト「FIND SOPHIA」所属の学生記者が、このピアノに興味を持ち、ピアノの歩んだ歴史について大学の史料を調査して記事を書きました。その際に試し弾きする機会があり、劣化しているにもかかわらず、温かみのあるきれいな音を出すピアノに感銘を受け、この感動を自分の中にとどめるのではなくこの音色を多くの人に聞いてもらいたいとの思いか

ら、コンサートを企画しました。

企画に賛同し、ピアノ演奏や運営に協力した6名の学生有志たちは、年齢、学部、学科の垣根を超え、知り合いやSNSを通じて集まり、約3カ月の準備、練習を重ねてコンサート当日を迎えました。当日は、J.S.バッハ作曲『主よ、人の望みの喜びよ』の他、クリスマスや冬らしさを感じられる4曲が学生演奏者によって演奏され、エントランスに集まった約100人の観客がその音に魅了されました。観客からは、「とても音色が良かった」「クリスマスにふさわしかった」「是非また開催して欲しい」「一度と言わず年に数回開催して欲しい」などの温かい声が寄せられました。上智学院にとって歴史的価値あるものを守り伝える大切さを感じてもらう貴重な機会となりました。

河野太郎デジタル大臣による特別講演会・パネルディスカッション開催

2023年7月5日に河野太郎デジタル大臣が来校し、デジタルとイノベーションについて語る特別講演会を開催しました。本学ではデータサイエンスの授業を全学部1年生の必修科目にするなど、データサイエンス領域の学びに力を入れています。河野大臣はDXの意義やデジタル庁の役割、そして日本のIT業界が目指すべき姿について語りました。また、生成AIによるフェイクニュースの問題にも触れつつ、デジタル技術が基盤となる時代であることを強調しました。学生たちに対しては、グローバルな

視点を持つことの重要性を強調しました。後半では、生成AIとどう向き合うべきか、またAIが発達する今こそ学ぶべきことは何かについて、学生とのパネルディスカッションが行われました。質疑応答では、IT業界のグローバル市場と日本市場の相違点、高齢化が進むなかでのデジタル推進などについて河野大臣が丁寧に答えました。この講演会は、学生たちにとって日本のデジタルイノベーションの現状と課題、そしてデータサイエンスを学ぶ意義について理解を深める貴重な機会となりました。

「ソフィア・AIリテラシーセミナー」を開催(全6回)

2023年10月～12月にかけて、「ソフィア・AIリテラシーセミナーシリーズ」(主催：基盤教育センター)を開催しました。AIをめぐる技術的革新や社会変化について、学内外の専門家を登壇者として招き、基盤教育センター教員とのディスカッションや質疑応答を行いました。学内外から高い関心が寄せられ、シリーズ全体での参加者は約1,200名となりました。

各回のタイトルと講演者(敬称略、所属・役職は当時)は下記の通りです。

1) AIの最先線—われわれはどこに向かうのか—(松原仁：東京

大学 次世代知能科学研究センター 教授)

2) AIの言葉と人間の言葉(川添愛：言語学者・作家)

3) 学校のデジタル化とAIの現状(奈須正裕：上智大学 総合人間科学部教育学科 教授)

4) 生成AIの光と影(保科学世：アクセンチュア株式会社執行役員・AIグループ日本統括)

5) 死者AI技術の動向と死者AI技術をめぐる倫理(佐藤啓介：上智大学 実践宗教学研究科死生学専攻 教授)

6) AIと著作権(福井健策：骨董通り法律事務所 代表 弁護士)

日産自動車株式会社 内田誠CEO特別講演

「日産が描くモビリティの未来—世界と歩む持続可能な社会—」を開催

2023年12月19日、日産自動車株式会社(以下、日産)代表執行役社長兼最高経営責任者(CEO)、日本自動車工業会副会長の内田誠氏の特別講演、「日産が描くモビリティの未来—世界と歩む持続可能な社会—」を2号館17階会議室にて開催し、学生、教職員約110名が参加しました。講演では現在の気候変動への対応、過疎化・高齢化などの社会課題、消費者の価値観の変化、それに対する日産の取り組みが語られました。また、DEI(多様性、公平性、受容性)の考え方や導入にも言及されました。参加学生に対して「いま企業では未知の環境下でも問題解決のできる人材が求められている。今まで踏み込んだことの

ない世界に勇気をもって一歩踏み出して自分の世界を広げ続けてほしい」とエールが送られました。後半は本学OG三好美優氏(2019年理工学専攻 応用化学領域修了)、山本哲子氏(2019年経済学部経営学科卒)が加わり、再生可能エネルギー市場についてなど、参加者への質問に回答されました。



国際シンポジウム「共生社会創成の現実：インドの取り組みから考える障がい者支援と自立」

2023年11月7日に開催された国際シンポジウム「共生社会創成の現実：インドの取り組みから考える障がい者の支援と自立」(主催：上智大学アジア文化研究所)では、インドで障がい者の自立を支えるDifferent Art Centreのゴビナート・ムトゥカド所長らによる講演や、障がいを持ちながらもマジシャンとして活躍するヴィシュヌ氏のマジックパフォーマンスなどが行われました。そしてアガスティン サリ理事長と日本の障がい者や社会福祉の専門家らを加えたトークセッションでは、「人々が

障がい者をもっと身近に感じ、慣れが進めば、社会の理解や支援はもっと進むはず」「Different Art Centreの活動はインドを変えることができる」といった意見が出ました。



上智大学短期大学部

上智大学短期大学部では卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を短期大学部ウェブサイトで公表しています。
<https://www.jrc.sophia.ac.jp>

教職員数等

教職員数

(2023年5月1日現在)

学校区分	教職員区分	本務	兼務	総計
上智大学短期大学部	教員	15	33	48
	職員	14	3	17
総計		29	36	65

※本務教員：専任教員・特別契約教授・特任教員・常勤嘱託教員・実務家教員・出向教員

兼務教員：非常勤嘱託教員

本務職員：専任職員・契約職員・嘱託職員

兼務職員：嘱託職員（医師等）

※管理部門所属職員は上智大学に算入

年齢別教員数

(2023年5月1日現在)

学校区分	20代	30代	40代	50代	60代	70代	総計
上智大学短期大学部	0	0	4	4	6	1	15

※非常勤講師を除く

※平均年齢57.73（非常勤講師除く）

職階別教員数

(2023年5月1日現在)

学校区分	教授	准教授	講師	助教	助手	教員	総計
上智大学短期大学部	9	5	1	0	0	0	15

※非常勤講師を除く

教員一人当たり学生数

(2023年5月1日現在)

学校区分	学生数	本務教員数	
		教員数	一人当たり学生数
上智大学短期大学部	304	15	20.27

学生数

(2023年5月1日現在)

学校区分	入学定員	収容定員	学生数	収容定員充足率
上智大学短期大学部	250	500	304	60.80%

2023年度実施入試（2024年度入学）

入試種別	募集人員	志願者	受験者	合格者	補欠者	補欠繰上合格者	入学者
総合型選抜（英語クラス体験方式）	20	19	19	17			16
学校推薦型選抜（指定校制推薦）	78	17	17	17			17
学校推薦型選抜（公募制推薦A）	5	3	3	3			3
学校推薦型選抜（公募制推薦B）	5	3	3	2			2
総合型選抜（英検・GTEC・TEAP等利用方式A）	6	6	6	3			3
総合型選抜（英検・GTEC・TEAP等利用方式B）	6	2	2	1			1
その他の入試（卒業生・在学生子女姉妹）	3	0	0	0			0
その他の入試（帰国生）	3	0	0	0			0
その他の入試（社会人）	3	2	2	2			2
一般選抜（A日程）	55	35	35	14	0	—	9
一般選抜（B日程・英語外部検定試験活用型）	25	22	21	10	0	—	4
一般選抜（C日程・ディスカッション型）	20	12	9	4	0	—	2
総合型選抜 （課題文利用方式）	a	5	1	1	0		0
	b		2	2	1		1
	c		0	0	0		0
	d		1	1	1		1
	e		1	1	0		0
総合型選抜 （英検・GTEC・TEAP等利用方式C）	I	10	1	1	0		0
	II		2	2	2		2
	III		2	2	0		0
	IV		0	0	0		0
	V		2	2	1		1
総合型選抜 （英検・GTEC・TEAP等利用方式D）	ア	6	2	2	1		0
	イ		0	0	0		0
	ウ		0	0	0		0
合 計	250	135	131	79			64

入学者数推移

学 科	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
英語科	64	115	174	185	261	282	268	277

卒業生数等

学 科	卒業生数	退学者数	中退率
英語科	159	11	3.62%

※卒業生数は、2023年9月卒業生、2024年3月卒業生を足し上げた数字である
 ※退学者数は、2023年度に退学した1年次生、2年次生を足し上げた数字である
 ※中退率は、2023年度の退学者数を2023年度5月1日時点の在籍者数で割ったものである

進路

2023年度 卒業生の進路

(人)

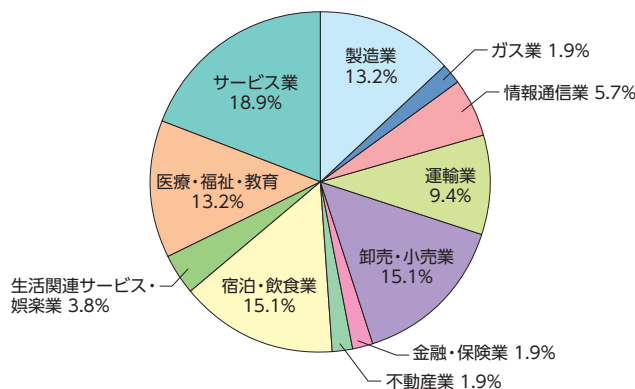
学 科	就職	進学	その他	未届者	合計
英語科	53	67	34	5	159

※「その他」は、編入学試験勉強、就職活動中、アルバイト等を含む
 ※2023年9月卒業生を含む
 ※進学は、大学編入学、留学、専門学校進学

就職

業種別進路状況

業種	人数	%
製造業	7	13.2%
ガス業	1	1.9%
情報通信業	3	5.7%
運輸業	5	9.4%
卸売・小売業	8	15.1%
金融・保険業	1	1.9%
不動産業	1	1.9%
宿泊・飲食業	8	15.1%
生活関連サービス・娯楽業	2	3.8%
医療・福祉・教育	7	13.2%
サービス業	10	18.9%
総 計	53	100.0%



進路先企業一覧

就職先	人数
株式会社不二工機	2
釜屋電機株式会社	1
キャノン株式会社	1
セイコーエプソン株式会社	1
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社	1
株式会社パプコ	1
越後天然ガス株式会社	1
日本放送協会	1
株式会社U-NEXT HOLDINGS	1
サンネット株式会社	1
日本通運株式会社横浜国際輸送支店	4
日本通運株式会社横浜支店	1
森六ケミカルズ株式会社	1
一菱製茶株式会社	1
三永株式会社	1
株式会社オンデーズ	1
タペストリー・ジャパン合同会社	1
トヨタエルアンドエフ神奈川株式会社	1
株式会社ホンダカーズ埼玉中	1
株式会社ホンダカーズ栃木中央	1
横浜信用金庫	1
AoYama株式会社	1
株式会社ミリアルリゾートホテルズ	3
株式会社ドトールコーヒー	1

就職先	人数
株式会社マイステイズ・ホテル・マネジメント	1
株式会社モスフードサービス	1
リゾートトラスト株式会社	1
株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド	1
株式会社デンコー	1
株式会社LIFE CREATE	1
独立行政法人海技教育機構	1
株式会社タップカンパニー	1
株式会社理究キッズ	1
株式会社ベネッセスタイルケア	1
医療法人社団友徳会 つつじクリニック	1
医療法人博仁会 ハマノ産婦人科	1
株式会社保健科学研究所	1
富士通ISサービス株式会社	2
株式会社京王ビジネスサポート	1
羽田旅客サービス株式会社	1
特定非営利活動法人 国連UNHCR協会	1
オールインタラクティブ株式会社	1
オクヌギ株式会社	1
サブコープジャパン株式会社	1
株式会社ブラボー	1
株式会社NECT	1
合 計	53

国際交流

海外短期語学講座

派遣先大学	国 名	開催時期	参加者数
西イングランド大学	イギリス	2023年8月13日（日）～9月5日（火）	0
オークランド大学	ニュージーランド	2024年2月9日（金）～3月9日（土）	0

海外スタディーツアー

実施なし

ミクロネシア留学生受入状況

実施なし

オンライン語学講座

実施なし

学生納付金

(単位：円)

	新入生	在学学生
合 計	1,157,790	970,130

奨学金

名 称	内 容	給付額	対象	採用者数
創立40周年記念 特待生奨学金	一般入試A日程で成績上位3名	初年度の授業料全額相当額、授業料半額相当額、授業料の3分の1相当額のいずれか。	新入生	2
新入生奨学金	本学を第一志望とする新入生。経済的理由により入学が困難、かつ本学に入学する以前の高校の成績が優秀な者。入試出願時、要申請。	初年度の授業料全額相当額、授業料半額相当額、授業料の3分の1相当額のいずれか。	新入生	1
修学奨励奨学金	学業成績が良好である又は学習意欲が高いにもかかわらず、経済的理由によって学業の継続が困難と認められる学生	授業料全額相当額、授業料半額相当額、授業料の3分の1相当額のいずれか。	1.2年	14
同窓会奨学金	新入生奨学金と修学奨励奨学金の出願者の中から、経済的な状況を審査し決定する。各学年1名	各30万円	1.2年	2
	新入生奨学金と修学奨励奨学金の出願者の中から、経済的な状況を審査し決定する。	自宅生 各5万円、自宅外生 各10万円	1.2年	6
ソフィアキャンパス サポート父子母子 家庭支援奨学金	修学奨励奨学金の出願者の中から、父子家庭及び母子家庭の学生に給付	20万円	1.2年	3
利子補給奨学金	金融機関の提携ローンを契約し、学費納入者を対象とする。	提携ローンの残額の利息に基づいて決定	1.2年	0
大規模災害等 による特別措置	本人又は父母（家計支持者）が居住する家屋が、災害救助法適用地域（学長が同規模災害と認めた地域も含む）に指定され、罹災証明書が発行された者で、災害発生後3年以内に本学に入学又は在学している者を対象とする。	- 被害状況により給付額が決定され、全壊の場合は授業料全額相当額、大規模半壊又は半壊の場合は授業料半額相当額を給付。 - 授業料減免が認められた者に対して、生活支援金（自宅外通学者 月額5万円、自宅通学者 月額3万円）を給付。	1.2年	1
高等教育の修学支 援新制度授業料等 減免措置	対象者は、住民税非課税世帯や準ずる世帯、生活保護を受給している家庭で自宅外から通学している学生及び、社会的養護を必要とする学生	所得により3つの区分があり、授業料がそれぞれ620,000円（第一区分）、413,400円（第二区分）、206,700円（第三区分）減免される。（年1回に所得の見直しがあり、区分が変更となる。）	1.2年	47
		所得により3つの区分があり、入学金がそれぞれ250,000円（第一区分）、166,700円（第二区分）、83,400円（第三区分）減免される。（年1回に所得の見直しがあり、区分が変更となる。）	1年	14

事業の概要

2025年度以降の学生募集停止の決定を受けて

2023年3月22日開催の理事会において、2024年度の学生募集（2023年度実施入試）を最後に上智大学短期大学部の2025年度以降の学生募集を停止することが決定されました。18歳人口の減少、女子の四年制大学志向など近年の社会状況が大きく変化し、ここ3年は大幅な入学定員割れとなっていました。本学の在り方について上智学院内で様々な議論が重ねられ、短期大学部も定員充足のための努力をしてきましたが、この結論に至らざるを得ませんでした。

2023年4月19日付で短期大学部ホームページにて学生募集

停止を公表するとともに、ステークホルダーへ説明文書を送付しました。そして同日、在学生向け説明会を、翌月5月3日にはオンラインでご父母・保証人向けに説明会を開催しました。

2024年度入学生を含む全ての在学学生に対する教育、進路支援などについては、これまでと同様に万全を期し、臨む予定です。そして現在も実施しているアドバイザー・教員制度に副担任を設ける、授業の欠席調査の回数を増やす、再履修科目の開講等、手厚いフォローをさらに進めていきます。

栄光学園中学高等学校

■ 主な施設等の状況

(2024年3月31日現在)

所在地	施設等	面積等		摘要
栄光学園中学高等学校 神奈川県鎌倉市玉縄	校地		113,492.00㎡	中学校・高等学校が利用
	校舎	1棟	8,643.52㎡	
	第1体育館	1棟	2,112.61㎡	
	講堂	1棟	1,940.91㎡	
	アロイジオ館	1棟	370.63㎡	
	聖堂棟（図書室・聖堂・小講堂）	1棟	2,838.98㎡	
	第2体育館	1棟	2,370.92㎡	
	事務所・倉庫棟	1棟	1,355.18㎡	
栄光ヒュッテ 神奈川県愛甲郡煤ヶ谷字丹沢山	用地		2,600.23㎡	
	山小屋	1棟	133.03㎡	

※複合校舎は、聖堂棟に名称を変更した

■ 教職員数

(2023年5月1日現在)

学校区分	教員	職員	総計
栄光学園中学高等学校	81	16	97

※非常勤教職員を含む

■ 生徒数

(2023年5月1日現在)

学校区分	入学定員	収容定員	1年在籍者数	2年在籍者数	3年在籍者数	総計	収容定員充足率
栄光学園中学校	180	540	183	184	184	551	102.04%
栄光学園高等学校	180	540	184	176	184	544	100.74%

■ 入試状況（2024年入学者）

(2024年3月31日現在)

学校区分	受験者	合格者	入学者
栄光学園中学校	662	259	184

■ 卒業者数（2024年3月）

学校区分	卒業者数
栄光学園高等学校	183

■ 2024年3月卒業者 進路状況

(人)

学校区分	4年制大学				大学校	その他
	国公立大学	私立大学	うち上智大学	海外大学		
栄光学園高等学校	75	33	5	0	0	75

※2024年3月31日現在

2023年度事業報告（総括）

今年度は、学年によってはインフルエンザによる学年閉鎖を度々余儀なくされましたが、学校行事や校外での活動は概ね無事に実施することができました。5月13、14日におこなわれた栄光祭（文化祭）も9月30日に行われた体育祭も、一般に公開するコロナ前の形でようやく実施することができました。

夏休みには、フィリピンのセブ島にあるイエズス会学校のセイクリッドハートスクールに4年ぶりに10名の生徒を派遣することができ、アメリカのボストンカレッジ研修には40名の生徒が参加し、それぞれで参加した生徒は豊かな体験を得ました。また、

2月の沖縄修学旅行と京都への中3学年旅行をはじめ、有志による山のキャンプほか予定された宿泊行事も全て順調に実施できました。さらに、72期生の高校卒業式においては、式後の卒業祝賀会を5年ぶりに立食パーティー形式で行うことができました。

校内で行う広報活動としては、学校説明会を10月から11月にかけて3回実施し、説明会後にキャンパス開放を行いました。3回の合計で1,612家族、3,119名の方が来校してくださり、今の学園の姿や環境を体験していただくことができました。



栄光ヒュッテでのキャンプ



中3京都への学年旅行



72期生の卒業式

トピックス

①Agape Latte

Agape Latteとは、ボストンカレッジで行われている信仰に関するイベントです。コーヒーを片手にゲストスピーカーの話を聞き、神の愛や信仰について考えるというものです。このスタイルが多くの大学生を惹きつけ、現在ではアメリカのカトリック大学や高校にも広がっています。そこで、栄光学園での実施を計画し、ボストンカレッジのThe Church in the 21st Century Center にも協力いただき、2024年1月19日に日本初の Agape Latte を実施しました。

放課後に行われたこのイベントに、50人程度の生徒が参加しました。音楽の演奏、クイズの後に、ロクスひよりやま（旧下関労働教育センター）の中井淳神父に、「向こう岸ヘトンネルを掘ろう—ある神父の平和活動日記—」という題でお話いただきました。神様に導かれ、様々な出会いや働きが与えられてきた様子を伺いました。質疑応答の時間では、様々な質問に丁寧に答えていただきました。信仰について考える貴重な時間を持つことができました。



アガペ・ラテ（終了後に運営スタッフで中井神父を囲んで）



科学の甲子園

②生徒活動への表彰

2023年の3月に「第12回 科学の甲子園 全国大会」にて優勝したチームは、2023年5月にアメリカのカンザス州で行われた Science Olympiad に日本代表として派遣されましたが、翌2024年3月に茨城県で行われた「第13回 科学の甲子園 全国大会」へも本校のチームが神奈川県代表として参加し、大会史上初の同一校による二連覇を達成しました。また、個人で参加する科学オリンピックでも複数の分野で優秀な成績を収めています。

体操部のダブルダッチ班では、高校2年生のチームが、3月19日に行われた大学生や社会人のチームも参加する「ダブルダッチコンテスト2024」に参加し、優勝して日本一に輝きました。優勝チームは夏に行われる世界大会に日本代表として出場する予定です。

囲碁将棋部では高校3年生の廣田万瑤君が、全国高等学校総合文化祭の囲碁部門の団体戦に神奈川県チームの一員として出場し、全国優勝を遂げました。



ダブルダッチ

六甲学院中学校・高等学校

■ 主な施設等の状況

(2024年3月31日現在)

所在地	施設等	面積等		摘要
六甲学院中学校・高等学校 兵庫県神戸市灘区篠原伯母野山町	校地 校舎（本館） 校舎（別館） 体育館・講堂棟 プール・剣道場 第3グラウンド体育棟 部室・弓道場	1棟 2棟 1棟 1棟 1棟 1棟	73,353.00㎡ 11,393.92㎡ 1,779.65㎡ 5,943.10㎡ 2,094.79㎡ 84.37㎡ 442.83㎡	中学校・高等学校が利用
兵庫県神戸市灘区篠原字仲山	用地		934.00㎡	
兵庫県神戸市灘区篠原字谷山	用地		9,609.00㎡	
兵庫県神戸市灘区篠原北町	校地 研修所	1棟	654.00㎡ 482.62㎡	
富山県中新川郡立山町 (弥陀ヶ原)	用地 合宿所	1棟	485.00㎡ 244.62㎡	

■ 教職員数

(2023年5月1日現在)

学校区分	教員	職員	総計
六甲学院中学校・高等学校	71	10	81

※非常勤教職員を含む

■ 生徒数

(2023年5月1日現在)

学校区分	入学定員	収容定員	1年在籍者数	2年在籍者数	3年在籍者数	総計	収容定員充足率
六甲学院中学校	184	552	188	186	183	557	100.91%
六甲学院高等学校	184	552	172	178	175	525	95.11%

■ 入試状況（2024年入学者）

(2024年3月31日現在)

学校区分	受験者	合格者	入学者
六甲学院中学校	593	344	188

■ 卒業者数（2024年3月）

学校区分	卒業者数
六甲学院高等学校	174

■ 2024年3月卒業者 進路状況

(人)

学校区分	4年制大学				大学校	その他
	国公立大学	私立大学	うち上智大学	海外大学		
六甲学院高等学校	53	34	5	0	1	86

※2024年3月31日現在

2023年度事業報告（総括）

コロナ禍による制限が解除され、本校では高2海外研修旅行、体育祭、文化祭、強歩大会、中2東北研修旅行を、通常の状態で開催することが出来ました。中2、高2の研修旅行は初めての企画でしたが、生徒、教員からの評価も高く、今後も教員の負担に配慮しながら継続していきたいと考えています。体育祭、文化祭は危機管理の面から、不審者対策として事前予約制を取り入れました。今まで体育祭は観客が多すぎて危険な場面もあったため、より安全に行事を行えるようになりました。文化祭も通常の観客数に戻り、生徒もやりがいを感じているようでした。その他にもカンボジア研修、中2フィールドワーク、中3卒業論文など

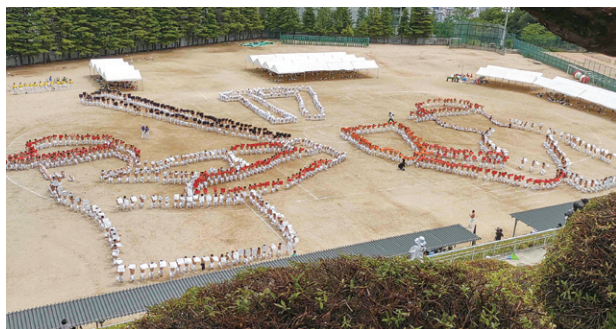
新しい企画も行いました。

また日常生活の中では、中間体操を高校2年生が元よくかけ声をかけて走り、学校全体により影響を広げてくれています。訓育活動でも高校2年生が中心となって、校内の清掃活動に力をいれて取り組んでくれました。お陰でコロナ禍の活動制限で、雑な掃除の状態が続いていましたが、校舎をきれいにするのが当たり前で、掃除に前向きに取り組む雰囲気を取り戻してくれました。コロナ禍の制限で人との交流を絶たれ、当り前の日常生活ができなかった生徒達が、今までの時間を取り戻すように積極的に行事や日常生活に気持ちよく取り組んでくれています。

トピックス

①新しい総行進

本校の体育祭総行進は、全校生徒が一糸乱れぬ行進を行い、グラウンドにその年のテーマに決まった漢字1文字を描く大きな行進として知られ、生徒たちが自主的に準備し、運営することが特徴です。これまでは総行進を上半身裸で行ってきましたが、2023年度は、肌を人前にさらすのに抵抗を感じる生徒が出てきていることも考慮して、時代の変化に合せて着衣を希望する生徒には着衣のまま参加できる総行進に改めました。最初、高3の上級生達からは強い反発もあり、校長が高3全体のHRに参加して、生徒達と話を重ねました。最後は体育祭三役の生徒達がこの難しい状況のなか最後まで説得をしてくれて、着衣でも参加できる総行進を実現してくれました。総行進の図柄を考える企画役員の生徒達は、着衣と上半身裸が混在してもきれいに見える方法を、時間のなかで懸命に考えてくれました。当日は違和感なく総行進を行うことが出来、観客の皆様にも楽しんでいただけました。また2学期にはLGBTQ関連の講演会を専門家とOBを招いて行い、多様性について学ぶ機会も設けました。これからも六甲生が多様な人々を受け入れて、新しい伝統を作り上げてくれることを期待しています。



新しい形での総行進（模様は大谷翔平選手）

②高2海外研修旅行

今年度から高校の研修旅行として、シンガポールとマレーシア訪問を導入しました。研修の目的は、「世界の人々とのように自分はこれから繋がりをもつか」という問いかけを、生徒達に

考えてもらうことです。中学の間には、海山キャンプ、体育祭文化祭などの行事を通して、同級生や先輩後輩の繋がりから、コミュニケーション能力を学んでもらっています。さらに高校では、これからの進路を考える1つのきっかけとして海外研修をとりいれました。現地はシンガポール国立大学の学生との交流、イスラム教文化をもつマレーシアの学生との交流、現地OBの職場訪問など、生徒にとって大変刺激的で濃密な時間を過ごすことが出来ました。異文化交流を通して生徒達は、コミュニケーションツールとしての英語の必要性や、違う文化をもつ人々への配慮やマナーの重要性を改めて意識したようでした。今回の経験を通して、生徒ひとりひとりが真剣に自分の将来を考えて、進路選択に少しでもよい影響を与えたのではないかと思います。



シンガポール国立大学でのプレゼンテーション



マレーシアでの歓迎会

広島学院中学校・高等学校

■ 主な施設等の状況

(2024年3月31日現在)

所在地	施設等	面積等		摘要
広島学院中学校・高等学校 広島県広島市西区古江上	校地		46,810.13㎡	中学校・ 高等学校が 利用
	本館校舎	1棟	6,075.37㎡	
	西館校舎	1棟	3,317.29㎡	
	理科棟	1棟	910.67㎡	
	講堂（体育館）	1棟	1,570.65㎡	
	ザビエル体育館	1棟	2,286.93㎡	
	ペドロ・アルベ講堂	1棟	3,024.46㎡	
	アシジの聖フランシスコ聖堂	1棟	232.51㎡	
	工作室	1棟	94.90㎡	
	クラブハウス	2棟	279.83㎡	
	倉庫（下グラウンド）	2棟	162.48㎡	
広島県廿日市市飯山字天徳	用地		12,159.00㎡	
	キャンプハウス	11棟	477.42㎡	

■ 教職員数

(2023年5月1日現在)

学校区分	教員	職員	総計
広島学院中学校・高等学校	64	13	77

※非常勤教職員を含む

■ 生徒数

(2023年5月1日現在)

学校区分	入学定員	収容定員	1年在籍者数	2年在籍者数	3年在籍者数	総計	収容定員充足率
広島学院中学校	184	552	187	192	184	563	101.99%
広島学院高等学校	184	552	179	187	183	549	99.46%

■ 入試状況（2024年入学者）

(2024年3月31日現在)

学校区分	受験者	合格者	入学者
広島学院中学校	604	280	183

■ 卒業者数（2024年3月）

学校区分	卒業者数
広島学院高等学校	181

■ 2024年3月卒業者 進路状況

(人)

学校区分	4年制大学				大学校	その他
	国公立大学	私立大学	うち上智大学	海外大学		
広島学院高等学校	81	21	3		1	78

※2024年3月31日現在

2023年度事業報告（総括）

①コロナと学校生活

コロナ対応については、日常生活、学校行事等についても多くの知見がたまりそれなりの対応ができるようになりました。特にコロナ5類移行以後は制限が少なくなり、かなりの負担減となりました。2学期以降の始業式や終業式、卒業式などの式典は講堂に全校生徒を集めて実施しました。特に校歌斉唱の復活は感慨深いものがありました。一方でインフルエンザによって幾度か授業等が思うようにいかないことのあった一年でもあります。以下の予定した行事はすべて実施できました。

6/17	オープンデー
7/22～25	中一江田島キャンプ
7/22～24	中二牛窓キャンプ
9/30	体育祭
11/2～3	文化祭
12/16～17	中三街頭募金

12/24	クリスマス会
3/21～24	高二修学旅行 沖縄
3/22～25	中三修学旅行 長崎
8/15～28	フィリピン研修
12/23～30	カンボジア研修
3/26～4/3	アメリカ研修

②新教務システム

新しい教務システムを導入し欠席や遅刻については事務室への電話やメールを基本としていましたが、システムへ保護者が直接入力、すぐに教職員が確認できるようにしました。出席簿を廃止し、授業担当者が各授業でiPadへ出欠や欠課を入力し、学校からの行事や通知、お願い、通知表もシステムで配信し、ペーパーレス化を実現しました。事務室等の業務が軽減され、情報共有も早まりました。

トピックス

①カンボジア研修

2019年から企画が立案され、2020年からの実施が決定した後にコロナ禍で実施が見送られてきたカンボジア研修ですが、2022年12月に続き2023年12月にも研修を実施することができました。高校1・2学年の生徒12名を教職員2名とコーディネータ2名とで引率し、12月23日から7泊8日でシェムリアップ、バタンバン、プノンペン各地を訪問しました。

参加者は、現地で寄り添う人々の姿や現地の人々との交流を通して地域紛争の悲惨さや、貧困・格差の現状について実感すると共に、自分の生き方について考える機会となりました。参加した生徒は「授業やインターネットでは知り得ないことを知り、カンボジアで生きている人たちの考え方や姿勢に触れた。この研修でしか気づけなかったことに気づけたと思う。」と感想を述べていました。



②野球部 秋季県大会優勝・中国大会準優勝

2022年は、全国大会に初出場でしたが、2022年秋と2023年春・夏は一步及ばず県大会で敗れ、悔しい思いをしました。猛暑の夏に練習に励み、秋季県大会では4年振り11回目の優勝を勝ち取ることができました。

中国大会では惜しくも準優勝となりましたが、努力の成果は発揮できました。大量得点での勝利もあれば、大量失点からの

大逆転という波乱の展開もあり、まだまだ荒削りなところがチームの課題です。これからの練習で基礎練習を積み重ねていきたいと考えています。



③登山部 全国高等学校総合体育大会登山大会出場

6月に行われた県総体で優勝を果たして広島県の代表選手に選ばれた4名（高2：3名、高1：1名）が出場しました。北海道は想像以上に何もかもスケールが大きく、山々の美しさと過酷さに驚きつつも、これまでやってきた練習と仲間を信じ、各々が培ってきた力を精いっぱい出し切りました。結果は100点中98.4点で第8位となり、今回得られた反省を生かして来年度もまたこの場に立てるよう努力を続けていきます。



上智福岡中学高等学校

■ 主な施設等の状況

(2024年3月31日現在)

所在地	施設等	面積等		摘要
上智福岡中学高等学校 福岡県福岡市中央区輝国	校地		53,761.68㎡	中学校・高等学校が 利用
	中学棟	1棟	2,182.24㎡	
	体育館	1棟	2,711.00㎡	
	用務員居宅	1棟	80.32㎡	
	高校棟	1棟	2,329.00㎡	
	特別教室棟	1棟	3,290.32㎡	
	ブレハブ倉庫	1棟	210.50㎡	
	クラブハウス	1棟	277.16㎡	
	中央棟	1棟	2,492.51㎡	
	昇降口（中学）	1棟	79.75㎡	
	昇降口（高校）	1棟	73.15㎡	
	守衛室	1棟	4.32㎡	
	聖堂棟	1棟	359.35㎡	

■ 教職員数

(2023年5月1日現在)

学校区分	教員	職員	総計
上智福岡中学高等学校	69	10	79

※非常勤教職員を含む

■ 生徒数

(2023年5月1日現在)

学校区分	入学定員	収容定員	1年在籍者数	2年在籍者数	3年在籍者数	総計	収容定員充足率
上智福岡中学校	160	480	177 (87)	164 (81)	174 (87)	515 (255)	107.29%
上智福岡高等学校	160	480	189 (70)	156 (90)	161 (84)	506 (244)	105.42%

※（ ）内は女子生徒数

■ 入試状況（2024年入学者）

(2024年3月31日現在)

学校区分	受験者	合格者	入学者
上智福岡中学校	907 (466)	500 (250)	163 (79)

※（ ）内は女子生徒数

■ 卒業者数（2024年3月）

学校区分	卒業者数
上智福岡高等学校	160 (83)

※（ ）内は女子生徒数

■ 2024年3月卒業者 進路状況

(人)

学校区分	4年制大学				大学校	その他
	国公立大学	私立大学	うち上智大学	海外大学		
上智福岡高等学校	23	96	27	3	1	1

※2024年3月31日現在

2023年度事業報告（総括）

2023年度はコロナの影響もほとんどなくなり、予定していた行事を滞りなく行うことができました。

入学式は出席できる保護者の人数を制限して予定通り行い、入学後の中学1年生を対象にしたオリエンテーション合宿も昨年に引き続き実施しました。6月に行われた体育祭は、一人でも多くの方に観覧していただけるように、応援合戦以外の種目は時間をずらして中学生、高校生別に実施しました。10月に行われた文化祭は、人数制限を完全になくして開催しましたが、コロナ前を上回る多くの方が来場されました。いずれの行事も多くの方の前で日頃の成果を発表できたことは、生徒の大きな成長につながりました。中学3年生の語学研修は4年ぶりに海外で実

施しました。以前はオーストラリアのブリスベンに行っていましたが、フィリピンのセブ島に変更になりました。昨年は国内での実施だったので、国内とは違った雰囲気の中、様々なプログラムを通して、英語力の向上はもちろんのこと、現地の人々の生活にも触れることができ、とても充実した研修となりました。高校2年生は、東京方面への修学旅行を通して、大学や企業を訪問し、将来の進路選択の一助になりました。

その他、希望者を対象にしたカンボジアスタディツアーや野宿者の方へのボランティア活動等、ほとんどのプログラムが再開され、以前にも増して「For Others, With Others」の精神を体現できる一年となりました。

トピックス

①海外語学研修

中学3年生はフィリピンのセブ島を訪れました。いわゆる「リゾート地」という印象ですが、そのイメージを覆す濃い経験が多かったです。

市内観光では、マゼランクロス／サントニーニョ教会／サンペトロ要塞の3か所を訪れました。セブ島の歴史やキリスト教との関係を知ることはもちろん、子どもたちがお土産や水を買っており、生徒たちは日本では見ない光景に驚き、戸惑いを隠せませんでした。



また、パシル魚市場周辺のスラム街を現地の子どもたちとともに散策しました。日本に住む私たちにとってスラム街の生活環境は耐えうる場所ではないでしょう。しかし、そこは活気あふれた町で、住む方は屈託のない笑顔で迎えてくださいました。テレビや写真だけで作られる偏見でなく、出向いて自分の目で見て感じることで、貴重な経験となりました。

イエズス会の学校「Ateneo de Cebu」ではペアで交流を行いました。フィリピンのホスピタリティいっぱい時間を過ごす



ことができ、生徒たちはセブ島で新たな人のつながりをもつことができました。現在も連絡をとり合っている生徒もいるようで、素敵な出会いに感謝します。

今回の語学研修では、英語しか使えない場面が多くあり、緊張しつつもそのときを楽しみ、生徒たちは英語を用いたコミュニケーションに自信を持つことができました。また、社会問題にも目を向け、「本当の幸せ」とは何なのかを考えるきっかけとなりました。

②釜ヶ崎ボランティア

今年度はコロナ禍で長く活動を控えていた釜ヶ崎ボランティアを再開しました。釜ヶ崎ボランティアは男子生徒・女子生徒それぞれ3日間ずつ、年末年始に釜ヶ崎を訪問し、奉仕活動を行うプログラムです。現地での活動は、日ごろ活動をしておられるボランティア団体の活動に参加させていただきました。生徒たちは夜回りや炊き出しを通し、厳しい生活を余儀なくされた方々の生活に触れました。日雇い労働者の方々がどのような生活をされているのか、どのような場所で働き、どのような場所で眠るのかを知り、動揺する生徒も見られましたが、実情を知ったことで、日雇い労働者の方々に対する怖さがなくなったという生徒も多かったです。プログラムの途中では偶然、栄光学園の生徒とも活動を共にする時間があり、お互いの考えや感じたことを共有する時間を持つことができました。3日間の中で、「知らない」ということでどれほどのバイアスがかかってしまうのか、また反対に、「知っている」からこそ相手にまっすぐに向き合うことができるのだ、ということを感じた事ができたようでした。



上智学院の財務諸表をご案内する前に学校法人会計の特殊性と、株式会社で適用されている企業会計との違いについてご説明いたします。

学校法人会計基準について

1. 学校法人会計基準とは

学校法人は、目的とする教育研究活動を行うにあたって必要な施設や設備、経営に必要な財産を持つために、自ら調達した資金の他に国または地方公共団体から経常費の補助を受けています。当該補助金の交付を受けている学校法人は、私立学校振興助成法の定めにより、一定の会計ルールに則った会計処理と計算書を作成し、公認会計士または監査法人による監査を受けて、所轄庁に届け出ることが義務付けられています。この一定の会計ルールが「学校法人会計基準」となります。

2. 企業会計との違い

企業は利益の追求を目的としていることから、企業会計は資本の投下・回収という営利活動の成果と財政状態を利害関係者に開示することを目的としています。

一方、学校法人は教育研究活動という極めて公共性の高い事業を遂行することを目的としており、この教育研究活動を円滑に遂行するために、財政の安定と永続性を保つことが求められています。そのため学校法人会計は、企業会計のような「損益」の開示ではなく、今後の活動を継続的且つ安定的に遂行するため、収支の均衡の状況と財政の状態を正確に捉えることを目的としています。

3. 計算書について

上記の目的のため、「学校法人会計基準」に基づき、「資金収支計算書」、「事業活動収支計算書」、「貸借対照表」の作成が義務付けられています。

(1) 資金収支計算書

当該会計年度に行った諸活動に対応する全ての資金の動きを記録することによって、当該年度の収入と支出の内容を明らかにすると共に、支払資金（現預金）の顛末を示すものです。

(2) 事業活動収支計算書

当該会計年度の事業活動ごとの収支の内容と均衡状態を明確にし、経営状況を表すものです。

学校法人の活動を ①教育活動 ②教育活動以外の経常的な活動 ③それ以外の活動（特別収支）に分けて、それぞれの収支差額を計算しています。

その合計を、「基本金組入前当年度収支差額」として明記し、そこから基本金組入額を控除したものが当年度収支差額となります。

収支の均衡の状態は、「当年度収支差額」で判断します。一般的に学校法人会計では収支が均衡していることを理想としています。

＜基本金とは＞

学校法人が諸活動の計画に基づき、教育研究の維持・充実に必要な資産を継続的に保持するための金額であり、以下のとおり、第1号基本金から第4号基本金まであります。

- ・第1号基本金…設立や規模の拡大若しくは教育の充実向上のために取得した固定資産の額
- ・第2号基本金…将来取得する固定資産に充てる金銭その他の資産の額
- ・第3号基本金…基金として継続的に保持し、運用する金銭その他の資産の額
※基金の元本から生じる果実は教育研究活動に使用されます。
- ・第4号基本金…恒常的に保持すべき資金
※円滑な運営に必要な運転資金を常時保持するため、一定額の資金を基本金とします。

(3) 貸借対照表

期末（年度末）における資産・負債・純資産（基本金及び収支差額）を表記し、財政状態を明らかにして健全性・安定性を示すものです。

2023年度決算の概要

(1) 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

科 目	予算	決算	差異 (決算-予算)
学生生徒等納付金	19,245	19,087	△ 158
手数料	988	1,051	63
寄付金	718	575	△ 143
経常費等補助金	4,184	4,280	96
付随事業収入	906	836	△ 70
雑収入	1,018	1,113	95
教育活動収入計	27,060	26,941	△ 118
人件費	15,407	15,442	35
教育研究経費	10,465	9,970	△ 495
管理経費	1,903	1,907	4
教育活動支出計	27,775	27,319	△ 456
教育活動収支差額	△ 715	△ 378	337
受取利息・配当金	719	1,745	1,026
その他の教育活動外収入	450	471	21
教育活動外収入計	1,169	2,216	1,046
借入金等利息他	83	82	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	83	82	0
教育活動外収支差額	1,086	2,133	1,047
経常収支差額	371	1,755	1,384

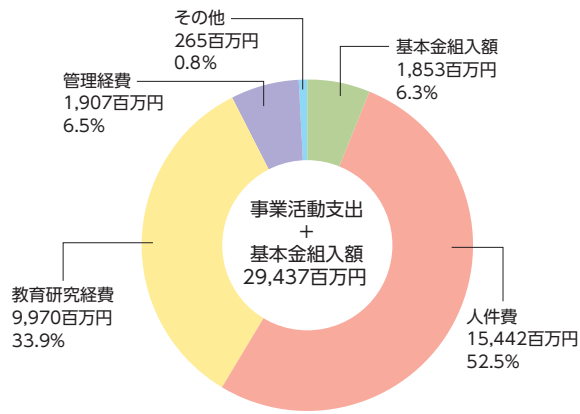
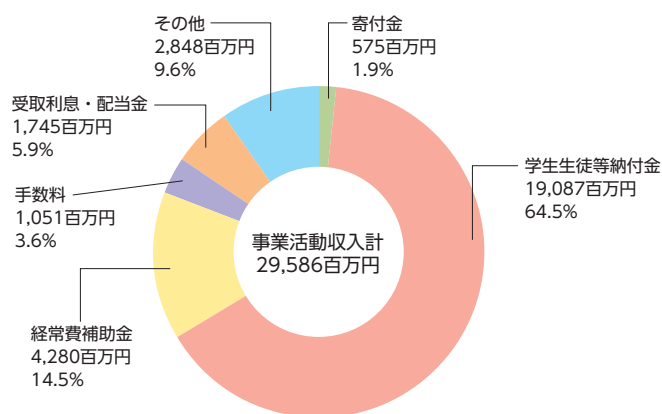
科 目	予算	決算	差異 (決算-予算)
資産売却差額	0	118	118
その他の特別収入	131	311	180
特別収入計	131	429	298
資産処分差額	318	132	△ 186
その他の特別支出	0	51	51
特別支出計	318	182	△ 135
特別収支差額	△ 186	247	433
予備費	(226)	0	0
基本金組入前当年度収支差額	185	2,002	1,817
基本金組入額合計	△ 1,960	△ 1,853	107
当年度収支差額	△ 1,775	149	1,924
前年度繰越収支差額	△ 10,037	△ 11,328	△ 1,291
基本金取崩額	192	204	12
翌年度繰越収支差額	△ 11,619	△ 10,974	645

(参考)

事業活動収入計	28,360	29,586	1,226
事業活動支出計	28,175	27,584	△ 591

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

※予備費の上限（ ）内は使用額、下段は残高です。使用額は使用した科目の予算額に加算されています。



概要

2023年度の事業活動収支決算は、基本金組入前当年度収支差額が予算比1,817百万円増加し、基本金組入額は予算比107百万円減少したため、当年度収支差額は予算比1,924百万円増加しました。

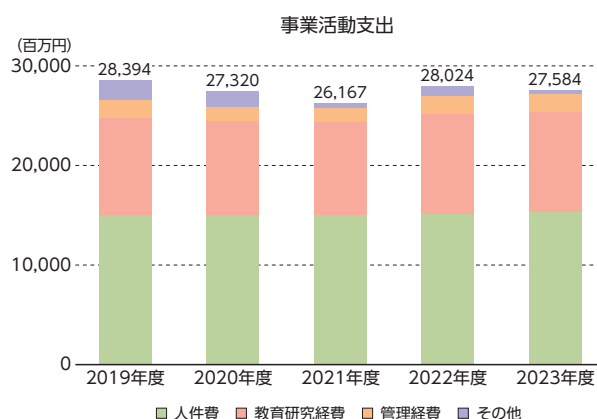
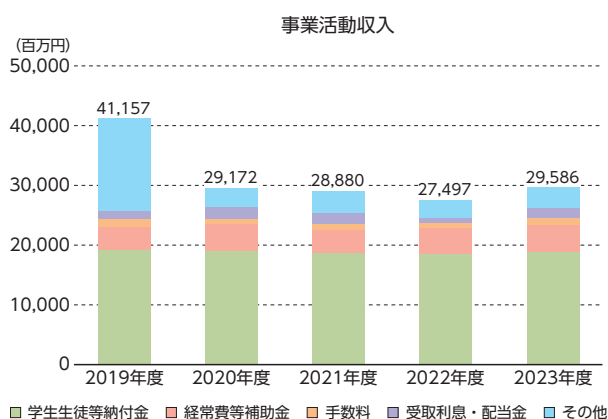
また、教育活動収支では、手数料や経常費等補助金が増加した一方、支出面で教育研究経費が減少した結果、収支差額は△378百万円となり、予算比337百万円の増加となりました。教育活動外収支では、受取利息・配当金の増加により収支差額が2,133百万円となり、予算比1,047百万円の増加となりました。特別収支では、特別収入が有価証券売却差額の発生等により298百万円増加する一方、特別支出が135百万円減少したことにより、収支差額は予算比433百万円増加し247百万円となりました。

過去5年間の推移

(単位：百万円)

科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生生徒等納付金	19,113	19,220	18,712	18,587	19,087
手数料	1,221	1,048	902	974	1,051
寄付金	659	705	908	516	575
経常費等補助金	3,995	4,086	4,006	4,248	4,280
付随事業収入	874	668	640	725	836
雑収入	959	994	1,172	1,081	1,113
教育活動収入計	26,821	26,721	26,340	26,131	26,941
人件費	14,956	15,063	15,150	15,213	15,442
教育研究経費	9,686	9,341	9,031	10,064	9,970
管理経費	1,763	1,458	1,549	1,833	1,907
徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	26,405	25,862	25,730	27,109	27,319
教育活動収支差額	416	859	610	△ 978	△ 378
受取利息・配当金	1,409	1,759	1,657	678	1,745
その他の教育活動外収入	450	459	485	461	471
教育活動外収入計	1,859	2,218	2,142	1,140	2,216
借入金等利息	148	131	115	98	82
その他の教育活動外支出	4	0	0	0	0
教育活動外支出計	152	131	115	98	82
教育活動外収支差額	1,707	2,087	2,027	1,041	2,133
経常収支差額	2,123	2,946	2,637	63	1,755
資産売却差額	12,247	0	97	95	118
その他の特別収入	230	233	301	131	311
特別収入計	12,477	233	398	225	429
資産処分差額	1,250	506	320	813	132
その他の特別支出	587	821	2	4	51
特別支出計	1,837	1,327	322	817	182
特別収支差額	10,640	△ 1,094	76	△ 591	247
基本金組入前当年度収支差額	12,763	1,852	2,713	△ 528	2,002
基本金組入額合計	△ 8,417	△ 958	△ 2,336	△ 2,933	△ 1,853
当年度収支差額	4,346	894	377	△ 3,460	149
前年度繰越収支差額	△ 14,464	△ 10,116	△ 8,571	△ 8,123	△ 11,328
基本金取崩額	2	650	71	256	204
翌年度繰越収支差額	△ 10,116	△ 8,572	△ 8,123	△ 11,328	△ 10,974
(参考)					
事業活動収入計	41,157	29,172	28,880	27,497	29,586
事業活動支出計	28,394	27,320	26,167	28,024	27,584

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。



※2019年度には、市谷キャンパスの資産売却差額12,100百万円が含まれています。

(2) 資金収支計算書

(単位：百万円)

収入の部				支出の部			
科 目	予算	決算	差異 (決算-予算)	科 目	予算	決算	差異 (決算-予算)
学生生徒等納付金収入	19,245	19,087	△ 158	人件費支出	15,461	15,486	26
手数料収入	988	1,051	63	教育研究経費支出	7,896	7,459	△ 438
寄付金収入	772	681	△ 90	管理経費支出	1,688	1,655	△ 34
補助金収入	4,197	4,336	139	借入金等利息支出	83	82	0
資産売却収入	3,000	4,448	1,448	借入金等返済支出	993	993	0
付随事業・収益事業収入	1,356	1,286	△ 70	施設関係支出	1,024	330	△ 694
受取利息・配当金収入	719	1,745	1,026	設備関係支出	727	950	223
雑収入	1,018	1,138	120	資産運用支出	9,653	13,547	3,893
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	534	860	327
前受金収入	4,523	4,499	△ 24	予備費	(226)		
その他の収入	6,732	6,858	126		0		0
資金収入調整勘定	△ 5,087	△ 5,113	△ 26	資金支出調整勘定	△ 523	△ 1,372	△ 849
前年度繰越支払資金	9,742	9,778		翌年度繰越支払資金	9,668	9,803	135
収入の部合計	47,205	49,794	2,589	支出の部合計	47,205	49,794	2,589

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

※予備費の上段（ ）内は使用額、下段は残高です。使用額は使用した科目の予算額に加算されています。

概要

2023年度の資金収支の規模は、49,794百万円で予算比2,589百万円の増加となりました。資金収入では、資産売却収入と受取利息・配当金収入が合計で予算比2,474百万円増加し、資金支出では、資産運用支出が予算比3,893百万円増加しました。これらの結果、翌年度繰越支払資金は前年度比25百万円増加し、予算比135百万円の増加となりました。

過去5年間の推移

収入の部						支出の部					
(単位：百万円)						(単位：百万円)					
科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生生徒等納付金収入	19,113	19,220	18,712	18,587	19,087	人件費支出	14,835	14,900	15,230	15,259	15,486
手数料収入	1,221	1,048	902	974	1,051	教育研究経費支出	7,067	6,521	6,391	7,477	7,459
寄付金収入	770	782	989	571	681	管理経費支出	1,523	1,217	1,289	1,586	1,655
補助金収入	4,019	4,143	4,139	4,261	4,336	借入金等利息支出	148	131	115	98	82
資産売却収入	17,488	2,630	3,300	2,558	4,448	借入金等返済支出	4,670	1,206	1,315	1,205	993
付随事業・収益事業収入	1,325	1,119	1,090	1,175	1,286	施設関係支出	9,747	895	599	689	330
受取利息・配当金収入	1,409	1,759	1,657	678	1,745	設備関係支出	976	941	865	603	950
雑収入	959	1,000	1,206	1,092	1,138	資産運用支出	18,643	11,994	13,925	8,662	13,547
借入金等収入	1,600	500	0	0	0	その他の支出	1,024	806	2,361	953	860
前受金収入	4,477	4,001	4,139	4,541	4,499	資金支出調整勘定	△ 716	△ 527	△ 487	△ 505	△ 1,372
その他の収入	13,534	7,123	9,282	7,566	6,858	翌年度繰越支払資金	9,284	9,469	8,540	9,778	9,803
資金収入調整勘定	△ 7,556	△ 5,056	△ 4,741	△ 4,740	△ 5,113	支出の部合計	67,200	47,553	50,143	45,804	49,794
前年度繰越支払資金	8,841	9,284	9,468	8,540	9,778						
収入の部合計	67,200	47,553	50,143	45,804	49,794						

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

(3) 貸借対照表

(単位：百万円)

【資産の部】				【負債の部】			
科 目	2023年度	2022年度	増 減	科 目	2023年度	2022年度	増 減
固定資産	155,300	153,851	1,449	固定負債	14,942	15,907	△ 964
有形固定資産	87,976	89,425	△ 1,449	長期借入金	8,217	9,105	△ 888
土地	25,732	25,663	68	退職給与引当金	6,708	6,752	△ 44
建物	44,931	46,647	△ 1,716	長期未払金	17	49	△ 32
構築物	1,894	1,925	△ 31	流動負債	7,463	6,753	710
教育研究用機器備品	3,049	2,958	91	短期借入金	888	993	△ 105
管理用機器備品	145	151	△ 6	未払金	1,133	370	763
図書	12,145	12,026	118	前受金	4,501	4,473	28
車両	19	26	△ 6	預り金	896	845	52
建設仮勘定	61	29	32	仮受金	45	72	△ 27
特定資産	61,850	58,917	2,933	負債の部合計	22,406	22,660	△ 254
第2号基本金引当特定資産	2,144	2,213	△ 70	【純資産の部】			
第3号基本金引当特定資産	16,882	16,563	319	基本金	154,783	153,135	1,649
退職給与引当特定資産	6,617	6,673	△ 56	第1号基本金	133,884	132,485	1,399
減価償却引当特定資産	32,760	30,485	2,275	第2号基本金	2,144	2,213	△ 70
その他の引当特定資産	3,447	2,983	464	第3号基本金	16,882	16,563	319
その他の固定資産	5,473	5,508	△ 35	第4号基本金	1,874	1,874	0
流動資産	10,915	10,616	299	繰越収支差額	△ 10,974	△ 11,328	353
現金預金	9,803	9,778	25	翌年度繰越収支差額	△ 10,974	△ 11,328	353
その他の流動資産	1,112	838	274	純資産の部合計	143,809	141,807	2,002
資産の部合計	166,215	164,467	1,748	負債及び純資産の部合計	166,215	164,467	1,748

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

概要

前年度と比較すると、有形固定資産では、土地が受贈により68百万円増加した一方、建物及び構築物が減価償却により1,747百万円減少しました。特定資産では、第3号基本金引当特定資産が319百万円、減価償却引当特定資産は2,275百万円増加しました。なお、減価償却額累計額55,051百万円に対し59.5%の引当となっています。その他の固定資産には収益事業元入金4,345百万円が含まれています。資産の部の合計は、前年度末より1,748百万円増加し、166,215百万円となりました。

一方、負債の部では、施設設備にかかわる新規借入はなく、2023年度に返済する短期借入金への振替により、長期借入金は888百万円減少しました。純資産の部では、基本金が1,649百万円増加し154,783百万円となり、繰越収支差額は353百万円増加し△10,974百万円となりました。

過去5年間の推移

資産の部

(単位：百万円)

科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
固定資産	153,968	154,456	156,619	153,851	155,300
流動資産	10,167	10,336	9,628	10,616	10,915
資産の部の合計	164,135	164,792	166,247	164,467	166,215

負債及び純資産の部

(単位：百万円)

科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
固定負債	19,236	18,483	17,046	15,907	14,942
流動負債	7,130	6,688	6,865	6,753	7,463
負債の部合計	26,366	25,171	23,912	22,660	22,406
基本金	147,885	148,193	150,458	153,135	154,783
第1号基本金	129,841	129,880	131,855	132,485	133,884
第2号基本金	2,458	2,507	2,496	2,213	2,144
第3号基本金	13,712	13,932	14,233	16,563	16,882
第4号基本金	1,874	1,874	1,874	1,874	1,874
翌年度繰越収支差額	△ 10,116	△ 8,572	△ 8,123	△ 11,328	△ 10,974
純資産の部合計	137,769	139,621	142,335	141,807	143,809
負債及び純資産の部合計	164,135	164,792	166,247	164,467	166,215

貸借対照表



2023年度特別予算執行報告

(単位：百万円)

区 分	企画概要	予算執行額
ICT整備関係	教育基盤整備事業	236
	情報基盤整備事業	189
	その他	172
キャンパス計画関係	メインストリート・外構	193
	14号館（旧メリノール教会）	106
	その他	73
研究推進・支援関係	研究装置（施設設備補助金）及び貴重図書	70
	研究分析ツールSciValの導入	7
	その他	4
施設等修繕	L号館東面外壁補修工事	34
	PS1受変電設備NW-Ry更新工事	20
	その他	22
一般広報関係	公式サイトリニューアルに連動した動画等コンテンツ制作	38
	本学のブランド力向上を目的としたエリアプロモーション	29
	その他	7
教育関係	学生証ICカード化	13
	大学機関別認証評価	10
	その他	48
図書・図書資料取得	中央図書館 図書費・図書資料費	46
施設等維持管理関係	秦野キャンパス他 敷地測量・境界確定業務	11
	四谷キャンパス防犯カメラ設置（10号館）	8
	その他	19
グローバル化推進	オーストラリア国立大学との国際協働学習プログラム開発	14
	日本経済新聞社「アジアの未来」	11
	その他	9
一般運営費	郵便室管理業務委託	8
	臨時職員・嘱託職員管理業務の委託	8
	その他	10
研究費関係	私立大学研究ブランディング事業（人間の安全保障研究所）	18
	その他	3
学生生徒募集関係	オープンキャンパスのライブ配信	5
	応用データサイエンス学位プログラムの学生募集広報	3
	その他	2
公開講座関係	国際公務員、国際協力に関する公開講座	6
ブランディング強化関係	ソフィア・アーカイブズ内展示リニューアル設計・施工	4
図書管理維持関係	図書館ホームページ改修と動画制作	2
	中央図書館閲覧席（椅子）の張り替え	2
寄宿舍・寮関係	祖師谷寮の防災備蓄品（水・食料）更新	2
	アルベ寮の防災備蓄品（水・食料）更新	1
ステークホルダー連携	SOPHIA未来募金WEBサイトコンテンツ制作	1
合 計		1,461

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

財務比率の推移

(1) 事業活動収支計算関連比率の推移

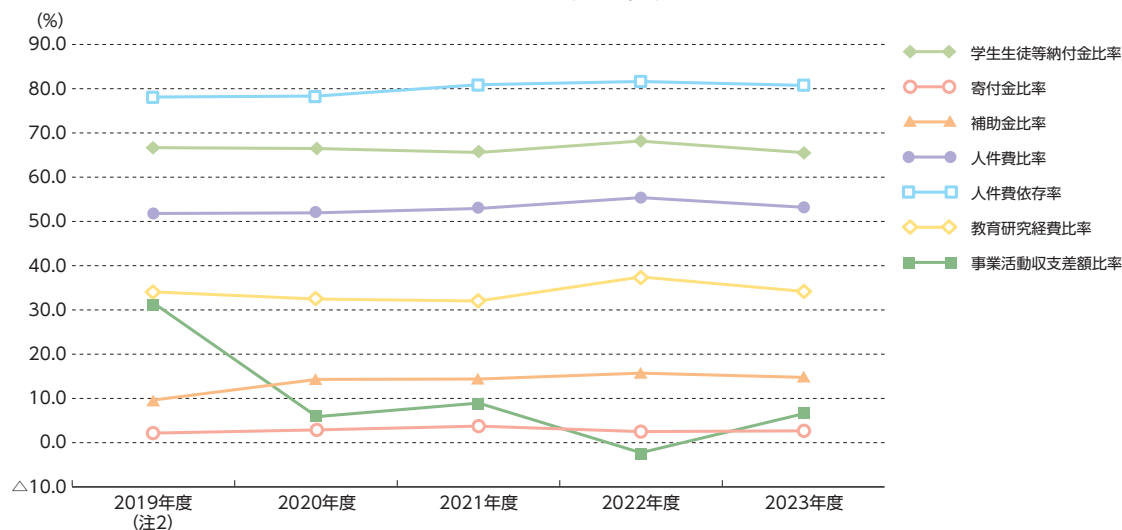
(単位：%)

財務比率	算式 (×100)	評価 (注1)	2019年度 (注2)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	—	66.6	66.4	65.7	68.2	65.5
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	△	2.1	3.0	3.7	2.3	2.8
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収入の寄付金}}{\text{経常収入}}$	△	2.3	2.4	3.2	1.9	2.0
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	9.8	14.2	14.3	15.5	14.7
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収入の補助金}}{\text{経常収入}}$	△	13.9	14.1	14.1	15.6	14.7
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	52.1	52.1	53.2	55.8	53.0
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	▼	78.3	78.4	81.0	81.8	80.9
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	33.8	32.3	31.7	36.9	34.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	6.1	5.0	5.4	6.7	6.5
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	▼	0.5	0.5	0.4	0.4	0.3
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	20.5	3.3	8.1	10.7	6.3
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	▼	86.7	96.8	98.6	114.1	99.5
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△	7.4	10.2	9.3	0.2	6.0
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△	31.0	6.3	9.4	△ 1.9	6.8

注1：評価 △：高い値が良い ▼：低い値が良い —：どちらともいえない

注2：2019年度には、市谷キャンパスの資産売却差額12,101百万円が含まれています。

主たる比率の推移



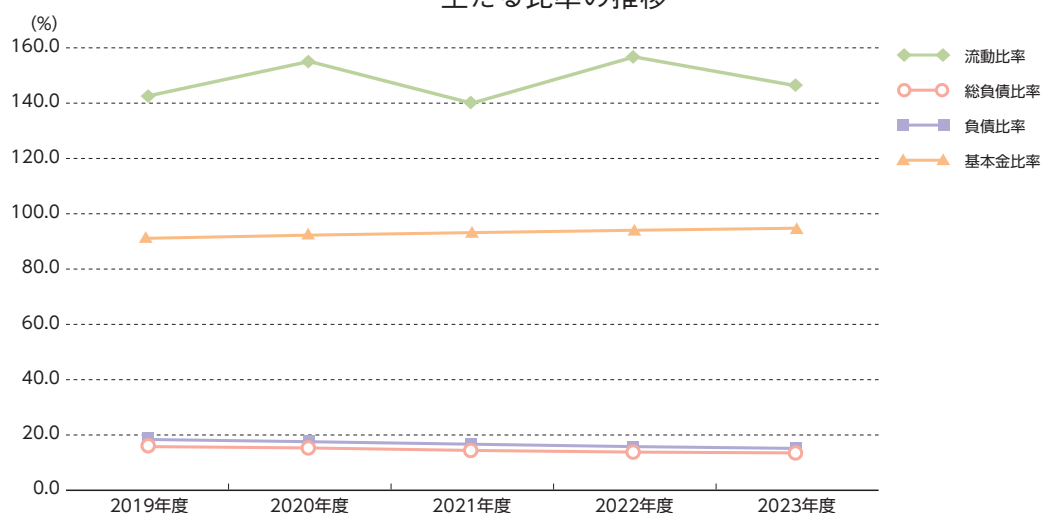
(2) 貸借対照表関連比率の推移

(単位：%)

財務比率	算式 (×100)	評価 (注1)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	93.8	93.7	94.2	93.5	93.4
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	△	6.2	6.3	5.8	6.5	6.6
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債+純資産}}$	▼	11.7	11.2	10.3	9.7	9.0
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{負債+純資産}}$	▼	4.3	4.1	4.1	4.1	4.5
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債+純資産}}$	△	83.9	84.7	85.6	86.2	86.5
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債+純資産}}$	△	△ 6.2	△ 5.2	△ 4.9	△ 6.9	△ 6.6
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	▼	111.8	110.6	110.0	108.5	108.0
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	▼	98.1	97.7	98.3	97.6	97.8
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	142.6	154.5	140.2	157.2	146.3
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	16.1	15.3	14.4	13.8	13.5
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	▼	19.1	18.0	16.8	16.0	15.6
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産-外部負債}}{\text{経常支出}}$	△	181.8	200.4	217.8	215.8	225.8
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	△	207.4	236.0	206.4	218.6	217.8
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	88.3	90.5	91.3	88.0	89.3
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	91.6	92.3	93.2	94.0	94.6

注1：評価 △：高い値が良い ▼：低い値が良い —：どちらともいえない

主たる比率の推移



資産運用の状況

2023年度は欧米の金融引き締めの一環としての累積的効果が实体经济に及ぼす影響を注視し、収益性と安全性に十分配慮した分散投資の徹底を図り、安定的な収入を上げることを目指して資産運用に取り組めました。各国中銀の早期利下げ観測が後退する中、世界的に金利が高止まりし、ヘッジ外債は昨年度に引き続き厳しい運用環境となりました。一方グローバル株式は、企業業績の好調などを背景に株価が大幅に上昇し、採用しているファンドから予算計上以上の運用益を確保しました。またインフレ対応を含め伝統資産との相関の低い低流動性資産やオープン外債（インハウス運用）からも安定的な収入を確保しました。

結果、2023年度の資産運用収益は18億5百万円となり、内訳は受取利息・配当金が17億45百万円、有価証券売却差額が118百万円、有価証券処分差額が△78百万円、為替差益が21百万円です。

2024年度は、為替ヘッジコストの高止まりから期待リターンの改善が見込みにくいヘッジ外債を削減するとともに、良好なクーポン（インカム）収入が期待できる水準まで利回りが上昇したオープン外債を為替の水準を考慮しつつさらに積み増すなど、引き続き安定的な収入を上げることを目指して資産運用に取り組めます。

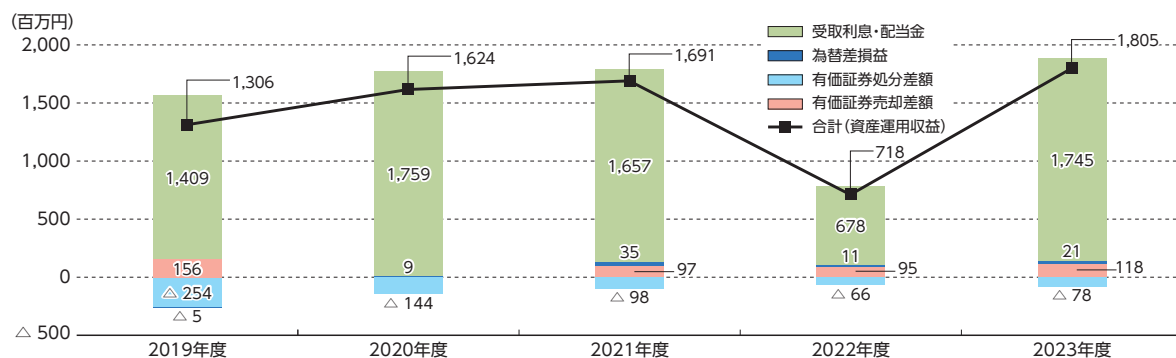
上智学院では、建学の理念と統合的な投資方針を取り入れ、2015年より署名している「国連責任投資原則（PRI）」に基づき、社会的リターン（サステナビリティ向上）と投資リターンの両立を目指して、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮した投資を引き続き推進いたします。

資産運用結果の推移

（単位：百万円）

区 分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
受取利息・配当金	1,409	1,759	1,657	678	1,745
有価証券売却差額	156	0	97	95	118
有価証券処分差額	△ 254	△ 144	△ 98	△ 66	△ 78
為替差損益	△ 5	9	35	11	21
合計（資産運用収益）	1,306	1,624	1,691	718	1,805

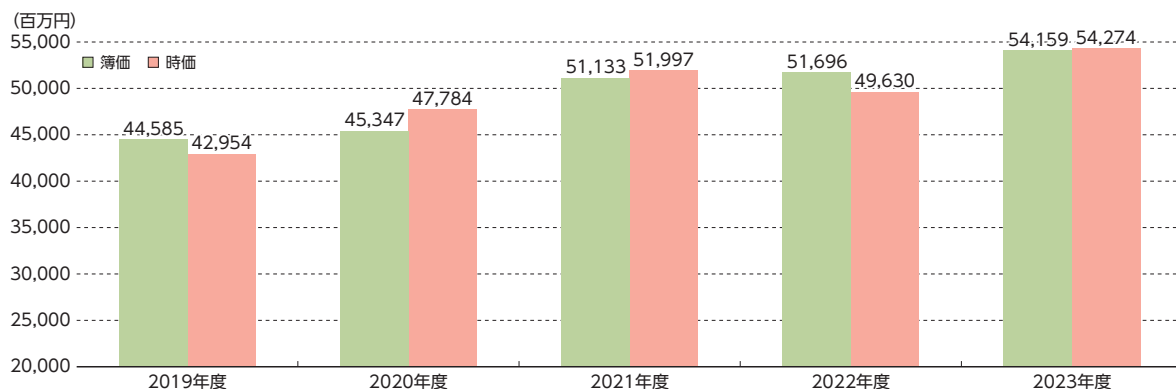
注：「受取利息・配当金」は基本金運用収入を含む額である。



有価証券の時価の推移

（単位：百万円）

区 分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
簿価	44,585	45,347	51,133	51,696	54,159
時価	42,954	47,784	51,997	49,630	54,274
差額（時価－簿価）	△ 1,631	2,437	864	△ 2,066	115



収益事業の状況

本学は所有する建物の一部にテナントを入れることで家賃収入を得ています。この場合、私立学校法に基づく収益事業（不動産貸付業）に該当するため、企業会計に基づく会計処理と計算書類（損益計算書、貸借対照表）の作成が義務付けられています。

損益計算書

(単位：百万円)

区 分	2023年度 (A)	2022年度 (B)	増減 (A - B)
売上高	1,489	1,490	△ 1
販売費・一般管理費	748	761	△ 13
営業外収益	0	1	△ 1
営業外費用	14	16	△ 2
学校会計繰入金支出前損益	727	714	13
学校会計繰入金支出	450	450	0
税引前当期純損益	277	264	13
法人税、住民税及び事業税	95	88	7
当期純損益	182	176	6

貸借対照表

(単位：百万円)

区 分	2023年度 (A)	2022年度 (B)	増減 (A - B)
流動資産	2,236	1,885	351
固定資産	6,363	6,659	△ 296
資産合計	8,599	8,544	55
流動負債	561	388	173
固定負債	3,164	3,464	△ 300
負債合計	3,725	3,852	△ 127
純資産合計	4,874	4,693	181
負債・純資産合計	8,599	8,544	54

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

概要

〈損益計算書〉

売上高及び販売費・一般管理費とも前年度と比較してほぼ同額で、売上高は1,489百万円、販売費・一般管理費は748百万円となりました。税引前当期利益は277百万円となり、前年度比13百万円の増加となりました。なお、当期は学校法人会計へ450百万円を繰り入れています。繰入金は、教育研究活動に活用していく計画です。

〈貸借対照表〉

流動資産は普通預金が増加し、固定資産は減価償却により減少しました。固定負債の減少は、借入金の減少によるものです。

その他

借入金明細表 (令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

借 入 先			期末残高 (単位：円)	利率 (%)	返済期限 (年月日)	摘 要 (使 途)
長 期 借 入 金	公的金融機関	日本私立学校振興・共済事業団				
		22 一 般 施 設	259,980,000	1.60	R.12.9.15	上智大学目白聖母キャンパス 1号館新築 (学)聖母学園からの継承分
		23 特 別 施 設	1,317,890,000	1.70	R.13.9.15	上智大学祖師谷国際交流会館取得
		26 一 般 施 設	1,333,300,000	0.90	R.16.9.15	上智大学新棟（6号館）建設
		27 一 般 施 設	1,588,840,000	0.80	R.17.9.15	上智大学新棟（6号館）建設
		30 特 別 施 設	1,166,620,000	0.80	R.20.9.15	信濃町国際学生寮建設
		23 一 般 施 設	50,540,000	1.60	R.13.9.15	上智福岡中学校・高等学校校舎改修 及び新棟建設
		23 一 般 施 設	78,890,000	0.50	R.13.9.15	上智福岡中学校・高等学校校舎改修 及び新棟建設
		24 一 般 施 設	26,040,000	1.50	R.14.3.15	上智福岡中学校・高等学校校舎改修 及び新棟建設
		27 一 般 施 設	605,000,000	0.50	R.17.9.15	栄光学園中学校・高等学校新校舎建設
		小 計	6,427,100,000			
	市中金融機関	(株)みずほ銀行	275,000,000	0.407	R.12.7.10	学生緊急支援資金
		(株)広島銀行	25,000,000	0.31	R.8.3.2	広島学院落石等危険箇所対策工事費
		(株)三井住友銀行	0	0.73	R.6.10.31	六甲学院中学校・高等学校施設復旧・ 設備投資
		小 計	300,000,000			
	その他	宗教法人カトリックイエズス会	1,400,000,000	0.015	R.21.3.31	上智大学14号館用土地建物購入 (メリノール)
		宗教法人カトリックイエズス会	90,000,000	0.00	R.14.3.25	六甲学院中学校・高等学校校舎改築
		小 計	1,490,000,000			
	計		8,217,100,000			
短 期 借 入 金	公的金融機関		0			
		小 計	0			
	市中金融機関		0			
		小 計	0			
	その他		0			
		小 計	0			
	返済期限が1年以内の長期借入金		888,278,000			
	計		888,278,000			
合 計		9,105,378,000				

財務の概要

学校法人の出資による会社に係る事項

当学校法人の出資割合が総出資額の2分の1以上である会社の状況は次のとおりである。

名 称	株式会社ソフィアキャンパスサポート				
事 業 内 容	・建物及びその付属施設設備の清掃、警備、営繕、保守並びに管理業務 ・食品、清涼飲料水及び酒類の販売並びに販売管理業務 ・損害保険代理店業および生命保険の募集に関する業務 ・教育・事務用機器、計器、文房具類等の販売、仲介及び斡旋				
資 本 金 の 額	20,000,000 円 (400 株)				
学校法人の出資金額等及び当該会社の総株式等に占める割合並びに当該株式等の入手日	平成27年2月2日 20,000,000 円 (400株) 100%				
当期中に学校法人が受け入れた配当及び寄付の金額並びに学校法人との資金、取引等の状況	(単位：円)				
当該会社からの受入額	配当金	0	特別寄付金	63,000,000	
	現物寄付金	0	賃貸料	0	
	受取利息	0	雑収入	26,811,793	
当該会社への支払額	消耗品費	22,019,461	修繕費	180,193	
	委託費	748,622,870	会合費	3,626,475	
(単位：円)					
	期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高	
当該会社への出資金等	20,000,000	0	0	20,000,000	
当該会社への貸付金等	0	0	0	0	
当該会社への未払金	0	0	0	0	
当該会社からの借入金	0	0	0	0	
当該会社からの未収入金	0	0	0	0	
保証債務	なし				

名 称	ソフィアメディカルインフォ株式会社				
事 業 内 容	・医療機関向け多言語医療情報アプリの開発と医療機関等への普及 ・旅行代理店や旅行保険事業者を通して訪日外国人等への多言語医療情報提供アプリの普及促進 ・多言語情報システムに係る教育及びコンサルティング ・多言語情報アプリの企画、開発及び販売 等				
資 本 金 の 額	38,000,000円 (760 株)				
学校法人の出資金額等及び当該会社の総株式等に占める割合並びに当該株式等の入手日	平成30年10月1日 26,000,000 円 (520株) 68%				
当期中に学校法人が受け入れた配当及び寄付の金額並びに学校法人との資金、取引等の状況	(単位：円)				
当該会社からの受入額	配当金	0	特別寄付金	0	
	現物寄付金	0	賃貸料	0	
	受取利息	0			
当該会社への支払額			消耗品費	0	
(単位：円)					
	期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高	
当該会社への出資金等	26,000,000	0	0	26,000,000	
当該会社への貸付金等	0	0	0	0	
当該会社への未払金	0	0	0	0	
当該会社からの借入金	0	0	0	0	
当該会社からの未収入金	0	0	0	0	
保証債務	なし				

経営状況の分析等

■ 経営状況の分析（財務比率は2019～2023年度の5か年平均）

事業活動収支においては、経常収入に対する学生納付金比率は66.5%であり、他法人平均77.2%（※）と比較して約11ポイント低い値となっている。この値は、収入の多角化の観点から低い方が望ましいとされており、本学院の場合、資産運用収入が大きく（経常収入に対し5.1%、他法人平均2.0%）、これが反映された結果である。その反面、支出面における教育研究費比率（33.7%）は分母である経常収入に資産運用収入が含まれるため、他法人平均（35.2%）を下回る結果となっている。

その他、収入面では寄付金比率2.7%（他法人平均2.0%）、補助金比率13.4%（同11.0%）とそれぞれ他の大学法人の値を上回っており、収入の多角化が図られている。

一方、貸借対照表においては、資産のうち自己資本の割合を示す純資産構成比率は85.4%であり、経営基盤は安定しているといえるが、本業の収支を示す教育活動収支差額比率が低いため、経常収支差額比率は6.7%に留まっている（同6.8%）。

※ 他法人平均 … 一般社団法人日本私立大学連盟まとめ

学生収容定員10,000～19,999人／本学を含む16法人の2018～2022年度決算平均値

■ 経営上の成果と課題

2023年度は、資産運用において前年度を大幅に上回る運用益を確保できたことから総合的に収入超過の決算となり、教育研究環境の維持と拡充のために減価償却特定引当資産へ23億円の繰り入れを行うことができた。

2024年度は、物価の高騰等厳しい状況が見込まれるため、例年以上に経費の抑制を図り、2023年度に引き続き経常収支差額の目標値10億円の達成を図る。

■ 今後の方針・対応方策

経常収支差額目標値の恒常的な達成を実現するため、既存予算の見直しなど、様々な財政施策を推進しつつ、「グランドレイアウト3.0」に基づき、教育研究活動の活性化や学生支援の充実に向けた各種基金の拡充、老朽施設の改修やICT環境の向上に必要な財源確保のため、第3号基本金や減価償却引当特定資産の増額を図り、財政基盤の強化を進めることを方針としている。

学校法人上智学院が展開する主な事業会社

■ ソフィアキャンパスサポート

<https://sophia-cs.co.jp/>



ソフィアキャンパスサポートは学生・生徒、教職員へのサービス向上を目的に上智学院100%出資の事業会社として2015年2月2日に設立されました。事業部では損害保険、購買部、飲料自販機、学生寮・マンション紹介、卒業衣裳などの学生生活支援業務を、業務推進部では設備管理、修繕、清掃等のPM業務を遂行し、30以上の事業を展開しています。収益は上智学院に寄付され、学生・生徒への奨学金などに活用されています。

■ Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd.

<https://jp.sophia-ged.com/>



2019年5月1日にタイの首都バンコクに開設したSophia GED社（上智学院は最大出資者）では、上智大学の教育精神をベースにしつつ東南アジアでのネットワークを活かして、質の高い実践型のスタディーツアーをはじめとする、特色と個性ある教育・研修事業を展開しています。現在では特に日本の生徒・学生・社会人を対象として教育プログラム開発を行っておりますが、コロナ禍を契機としてオンライン事業の充実も図ってまいりました。渡航とオンラインを組み合わせたプログラムも開講するなど、コンテンツ内容の刷新も進めており、本学院設置校の学生・生徒のみならず、多くの方々が受講されています。



叡智が世界をつなく

学校法人 上智学院

SOPHIA SCHOOL CORPORATION



上智大学



上智大学短期大学部



栄光学園中学高等学校



広島学院中学校・高等学校



六甲学院中学校・高等学校



上智福岡中学高等学校



この印刷製品は植物由来の
インキで印刷されています



ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C023103